

官報

號外

明治四十四年三月八日

水曜日

印刷局

○第二十七回 帝國議會 衆議院議事速記録第十九號

明治四十四年三月七日(火曜日)午後一時九分開議

議事日程 第十八號 明治四十四年三月七日
午後一時開議

質問

一 米國官憲ノ在布邦人ニ加ヘタル不法行為ニ關スル質問(田中軍之助)
君提出

二 危險思想防止策ニ關スル質問(村松恒一)
君提出

三 正金銀行營業業務監督ニ關スル質問(水野正己)
君提出

四 言論出版ノ自由及藝術ノ取締ニ關スル質問(關和知)
君提出

五 所得稅法中改正法律案不提出ニ關スル第三質問(守屋此助)
君提出

六 藥品取締ニ關スル質問(綾部政兵衛)
君提出

七 貴族院令第六條ニ關スル質問(塚田啓太)
君提出

第一 電氣事業法案(政府提出)

第一讀會

第二 右議案ノ審查ヲ付託スヘキ委員ノ選舉

第三 大藏省預金部ノ利益金ヲ一般會計ニ繰入ルル件ニ關スル法律案(政府提出)

第一讀會

第四 右議案ノ審查ヲ付託スヘキ委員ノ選舉

第五 執達吏手数料規則中改正法律案(政府提出)

第一讀會

第六 右議案ノ審查ヲ付託スヘキ委員ノ選舉

第七 關稅法中改正法律案(政府提出)

第一讀會

第八 右議案ノ審查ヲ付託スヘキ委員ノ選舉

第九 賣藥稅法中改正法律案(政府提出)

第一讀會

第十 右議案ノ審查ヲ付託スヘキ委員ノ選舉

第十一 砂糖消費稅織物消費稅等ノ徵收ニ關スル法律案(政府提出)

第一讀會

第十二 右議案ノ審查ヲ付託スヘキ委員ノ選舉

第十三 朝鮮事業公債法案(政府提出)

第一讀會ノ續

第十四 朝鮮事業公債金特別會計法案(政府提出)

第一讀會ノ續

第十五 朝鮮鐵道用品資金會計法案(政府提出)

第一讀會ノ續

第十六 明治四十二年勅令第三百二十六號(承諾ヲ求ムル件)

(委員長報告)

第十七 明治四十三年勅令第三百二十七號(承諾ヲ求ムル件)

第十八 明治四十三年勅令第三百二十八號(承諾ヲ求ムル件)

第十九 明治四十三年勅令第三百二十九號(承諾ヲ求ムル件)

第二十 明治四十三年勅令第三百三十號(承諾ヲ求ムル件)

第二十一 明治四十三年勅令第三百三十一號(承諾ヲ求ムル件)

第二十二 明治四十三年勅令第三百三十三號(承諾ヲ求ムル件)

第二十三 明治四十三年勅令第三百三十六號(承諾ヲ求ムル件)

第二十四 明治四十三年勅令第三百三十七號(承諾ヲ求ムル件)

第二十五 明治四十三年勅令第三百三十八號(承諾ヲ求ムル件)

第二十六 明治四十三年勅令第四百六號(承諾ヲ求ムル件)

第二十七 朝鮮ニ施行スヘキ法令ニ關スル法律案(花井學藏)
君提出

第二十八 不動產登記法中改正法律案(政府提出)

第二十九 在外指定學校職員退隱料及遺族扶助料法中改正法律案(政府提出)

第三十 市町村立小學校教員退隱料及遺族扶助料法中改正法律案(政府提出)

第三十一 府縣立師範學校長俸給並公立學校職員退隱料及遺族扶助料法中改正法律案(政府提出)

第三十二 帝國學士院學術獎勵金特別會計法案(政府提出)

第三十三 會計檢查院法中改正法律案(政府提出)

第三十四 朝鮮總督府鐵道及通信官署ニ於テ取扱フ現金ノ出納ニ關スル法律案(政府提出)

第三十五 北海道鐵道敷設法中改正法律案(小橋榮太)
君提出

第三十六 普通選舉ニ關スル法律案(日向輝武君外) 第一讀會

第三十七 地租條例中改正法律案(大西五一) 第一讀會

第三十八 明治四十一年法律第三十七號中改正法律案(大西五一) 第一讀會

第三十九 明治四十一年法律第三十七號中改正法律案(熊本壽人) 第一讀會

第四十 鐵道敷設法中改正法律案(中村啓次郎君) 第一讀會

第四十一 水道條例中改正法律案(船谷義三君) 第一讀會

第四十二 刑ノ執行猶豫ニ關スル法律案(木村格) 第一讀會

第四十三 輕便鐵道法中改正法律案(吉植庄一郎君) 第一讀會

第四十四 鐵道敷設法中改正法律案(吉田虎之助君) 第一讀會

第四十五 御歷世 宮趾係表ニ關スル建議案(八木通郎君) 第一讀會

第四十六 名所舊蹟古墳墓保護ニ關スル建議案(八木通郎君) 第一讀會

第四十七 臺南水道敷設ニ關スル建議案(村上先君外) 第一讀會

議長(長谷場純孝君) 是ヨリ諸般ノ報告ヲ致シマス

(書記朗讀)

一政府ヨリ提出セラレタル議案左ノ如シ

大藏省預金部ノ利益金ヲ一般會計ニ繰入ルル件ニ關スル法律案

執達吏手数料規則中改正法律案

(第二號)明治四十四年度歳入歳出總豫算追加案

(特第一號)明治四十四年度特別會計歳入歳出豫算追加案

(第三號)明治四十四年度歳入歳出總豫算追加案

(特第二號)明治四十四年度各特別會計歳入歳出豫算追加案

(追第一號)豫算外國庫ノ負擔トナルヘキ契約ヲ爲スヲ要スル件

關稅法中改正法律案

賣藥稅法中改正法律案

砂糖消費稅織物消費稅等ノ徵收ニ關スル法律案

韓國鐵道會計所屬資金ノ繰入ニ關スル法律案

司法事務共助法案

明治三十九年法律第三十一號中改正法律案

議員ヨリ提出セラレタル議案左ノ如シ

臺南水道敷設ニ關スル建議案

提出者 村上 先君 中村 啓次郎君 山本 悌二郎君

齋藤 珪次君

東京市借地法案

提出者 高木 益太郎君 卜部 喜太郎君

鐵道敷設ニ關スル建議案

提出者 三浦 盛德君 高橋 嘉太郎君

遠藤 良吉君 齋藤 二郎君

前參議司法卿江藤新平表彰ニ關スル建議案

提出者 尾崎 行雄君 犬養 毅君

柴 四朗君 川原 茂輔君

大竹 貫一君 森久保 作藏君

東京市ニ關スル法律案

提出者 尾崎 行雄君 鳩山 和夫君

渡邊 勘十郎君 原田 十衛君

東京市ニ關スル法律案

提出者 福田 又一君 關 直彦君

肥 塚 龍君 稻茂 登三郎君

江間 俊一君 高木 益太郎君

人工降雨試驗ニ關スル建議案

提出者 早川 龍介君 松下 軍治君

日本海員接濟會國庫補助金増額ノ建議案

提出者 高橋 光威君 井上 敏夫君

安藤 新太郎君

貴族院ハ本院ノ送付ニ係ル左ノ議案ヲ可決シタル旨同院ヨリ通牒ヲ受領セリ

鐵道敷設法中改正法律案(政府提出)

鐵道敷設法中改正法律案(衆第三六號)(本院提出)

鐵道敷設法中改正法律案(衆第四六號)(本院提出)

鐵道敷設法中改正法律案(衆第四七號)(本院提出)

鈴木力君ヨリ朝鮮民團議員任期延長ニ關スル質問主意書ヲ提出セラレタリ

根本正君ヨリ領事館設置ニ關スル質問主意書ヲ提出セラレタリ

吉田虎之助君ヨリ淡水產漁業獎勵ニ關スル質問主意書ヲ提出セラレタリ

決算委員ノ補缺選舉ニ左ノ通り當選セラレタリ

第一部決算委員 木戸 豐吉君

一多木 次郎君ハ第二十七議會ニ對スル歳費辭退ノ旨届出タリ

(左ノ報告ハ朗讀ヲ經サルモ參照ノタメ茲ニ掲載ス)

一去二日議長ニ於テ選定シタル委員左ノ如シ

市制改正法律案外一件

尾崎 行雄君	齋藤 珪次君	長島 繁太郎君
戸狩 權之助君	村 上 先君	高橋 光威君
鷺田 土三郎君	菊池 侃二君	神前 修三君
河 上 英君	世良 靜一君	田中 定吉君
古賀 庸藏君	中倉 万次郎君	藏原 惟郭君
日野 國明君	福田 又一君	野添 宗三君
久保田 與四郎君	石田 仁太郎君	濱田 國松君
江間 俊一君	荒川 五郎君	齋藤 巳三郎君
安東 敏之君	田川 大吉郎君	花井 卓藏君
在外指定學校職員退隱料及遺族扶助料法中改正法律案外三件		
小山田 信藏君	粕谷 義三君	西澤 定吉君
松田 吉三郎君	川村 曄君	井上 傳作朗君
富島 暢夫君	庄野 金十郎君	三土 忠造君
坂元 英俊君	高木 正年君	鹿島 秀磨君
倉光 藤太郎君	首藤 陸三君	荒川 五郎君
奥田 柳藏君	神藤 才一君	井阪 光暉君
樺太ニ於ケル漁業免許ノ取消及漁業料ノ徵收ニ關スル法律案		
川原 茂輔君	遠藤 良吉君	高原 篤行君
高橋 直治君	丹尾 頼馬君	木村 格之輔君
關矢 橋太郎君	小橋 榮太郎君	大竹 貫一君
間島ニ於ケル領事官ノ裁判ニ關スル法律案		
三浦 覺一君	橋本 久太郎君	坪田 十郎君
川崎 安之助君	黃金井 爲造君	村松 龜一郎君
佐々木 安五郎君	大内 暢三君	淺羽 靖君
輕便鐵道法中改正法律案外一件		
武市 庫太君	伊東 祐賢君	森 茂生君
安藤 新太郎君	吉田 虎之助君	武田 貞之助君
藤井 善助君	小河 源一君	松本 恆之助君
伏木港ニ於ケル海陸連絡ニ關スル建議案		
上埜 安太郎君	篠井 甚吉君	米田 穰君
澤田 佐助君	古井 由之君	佐藤 貞雄君
高橋 文賢君	近江谷 榮次君	堀谷 左治郎君
一明治四十三年勅令第三百二十四號(承諾ヲ求ムル件)外十二件委員西山彰君渡邊千冬君辭任ニ付キ其補闕トシテ山口熊野君富安保太郎君ヲ議長ニ於テ選定セリ		
一委員長及理事左ノ通り當選セラレマリ		
市制改正法律案外一件委員會		

委員長 尾崎 行雄君 理事 長島 繁太郎君
 在外指定學校職員退隱料及遺族扶助料法中改正法律案外三件委員會
 委員長 三土 忠造君 理事 高橋 光威君
 樺太ニ於ケル漁業免許ノ取消及漁業料ノ徵收ニ關スル法律案委員會
 委員長 川原 茂輔君 理事 高橋 直治君
 輕便鐵道法中改正法律案(吉植庄一郎君外二名提出)外一件委員會
 委員長 小河 源一君 理事 吉田 虎之助君
 間島ニ於ケル領事官ノ裁判ニ關スル法律案委員會
 委員長 橋本 久太郎君 理事 三浦 覺一君
 伏木港ニ於ケル海陸連絡ニ關スル建議案委員會
 委員長 上埜 安太郎君 理事 米田 穰君

○議長(長谷場純孝君) 會議ヲ開キマス、御諮ラ致シマス、宮内翁助君ヨリ眼病ニ付、去ヌル四日ヨリ一週間、阪口仁一郎君ヨリ病氣ニ付、昨六日ヨリ十日間、太田清藏君病氣ニ付、昨六日ヨリ二週間、各請暇ノ願書ガアリマス、許可シテ御異議ハアリマセマカ

(「異議ナシ異議ナシ」ト呼フ者アリ)

○議長(長谷場純孝君) 御異議ガナケレバ許可スルコトニ致シマス、去ル二日、日野君ノ發議ニ對シテ御答ラ致シテ置キマス、先月十四日長崎登君ノ提出セラレタル動議ハ、當日ノ議場デ本職ノ朗讀シタル通り「守屋君ノ發言ハ議院法第四十八條ニ依リ提出スベキモノニシテ、此場合ニ於テ許可スベキモノニアラズ、長崎登」ト云フデアリマス、是ガ即チ最後ノ決議案デアツテ、速記録ニモ明記シテアリマス、尤モ長崎登君ノ發言中ニハ單ニ守屋君ガ質問トシテ提出シタルヲ答ムルガ如キ口調モアリマスケレドモ、其決議案、即チ成文ノ動議ヲ見マスレバ、其爭フトコロモノハ名稱デナクシテ演說ノ實質ニアリト認メネバナリマセス、之ヲ要スルニ議長ハ當該問題ニ直接ノ關係アルモノハ其何等ノ言葉ヲ用ユルヲ問ハズ、從來ノ慣例ニ依リテ之ヲ許可スルコトニ致シ、而シテ其當該問題ニ直接ニ關係セザルモノハ何等ノ言葉ヲ用ユルニ拘ラズ、議院法第四十八條ニ依ルベキモノトスル考デアリマス、過日中川君ノ質問ト云ハレタニモ拘ラズ、之ニ發言ヲ許可シマシタノハ、右ノ理由ニ基キ、衆議院規則ノ所謂質疑ト認メタカラデアリマス、此段御答ラ致シマス

○日野國明君 本員ノ去ル二日ニ於ケル質問ニ對シマシテ、唯今議長ヨリ詳細ナル御答ラ得マシタガ、其中先月十四日ノ議場ニ於ケル長君ノ動議ノ趣旨ニ關シマシテハ、多少議長ト本員トハ見ルトコロヲ異ニスル點ナキニシモアラズデアリマスガ、後段ノ議長ノ御言明、即チ當該問題ニ關シテハ如何ナル言葉ヲ用ユルトモ、發言ヲ許スト云フ言葉ハ丁度當日ノ議場ニ於テ私共同士ノ主張シタトコロト同様デアリマス、私ハ英斷アル議長ノ此御辯明ニ付テ満足ヲ致シマス

（贊成ト呼フ者アリ、拍手スル者アリ）

○議長（長谷川純孝君） 本日ノ議事日程ニ掲ゲテアリマス質問ノ第一ヨリ第七マデハ、各提出者ヨリ延期ヲ申出ラレマシタカラ、是ハ延期致シマス

○井上角五郎君 是カラ豫備金支出外四件委員會ヲ開カウト思ヒマス、免角委員會ニ出席致シマセガ、此問題ハ貴族院ヘ早ク送ルベキ必要モアルデアリマスカラ、特ニ唯今カラ開キマスニ付テ委員諸君ノ委員會ニ御出下サルコトヲ希望致シマス

○議長（長谷川純孝君） 此場合議長ヨリモ御注意ヲ滿場ノ諸君ニ致シテ置キマス、追々委員會ニ委員ノ出席ガナクシテ流會ニナルヤノコトヲ委員課長等ヨリノ申出モゴザイマスカラ、閉期切迫ノ場合各勉メテ出席ニナランコトヲ御注意致シマス——日程第一、電氣事業法案ノ第一讀會ヲ開キ、議案ノ朗讀ヲ省略致シマス——後藤遞信大臣

第一 電氣事業法案（政府提出）

第一讀會

（左ノ議案ハ朗讀ヲ經サルモ參照ノタメ茲ニ掲載ス以下之ニ倣フ）

電氣事業法案

第一條 本法ニ於テ電氣事業ト稱スルハ左ニ掲クルモノヲ謂フ

一 一般ノ需用ニ應ジ電氣ヲ供給スル事業

二 一般運送ノ用ニ供スル鐵道又ハ軌道ノ動力ニ電氣ヲ使用スル事業

第二條 本法ニ於テ電氣工作物ト稱スルハ電氣ノ供給又ハ使用ノ爲施設スル水路、貯水池、器具機械、電線路及其ノ他ノ工作物ニシテ電氣事業ノ用ニ供スルモノヲ謂フ

前項ニ於テ電線路ト稱スルハ電氣ノ傳送ニ用井ル電氣導體及之ヲ支持シ又ハ保護スル工作物ヲ謂フ

第三條 電氣事業ヲ營ムトスル者ハ勅令ニ別段ノ規定アル場合ヲ除クノ外主務大臣ノ許可ヲ受クヘシ

第四條 電氣事業者ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ行政官廳ノ認可ヲ受ケタル後ニ非サレハ工事ニ著手シ又ハ電氣工作物ノ使用ヲ爲スコトヲ得ス

第五條 電氣事業者ハ主務大臣ノ指定スル期間内ニ其ノ事業ヲ開始スヘシ主務大臣ハ正當ノ事由アリト認ムル場合ニ限り前項期間ノ伸長ヲ許可スルコトヲ得

電氣事業者指定ノ期間内ニ事業ヲ開始セサルトキハ電氣事業ノ許可ハ其ノ效力ヲ失フ

第六條 第一條第一號ノ電氣事業者ハ料金其ノ他電氣供給ノ條件ヲ定メ主務大臣ノ認可ヲ受クヘシ之ヲ變更セムトスルトキ亦同シ

第七條 電氣事業者ハ電氣工作物ノ施設ニ關スル測量又ハ工事ノ爲必要アルトキハ他人ノ土地ニ立入ルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ豫メ行政官廳ノ許可ヲ受ケ且少クモ五日間ニ市町村長ニ通知シ市町村長ハ之ヲ告示シ又ハ其ノ旨土地ノ占有者ニ通知スヘシ

電氣事業者ハ電氣工作物ノ修理又ハ巡視ノ爲必要アルトキハ勅令ノ定ムル所ニ依リ其ノ工作物ヲ施設セル他人ノ土地又ハ建造物ニ立入ルコトヲ得但シ日没ヨリ日出迄ノ間ニ於テハ危險急迫ノ場合ニ非サレハ占有者ノ意ニ反シテ邸宅其ノ他建造物ニ立入ルコトヲ得ス

第八條 電氣事業者ハ電線路ノ施設及保守ニ障害ヲ及スヘキ竹木其ノ他ノ植物ヲ伐除又ハ移植スルノ必要アル場合ニ於テ其ノ所有者ト協議調ハス又ハ協議ヲ爲スコト能ハサルトキハ行政官廳ノ許可ヲ受ケ之ヲ伐除シ又ハ移植スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ電氣事業者ハ豫メ其ノ旨所有者ニ通知スヘシ

危險急迫ノ場合ニ於テハ電氣事業者ハ前項ノ規定ニ拘ラス直ニ竹木其ノ他ノ植物ヲ伐除又ハ移植スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ遲滞ナク其ノ旨行政官廳ニ届出テ且其ノ所有者ニ之ヲ通知スヘシ

第九條 電氣事業者ハ河川、橋梁、溝渠、道路、堤防其ノ他公共ノ用ニ供セラレタル土地ノ地上又ハ地中ニ電線路ヲ施設スル必要アルトキハ其ノ效用ヲ妨ケサル限度ニ於テ管理者ノ許可ヲ受ケテ之ヲ使用スルコトヲ得前項ノ場合ニ於テハ電氣事業者ハ管理者ノ定ムル所ニ依リ使用料ヲ納ムヘシ

管理者タル地方行政廳ニ於テ正當ノ事由ナクシテ第一項ノ許可ヲ拒ミタルトキ又ハ管理者ノ定メタル使用料ノ額ヲ不相當ナリトスルトキハ主務大臣ハ電氣事業者ノ申請ニ依リ使用ヲ許可シ又ハ使用料ノ額ヲ定ムルコトヲ得

第十條 電氣事業者ハ必要アルトキハ現在ノ使用方法ヲ妨ケサル限度ニ於テ他人ノ地上ノ空間若ハ地中ニ電線路ヲ施設シ又ハ建造物ノ存在セサル他人ノ土地ニ電線ノ支持物ヲ建設スルコトヲ得

電氣事業者前項ノ規定ニ依リ他人ノ土地ヲ使用セムトスル場合ニ於テ其ノ所有者及占有者ト協議調ハス又ハ協議ヲ爲スコト能ハサルトキハ其ノ使用ノ範圍ヲ定メ豫メ地方長官ノ許可ヲ受ケテ其ノ工事ニ著手スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ少クモ五日間ニ其ノ旨土地ノ所有者及占有者ニ通知スヘシ

第十一條 電線路ヲ施設シタル土地ノ近接地又ハ前條ニ依リ電線路ヲ施設シタル土地ノ所有者又ハ占有者ハ土地ノ使用方法ヲ變更スル爲必要アルトキハ勅令ノ定ムル所ニ依リ電氣事業者ニ對シ障害ノ豫防又ハ除却ニ必要ナル方法ヲ施スコトヲ請求スルコトヲ得

前項ノ工事ニ要スル費用ハ電氣事業者ノ負擔トス但シ其ノ工事ヲ爲シタル後正當ノ事由ナクシテ豫定ノ變更ヲ爲ササルトキハ請求者ノ負擔トス

第十二條 第七條、第八條及第十條ノ場合ニ於テ現ニ生シタル損失ハ電氣事業者之ヲ補償スヘシ

者ハ其ノ通知ヲ受ケタル日ヨリ二月内ニ通常裁判所ニ出訴スルコトヲ得
行政官廳ハ必要ト認ムルトキハ電氣事業者ヲシテ損失ノ補償ニ充ツヘキ
金額ヲ供託セシムルコトヲ得

第十三條 電氣事業者ハ地中電氣工作物ヲ施設スル場合ニ於テ他人ニ屬ス
ル地中電氣工作物ノ位置ヲ變更スル必要アルトキハ當該工作物ノ效用ヲ
妨ケサル限度ニ於テ其ノ位置ヲ變更シ又ハ其ノ工作物ノ所有者ヲシテ其
ノ變更ヲ爲サシムルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テハ主務大臣ノ許可ヲ受クヘシ

第十四條 主務大臣ハ工地上已ムヲ得スト認メタル箇所ニ限り電氣事業者
ニ對シ電線路ノ共用ヲ命スルコトヲ得

第十五條 電氣工作物相互間及電氣工作物ト其ノ他ノ工作物トノ間ニ於ケ
ル障害ヲ防止スル爲必要ナル施設ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第十六條 前三條ニ依ル工事ニ關スル費用ノ負擔其ノ他ノ條件ハ命令ヲ以
テ定ムルモノノ外當事者間ノ協議ニ依ル協議調ハサルトキハ主務大臣之
ヲ裁定ス

第十七條 第一條ニ掲グルモノノ外電氣ヲ供給又ハ使用スル事業ニ關シテ
ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ本法ノ規定ヲ準用スルコトヲ得

第十八條 電氣工作物ヲ損壞シ之ニ物品ヲ接觸シ又ハ其ノ他ノ方法ヲ以テ
電氣ノ供給又ハ使用ヲ妨害シタル者ハ五年以下ノ懲役又ハ千圓以下ノ罰
金ニ處ス

前項ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

第十九條 電氣事業者ノ承諾ヲ得シテ濫ニ電氣工作物ノ施設ヲ變更シタ
ル者ハ二百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

第二十條 本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ依リ許可又ハ認可ヲ受ケテ
爲スヘキ行爲ヲ許可又ハ認可ヲ受ケシテ爲シタル者ハ千圓以下ノ罰金
ニ處ス

第二十一條 電氣事業者ハ其ノ代理人、戸主、家族、雇人其ノ他ノ從業者
ニシテ其ノ業務ニ關レ本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ違反シタルト
キハ自己ノ指揮ニ出テサルノ故ヲ以テ其ノ處罰ヲ免ルルコトヲ得ス

第二十二條 明治三十三年法律第五十二號ハ本法又ハ本法ニ基キテ發スル
命令ニ依ル犯罪ニ之ヲ準用ス

附則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

本法施行ノ際現ニ電氣事業ヲ營ム者又ハ本法施行前ニ於テ電氣事業經營ノ
許可ヲ受ケタル者ハ第三條ニ依リ許可ヲ受ケタル者ト看做ス

(逓信大臣男爵後藤新平君登壇)

○逓信大臣(男爵後藤新平君) 茲ニ提出ニナリマシタ電氣事業法案ニ對シマシテ、
提出ノ理由ヲ一言致シテ置キマス、此電氣事業ハ我帝國ニ於キマシテモ、近年驚クベ

キ發達ヲ見ルニ至リマシテ、社會公衆ノ利害ニ關シテ、此發達ノ如何ニ密接ノ關
係アルカハ辯フ俟タナイ次第アリマス、而シテ發電力ハ五十九萬一千餘ノ「キロワット」
ニ達シテ居リマス、是ハ今後ニ於テ尙發達スベキ狀勢アルト云フコトハ、申スマデモナイ
コトデアリマス、之ニ對シマシテ今日マデ法令ノ備ハラザルモノアツテ、保護監督ノ法未ダ
全キヲ得ナイ次第デアリマス、然ルニ此電氣事業ナルモノハ列國ニ於キマシテモ之ニ關ス
ル法令ヲ定メ、保護監督ノコトヲ怠ラヌヤウニナツテ、益々之ヲ努メテ居ル次第デアリマス
カラ、此狀勢ニ照シテモ本法ヲ制定スルノ必要ナルコト言フ俟タナイ次第デアリマス、昨
年既ニ本案ヲ提出致シマシタガ、不幸ニシテ成立ヲ遂ゲルコトノ出來ナイ經過ヲ得タノ
デアリマス、爾來該事業ノ實況ハ該法案ノ必要ヲ甚ダ急ナル狀態デアリマスカラ、茲ニ
又再ビ提出致シマシタ、慎重審議ノ上ニ協賛ヲ與ヘラレンコトヲ希望致シマス

○才賀藤吉君 逓信大臣ニ質問ガアリマスガ、本提出案ハ昨年ノ委員會ニ於テ修正
ヲ致シマシタモノヲ今度提出サレマシタコトハ、吾々當時ノ委員トシテ頗ル満足スルコロ
デアリマス、併ナガラ第六條又更ニ此處ニ掲グルコトハドウ云フ理由デアリマスカ、其他
詳細コトハ又他ノ委員會等デ質問モアリマセウガ、本案ノ骨子タル第六條ノ理由ヲ少
シ承リタイト思ヒマス

(逓信大臣男爵後藤新平君登壇)

○逓信大臣(男爵後藤新平君) 本案ノ第六條ハ政府ニ於テ最モ必要ナル條項ト認
メテ居リマス、此精神ハ政府ニ於テハ重要ナルモノト考ヘテ其當時ニ於テモ政府ハ之
ヲ行政ノ監督上拾ツベカラザルモノト認メテ居リマス、而シテ今日ニ於テモ其精
神ハ尙必要ナルモノト認メテ居リマス、ソレ故ニ本案ノ通り提出致シタ譯デアリマス

○議長(長谷場純孝君) 日程第二、右議案ノ審查ヲ付託スベキ委員ノ選舉

第二 右議案ノ審查ヲ付託スベキ委員ノ選舉

○菅原傳君 本案ハ議長指名十八名ノ特別委員ニ附託セラレンコトヲ望ミマス

○議長(長谷場純孝君) 本案ハ議長指名特別委員十八名附託ニ御異議アリマセ
ヌカ

(「異議ナシ」ト呼フ者アリ)

○議長(長谷場純孝君) 御異議ナケレバ其通り決シマス、日程第三、大藏省預金
部ノ利益金ヲ一般合計ニ繰入ル、件ニ關スル法律案ノ第一讀會ヲ開キ、議案ノ朗讀
ハ省略致シマス

(「延期スベシ」異議ナシ「日程第四」ト呼フ者アリ)

○議長(長谷場純孝君) 政府委員ガ出席致シマセヌ、後同シニ御異議アリマセ
ヌカ

(「異議ナシ」ト呼フ者アリ)

○議長(長谷場純孝君) 御異議ナケレバ後同シニ致シマス、日程第五、執達吏手
數料規則中改正法律案ノ一讀會ヲ開キ、議案ノ朗讀ハ省略致シマス

第五 執達吏手數料規則中改正法律案(政府提出) 第一讀會

執達吏手數料規則中改正法律案

執達吏手數料規則中左ノ通改正ス

第二條中「五錢」ヲ「七錢」ニ改ム

第三條中「三拾錢」ヲ「四拾錢」ニ、「五拾錢」ヲ「七拾錢」ニ、「七拾五錢」ヲ「壹圓」ニ、「壹圓」ヲ「壹圓參拾錢」ニ、「壹圓貳拾五錢」ヲ「壹圓六拾錢」ニ、「壹圓五拾錢」ヲ「貳圓」ニ、「貳圓」ヲ「貳圓五拾錢」ニ改メ、第一項ノ次ニ左ノ一項ヲ加フ

假差押ヲ爲シタル物ニ對スル差押ニ付テノ手數料ハ前項ノ手數料ノ半額トス

第六條中「五拾錢」ヲ「壹圓」ニ、「拾五錢」ヲ「貳拾錢」ニ改ム

第七條中「第七百三十一條第一項ノ場合」ノ下ニ「又ハ民事訴訟法第七百三十三條第一項ノ決定ニ基キ執行ヲ爲ス場合」ヲ加ヘ「五拾錢」ヲ「壹圓」ニ、「拾五錢」ヲ「貳拾錢」ニ改ム

第七條ノ二 前二條ノ規定ハ假處分ノ執行ノ手數料ニ之ヲ準用ス

第九條第一項但書ヲ削リ同條中「六拾錢」ヲ「八拾錢」ニ、「壹圓」ヲ「壹圓四拾錢」ニ、「壹圓五拾錢」ヲ「貳圓」ニ、「貳圓」ヲ「貳圓六拾錢」ニ、「貳圓五拾錢」ヲ「參圓貳拾錢」ニ、「四圓」ヲ「五圓」ニ改ム

第十條中「三拾錢」ヲ「四拾錢」ニ改ム

第十一條中「五拾錢」ヲ「七拾錢」ニ改ム

第十四條中「貳錢五厘」ヲ「參錢」ニ改ム

第十五條中「拾錢」ヲ「拾五錢」ニ改ム

第十六條 拒絕證書ヲ作成スル場合ニ於テハ其手數料ヲ五拾錢トス若シ執務一時間以上ニ涉ルトキハ一時間毎ニ貳拾錢ヲ加フ但其執務一時間ニ滿タサルモ一時間ト看做シテ算定ス

第十六條ノ二 執行記録其他ノ書類ノ閱覽ニ付テノ手數料ハ一回ニ付拾錢トス

第十六條ノ三 手數料ノ定ナキ事項ニ付テハ最類似スル事項ト同一ノ手數料ヲ受ク

第十八條中「拾錢」ヲ「拾五錢」ニ、「旅費ノ額」ヲ「旅費及宿泊料ノ額」ニ改メ、第一項ノ次ニ左ノ一項ヲ加フ

執達吏其職務ヲ執行スル爲宿泊ヲ要シタルトキハ一泊ニ付壹圓貳拾錢以下ノ宿泊料ヲ受ク

附則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

本法施行ノ際未タ完結セサル事項ニ付テノ手數料及立替金ハ仍從前ノ規定ニ依ル

〔政府委員〕法學博士河村讓三郎君登壇

○政府委員(法學博士河村讓三郎君) 一應提出ノ理由ヲ述ベマス、現行執達吏

手數料規則ハ明治二十三年ノ制定ニ係リマシテ、施行以來二十年餘ノ星霜ヲ閱シテ居リマス、現今ノ社會狀態殊ニ著シク發達致シマシタル經濟狀態ニ適應セザルコトハ明瞭ナルト信ジマス、因ッテ本案ニ於キマシテハ執達吏ノ職務行爲ニ對シ受クベキ手數料ヲ實際ノ狀況ニ適應セシムルタメニ相當ニ改正ヲ致シ、執行機關ノ體面ヲ保チ、事務ヲ改善致シタイ考デアリマス、尙同時ニ裁ニ公布ニナリマシタ公證人規則ニ依リマスル公證人ノ手數料ニ對シマシテモ、餘リ甚シキ輕ノナイヤウニ致シタイ、又現行ノ規則ニハ多少不明不備ノ點モゴザイマス、ソレヲ修補致シマシテ、其運用ヲ圓滿ニ致シタイト云フ考ヲ以チマシテ、提出ヲ致シタ次第デゴザイマス、御審議ノ上御協贊ヲ願ヒマス

○議長(長谷場純孝君) 日程第六、右議案ノ審査ヲ付託スベキ委員ノ選舉ヲ議題ニ致シマス

第六 右議案ノ審査ヲ付託スヘキ委員ノ選舉

○菅原傳君 本案ハ議長指名九名ノ特別委員ニ付託セラレンコトヲ望ミマス

○議長(長谷場純孝君) 本案ハ議長指名九名ノ特別委員付託ニ御異議アリマセムカ

〔異議ナシト呼フ者アリ〕

○議長(長谷場純孝君) 御異議ナシト認メマスカラ其通り決シマス、日程第七、第九、第十一ハ大藏省所管ノ議案ナルニ依リ、一括シテ議題ト致スコトニ御異議アリマセムカ

〔異議ナシト呼フ者アリ〕

○議長(長谷場純孝君) 御異議ナシト認メマスカラ其通り決シマス、日程第七、第九、第十一ハ大藏省所管ノ議案ナルニ依リ、一括シテ議題ト致スコトニ御異議アリマセムカ

第七 關稅法中改正法律案(政府提出)

第九 賣藥稅法中改正法律案(政府提出)

第十一 砂糖消費稅織物消費稅等ノ徵收ニ關スル法律案(政府提出)

關稅法中改正法律案

關稅法中左ノ通改正ス

目錄中「回漕」ヲ「運送」ニ改ム

第一條第二項ヲ削ル

第三條 關稅ハ輸入申告ノ日ニ於テ行ハルル法規ニ從ヒ之ヲ課ス但シ保税倉庫ニ庫入シタル貨物ノ關稅ハ庫出ノ日、藏置期限又ハ運送期限ノ經過ニ依リ關稅ヲ徵收スル場合ニ於テハ其ノ期間滿了ノ日ノ翌日、收容貨物ニシテ公賣ニ付スルモノノ關稅ハ公賣ノ日、第八十三條第三項ノ規定ニ依リ關稅ヲ徵收スル場合ニ於テハ犯則ノ日ニ於テ行ハルル法規ニ從ヒ之ヲ課ス

第四條但書ヲ削ル

第七條中「貨物輸入ノ日」ヲ「之ヲ行使シ得ル日」ニ改ム

第十一條 削除

第十二條中「積荷目録」ヲ「積荷目録又ハ運送目録」ニ改ム

第十五條 削除

第十六條 船長ハ稅關長ノ認許ヲ得タル場合ノ外既ニ提出シタル積荷目録ノ訂正補足ヲ爲スコトヲ得ス

第十九條 削除

第二十條 削除

第二十六條 日没ヨリ日出迄ノ間及稅關ノ休日ニ於テ貨物ヲ保稅地域ニ搬入シ又ハ保稅地域ヨリ搬出セントスルトキハ稅關長ノ特許ヲ受クヘシ但シ旅客ノ携帶品ハ此ノ限ニ在ラス

保稅地域内ニ於テ貨物ノ取扱ヲ爲サントスルトキ亦前項ニ同シ

第二十七條中「稅關ニ送致シ若ハ陸揚シタル」ヲ「保稅地域内ニ於ケル」ニ改ム

第二十八條ニ左ノ一項ヲ加フ

外國貿易船ト沿海通航船トノ交通ハ稅關長ノ特許ヲ得タル場合ノ外之ヲ爲スコトヲ得ス

第二十九條ノ二 本法ニ於テ保稅地域ト稱スルハ稅關構内、保稅倉庫、稅關假置場其ノ他法令ニ依リ外國貨物ヲ藏置シ得ル地域ヲ謂フ

第三十二條第二項中「異議ヲ申立テ若ハ訴願ヲ提起スルコトヲ得ス」ヲ「異議ヲ申立ツルコトヲ得ス」ニ改ム

第三十三條 削除

第三十四條中「之ヲ引取り若ハ通過ノ爲發送スルコトヲ得ス」ヲ「之ヲ引取ルコトヲ得ス」ニ改ム

第三十五條 削除

第三十六條 削除

第三十七條中「船積」ヲ「積出」ニ改ム

第三十八條 回漕ヲ第三節 運送ニ改ム

第三十九條 外國貨物ハ海路又ハ陸路ニ由リ開港間、保稅地域間又ハ開港ト保稅地域トノ間ニ之ヲ運送スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ稅關ニ申告シ其ノ免許ヲ受クヘシ

前項ノ場合ニ於テ稅關ハ必要ト認ムルトキハ擔保ヲ提供セシムルコトヲ得

第三十九條ノ二 外國貨物ノ期路ニ由ル運送ハ命令ヲ以テ定メタル通路ニ由ルヘシ

第三十九條ノ三 外國貨物相當ノ期間内ニ運送先ニ到達セサルトキハ運送申告者ヨリ關稅ヲ徵收ス但シ災害ニ因リ滅失シ又ハ稅關ノ認許ヲ得テ滅却シタルトキハ此ノ限ニ在ラス

第三十九條ノ四 外國貨物ヲ運送セントスル場合ニ於テハ船長又ハ陸路運

送人ハ運送先ヲ異ニスル毎ニ運送目録ヲ稅關ニ提出スヘシ
船長又ハ陸路運送人ハ運送ニ關シ職務ヲ執行スル官吏ニ對シ相當ノ便宜ヲ與フヘシ

第三十九條ノ五 左ニ掲クル外國貨物ヲ海路又ハ陸路ニ由リ不開港ヨリ開港又ハ保稅地域ニ運送セントスル場合ニ於テハ船長又ハ陸路運送人ハ稅關官吏、稅關官吏在ラサルトキハ警察官吏ノ認許ヲ受クヘシ但シ陸路ニ由ル運送ハ稅關官吏又ハ警察官吏ノ指定スル通路ニ由ルヘシ

一 假ニ陸揚シタル貨物

二 運航ノ自由ヲ失ヒタル船舶ニ積載セル貨物

三 難破貨物

前項ノ貨物運送先ニ到達セタルトキハ船長又ハ陸路運送人ハ二十四時以内ニ認許證ヲ稅關ニ提出スヘシ

第四十條 內國貨物ハ外國貿易船ニ積載シ開港間ニ之ヲ運送スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テハ稅關ニ申告シ其ノ免許ヲ受クヘシ

第四十一條 第三十九條及前條ノ運送貨物運送先ニ到達シタルトキハ船長又ハ陸路運送人ハ直ニ運送目録ヲ稅關ニ提出スヘシ

第四十五條 第二十四條、第二十六條、第三十一條乃至第三十四條、第三十七條乃至第三十九條ノ五第四十一條ノ規定ハ郵便物ニ之ヲ適用セス

第四十六條 保稅倉庫又ハ稅關假置場ヲ除クノ外保稅地域ニ搬入シタル貨物ヲ搬入ノ日ヨリ七日以内ニ其ノ保稅地域ヨリ搬出シ又ハ保稅倉庫ニ庫入若ハ稅關假置場ニ移入セサルトキハ稅關ハ其ノ貨物ヲ收容スルコトヲ得此ノ場合ニ於テ稅關ハ其ノ費用及危險ヲ負擔セス

前項ノ貨物生活力ヲ有スル動植物ナルトキ、腐敗シ若ハ腐敗ノ虞アルトキ又ハ他ノ貨物ヲ害スルノ虞アルトキハ前項ノ期間内ト雖之ヲ收容スルコトヲ得

第四十九條 前條ノ免許ヲ受ケタル日ヨリ三日以内ニ貨物ヲ保稅地域ヨリ搬出シ又ハ保稅倉庫ニ庫入若ハ稅關假置場ニ移入セサルトキハ稅關ハ更ニ第四十六條ノ收容ヲ爲スコトヲ得

第五十條第二項中「競賣」ヲ「公賣」ニ、「供託スヘシ」ヲ「貸主ニ交付ス」ニ改ム

第五十一條中「收容貨物」ノ下ニ「生活力ヲ有スル動植物ナルトキ、腐敗シ若ハ」ヲ加ヘ「競賣」ヲ「公賣」ニ改ム

第五十二條中「競賣」ヲ「公賣」ニ改ム

第六十一條中「十日」ヲ「二十日」ニ改ム

第六十四條第一項第三號ヲ左ノ如ク改ム

三 六年以上ノ懲役若ハ禁錮ニ處セラレタル者又ハ舊刑法ノ重罪ノ刑ニ處セラレ復權ヲ得サル者

官報號外 明治四十四年三月八日 衆議院議事速記錄第十九號 關稅法中改正法律案外二件 第一讀會 三六一

六年未滿ノ懲役又ハ禁錮ニ處セラレタル者及舊刑法ノ禁錮ニ處セラレタル者ニシテ其ノ刑ノ執行ヲ終ル迄ノ者又ハ執行ヲ受クルコトナキニ至ル迄ノ者

第六十八條中「稅關長ノ處分」ヲ「第六十二條ノ稅關長ノ判定」ニ改ム

第七十四條及第七十五條中「罰金若ハ科料」ヲ「罰金又ハ科料」ニ改ム

第七十五條ノ二 前二條ノ犯罪ニ係ル貨物ノ運搬、寄藏、收受、故買又ハ牙保ヲ爲シタル者ハ千圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

第七十六條中「罰金」ヲ「罰金又ハ科料」ニ、「前二條」ヲ「第七十四條又ハ第七十五條」ニ改ム

第七十七條 貨物ト符合セサル積荷目録又ハ運送目録ヲ提出シタルトキハ船長又ハ陸路運送人ヲ五百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

第七十八條及第七十九條中「罰金」ヲ「罰金又ハ科料」ニ改ム

第八十條 第十條、第十三條、第十八條第二項、第二十一條、第三十九條ノ四第一項、第三十九條ノ五又ハ第四十一條ノ規定ニ違反シタルトキハ船長又ハ陸路運送人ヲ二百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

第八十一條中「第四十條若ハ第四十一條」ヲ「第三十九條第一項、第三十九條ノ二又ハ第四十條第二項」ニ、「罰金」ヲ「罰金又ハ科料」ニ改ム

第八十二條ノ二 輸出又ハ輸入ノ業ヲ營ム者ノ代理人又ハ使用人ニシテ其ノ業務ニ關シ第七十四條、第七十五條又ハ第七十六條ノ規定ニ違反シタルトキハ營業者ヲ處罰ス但シ稅關貨物取扱人カ貨物ノ取扱ヲ爲シタル場合ハ此ノ限ニ在ラス

稅關貨物取扱人ノ代理人、雇人其ノ他ノ從業者カ其ノ業務ニ關シ第七十四條、第七十五條又ハ第七十六條ノ規定ニ違反シタルトキハ稅關貨物取扱人ヲ處罰ス

第八十二條ノ三 前條ノ場合ニ於テ營業者又ハ稅關貨物取扱人カ未成年者又ハ禁治產者ナルトキハ其ノ法定代理人ヲ處罰ス但シ營業又ハ業務ニ關シ成年者ト同一ノ能力ヲ有スル未成年者ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第八十二條ノ四 本法ヲ犯シタル者ニハ刑法第三十八條第三項但書、第三十九條第二項、第四十條、第四十一條、第四十八條第二項、第六十三條及第六十六條ノ例ヲ用井ス

第八十三條 本法ニ依リ沒收スヘキ貨物カ犯則者以外ノ者ニ屬シ又ハ消費其ノ他ノ事由ニ因リ沒收スルコト能ハサルトキハ其ノ價額ヨリ關稅及消費稅ニ相當スル金額ヲ控除シタル金額ヲ犯則者ヨリ追徵ス

第八十二條ノ二ノ營業者及稅關貨物取扱人ハ前項ノ規定ノ適用ニ付テハ之ヲ犯則者ト看做ス

前二項ノ追徵ヲ爲ス場合ニ於テハ其ノ貨物ノ關稅ハ犯則當時ノ貨物ノ所有者ヨリ之ヲ徵收ス但シ貨物カ所有者ノ占有ニ歸セサル間ニ滅失シ又ハ第三者ニ歸屬シタルトキハ犯則者ヨリ之ヲ徵收ス

前項ノ規定ニ依ル關稅ノ徵收ニ付テハ國稅徵收法ヲ準用ス

第九十一條ニ左ノ一項ヲ加フ
既ニ開始シタル臨檢搜索又ハ物件差押ハ必要アル場合ニ於テハ前項ノ規定ニ拘ラス之ヲ繼續スルコトヲ得

附則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

賣藥稅法中改正法律案

賣藥稅法中左ノ通改正ス

第一條ノ六 北海道及府縣ハ賣藥營業稅ニ對シ本稅百分ノ五以內ノ附加稅ヲ課スルコトヲ得

市町村及北海道沖繩縣ノ區ハ賣藥營業稅ニ對シ本稅百分ノ十以內ノ附加稅ヲ課スルコトヲ得

附則

本法ハ明治四十四年度分ヨリ之ヲ適用ス

砂糖消費稅織物消費稅等ノ徵收ニ關スル法律案

第一條 砂糖消費稅法、織物消費稅法、石油消費稅法又ハ骨牌稅法ニ於テ稅關、保稅倉庫トアルハ關稅法ニ於テ稱スル保稅地域ヲ謂フ

第二條 關稅法第三十九條ノ規定ニ依ル運送ハ砂糖消費稅法、織物消費稅法、石油消費稅法又ハ骨牌稅法ノ引取ト看做サス但シ其ノ運送ニ付必要アリト認ムルトキハ稅金ニ相當スル擔保ヲ提供セシムルコトヲ得

第三條 砂糖消費稅法、織物消費稅法、石油消費稅法又ハ骨牌稅法ニ依リ稅金ヲ徵收スル場合ノ外砂糖、精蜜、糖水、織物、石油又ハ骨牌ニ付關稅ヲ徵收スル場合ニ於テ勅令ノ定ムル所ニ依リ關稅納付義務者ヨリ其ノ稅金ヲ徵收ス但シ骨牌稅法ニ依リ骨牌ヲ沒收スル場合ハ此ノ限ニ在ラス

附則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

（政府委員大藏次官若槻禮次郎君登壇）

○政府委員（若槻禮次郎君） 關稅ニ關シマシル法律ハ二通りアリマシテ、關稅ノ取扱ニ付テハ關稅法ト云フモノガアリマシ、又關稅ノ稅率ニ關シテハ關稅定率法ト云フノガアルノデアリマスガ、唯今問題ニナツテ居リマスル關稅法中改正法律案ト云フノハ、其取扱ニ關係スル方ノ法律デアツテ、稅率問題ト何等關係ノナイノデアリマス、此關稅法ノ改正ヲ要シマス所以ノモノハ此法律ヲ改正致シマシタルノハ三十二年デアツテ、其後イロ／＼ノ經驗ニ依ツテ、尙外ノ法規ノ改正ニ基イテ、現行ノ法律ハ所々ニ改正ヲ施ス必要ヲ見ルニ至リマシタルデアリマス、殊ニ最近歐羅巴ノ貿易ノ關係ガ西伯利亞經由ノ線路ニ依ツテ開カレヤウニナリマシテカラ、是ノモノタメデアリマセヌケレドモ、サウ云フ關係ガ主トシテ陸路運送等ニ於テ關稅ノ取扱ヲ今一層便利ニスル必要ガアリマスノデ、旁々此改正案ヲ提出シタル次第デアリマス、ソレカラ賣藥稅ノ改正案ハ御承知ノ如ク賣

藥ノ製造ニ付テハ特別ノ營業稅ヲ取テアリマシテ、一般ノ營業稅ヲ課シテ居ラナイノデア
アリマス、其關係カラシテ唯今ノトコロハ賣藥營業稅ヲ納メテ居ル者ハ衆議院議員ノ
選舉權、或ハ府縣會市町村等ノ選舉資格ノ中ニ此納稅額ヲ加ヘルコトヲセナンデ居リ
マスルガ、然ルニ特別ノ營業稅ハアルケレドモ免ニ角營業稅アリマスカラ之ヲ直接稅
トシテ、是等資格ノ中ニ加ヘル必要ガアラウト思ヒマス、ソレデ此附加稅ヲ徵收スルコト
ガ出來ルヤウニナツテ居リマスガ、唯今ノ選舉資格ヲ認ムルヤウニシテ附加稅ヲ課スルヤウ
ニ致シマス、無制限ニ附加稅ヲ課シマシタデハ國稅ヲ防グル虞ガアリマスカラ、ソレ故
ニ茲ニ制限ヲ加ヘテ、一方ニ附加稅ヲ課シテ之ニ依ツテ資格ヲ得セシムル同時ニ、一
方ニハ餘リ高イ稅ヲ課セシメナイヤウニスル必要ガアル、斯ウ云フノガ此賣藥稅法案改
正案ノ理由デアリマス、第三ノ砂糖消費稅織物消費稅等ニ關シタ法律案ト云フモノ
ハ、是ハ全ク此關稅法ヲ改正シマシテ陸路運送等ニ便宜ヲ與ヘマス關係カラ外國カ
ラ入ッテ來マス砂糖、織物等ニ付テノ消費稅ノ徵收ノ上ニ改正ヲ加ヘル必要ガアリマ
ス、ト、二三ノ點ニ於テ現行法ノ缺漏ヲ補フ必要ガアリマシテ、此法案ヲ提出シタ次
第デアリマス、三案共御審議ノ上御協賛アラント希望致シマス

○議長(長谷場純孝君) 別ニ御質疑モナケレバ右三案ノ審查ヲ付託スベキ委員ノ選
舉ヲ議題ト致シマス

右議案ノ審查ヲ付託スヘキ委員ノ選舉

○菅原傳君 右委員ハ議長指名十八名ノ特別委員ニ付託セラレンコトヲ望ミマス
○議長(長谷場純孝君) 三案ヲ一括シテ議長指名十八名ノ特別委員ニ付託スルニ
御異議アリマセヌカ

(「異議ナシ異議ナシ」ト呼フ者アリ)

○議長(長谷場純孝君) 御異議ナケレバ其通り決シマス、日程ノ第三ヲ後回シニシ
デアリマスガ、此場合ニ議題ニシテハドウデゴザイマセウカ

(「異議ナシ異議ナシ」ト呼フ者アリ)

○議長(長谷場純孝君) 御異議ガナケレバ日程ノ第三、大藏省預金部ノ利益金ヲ
一般會計ニ繰入ル、件ニ關スル法律案ノ第一讀會ヲ開キ、議案ノ朗讀ハ省略致シマス

第三 大藏省預金部ノ利益金ヲ一般會計ニ繰入ル件 第一讀會
ニ關スル法律案(政府提出)

大藏省預金部ノ利益金ヲ一般會計ニ繰入ル件ニ關スル法律案
政府ハ大藏省預金部ノ利益金ヨリ毎年度百萬圓ヲ限リ之ヲ一般會計ニ繰入ル
コトヲ得

(政府委員若槻禮次郎君登壇)

○政府委員(若槻禮次郎君) 預金部ノ積立金ナルモノハ預金全體ニ對シマシテ損
失ノ補填ヲ保障スルモノデアリマスカラ、相當ナル金ヲ積立テ置ク必要ガアリマスノミナラ
ズ、預金部ノ資金ハ其運用ニ依リマシテ地方產業資金ヲ低利ニ融通スル、運用其者
カラ、又國家ノ必要ナル種々ノ働キヲ致スモノデアリマスカラ、此金ヲ成ルベク預金部ノ
會計ニ殘シテ置キマシテ運用スル必要ガアルノデアリマスガ、然ルニ此度小學教員ニ支

給ヲ厚クスル必要上、小學校教育費補助金ヲ増加シナケレバナラヌコトニナリマシテ、此
教育上必要ナル事柄ノタメニハ預金部ニ生シマシタ利益ノ一部ヲ割イテ財源ニ充テ、
差支ナカラウト云フノデアリマシテ、此預金部ノ利益金ノ一部ヲ此案ノミノタメニ一般
會計ニ入レルト云フガタメニ今回預金部ノ利益金ヲ一般會計ニ繰入ル、ト云フ法案
ヲ提出致シマシタ次第デアリマス、斯ウナ理由デゴザイマスカラ、成ベク本案ヲ御可決
ニナランコトヲ希望致シマス

○議長(長谷場純孝君) 別ニ御質疑ガナケレバ日程ノ第四、右議案ノ審查ヲ付託
スベキ委員ノ選舉ヲ議題ト致シマス

第四 右議案ノ審查ヲ付託スヘキ委員ノ選舉

○菅原傳君 本案ハ議長指名ノ九名ノ特別委員ニ付託セラレンコトヲ望ミマス
○議長(長谷場純孝君) 菅原君ノ動議議長指名ノ九名ノ委員ニ付託スルト云フニ
御異議ハアリマセヌカ

(「異議ナシ異議ナシ」ト呼フ者アリ)

○議長(長谷場純孝君) 御異議ガナケレバ其通り決シマス、日程第十三乃至第十
五ハ一括シテ議題トナシ、前回ノ續キ、即チ第一讀會ノ續ヲ開キマス、此場合御注意
ヲ申上テ置キマスガ、此三案ハ前回ニ於テ委員長ノ報告ヲ終リ、鈴木力君ノ反對演
說ガアリ、次ニ日向輝武君ヨリ内閣總理大臣ノ出席ヲ求メラレ、直ニ之ヲ通知シタル
ニ公務ノ都合ニ依リ出席シ難シト回答ガアリ、菅原傳君ノ動議ニ依ツテ延期トナツテ
居ル案デアリマス、今總理大臣ガ出席ニナツテ居リマスカラ——日向輝武君

第十三 朝鮮事業公債法案(政府提出)

第十四 朝鮮事業公債金特別會計法案(政府提出)

第十五 朝鮮鐵道用品資金會計法案(政府提出)

(「唐リマセヌ」ト呼フ者アリ)

○議長(長谷場純孝君) 日向輝武君ハ缺席デアリマス

○菅原傳君 質問者ガ出席ナイ以上ハ其質問權ヲ拋棄シタト見ルヨリ外ナイノデアリ
マス、免モ角モ何レニシテモ出席ナイ以上ハ此案ヲ進ムルヨリ外ナイト思フノデアリマス
カラ、茲デ私ハ本案ノ二讀會ヲ直ニ開カレンコトノ動議ヲ起シマス

(「贊成々々」ト呼フ者アリ)

○議長(長谷場純孝君) 二讀會ヲ直ニ開クト云フニ御異議アリマセヌカ

(「異議ナシ」ト呼フ者アリ)

○議長(長谷場純孝君) 御異議ガナケレバ三案共ニ一括シテ直ニ二讀會ヲ開キ、三
案全部ヲ議題ニ供シマス

朝鮮事業公債法案

朝鮮事業公債金特別會計法案

朝鮮鐵道用品資金會計法案

○議長(長谷場純孝君) 委員長ノ報告ニ御異議アリマセヌカ
(「異議ナシ異議ナシ」ト呼フ者アリ)

第二讀會

第二讀會

第二讀會

○議長(長谷場純孝君) 御異議ナケレバ三案トモ特別委員長ノ報告通りニ二讀會ヲ決定致シマス

○菅原傳君 直ニ三讀會ヲ開キ、二讀會ノ通り決定セラレシコトヲ望ミマス

○議長(長谷場純孝君) 直ニ三讀會ヲ開クト云フコトニ御異議アリマセヌカ

(「異議ナシ異議ナシ」ト呼フ者アリ)

○議長(長谷場純孝君) 御異議ナケレバ直ニ三讀會ヲ開キ、三案ノ全部ヲ議題ニ供シマス

朝鮮事業公債法案

朝鮮事業公債金特別會計法案

朝鮮鐵道用品資金特別會計法案

○議長(長谷場純孝君) 御異議ナシト認メマスカラ、二讀會ニ於テ決定セラレタ通り

朝鮮事業公債法案、朝鮮事業公債金特別會計法案、朝鮮鐵道用品資金會計法案、此三案ハ是ニ於テ確定致シマス、茲ニ緊急ノ動議ヲ提出サレテ居リマス、菅原傳君ヨリ此場合第四號明治四十三年度歲入歳出總豫算追加、特第四號明治四十三年度各特別會計歳入歳出豫算追加ヲ日程ヲ變更シテ議シタイト云フ動議ヲ提出サレテ居リマス

(「異議ナシ異議ナシ」ト呼フ者アリ)

○議長(長谷場純孝君) 御異議ナケレバ第四號明治四十三年度歲入歳出總豫算追加案、特第四號明治四十三年度各特別會計歳入歳出豫算追加案ヲ議題ト致シマス

(原敬君登壇)

○原敬君 唯今議題トナリマシタル追加豫算二案ニ付テ、豫算委員ノ審査並ニ其結果ヲ御報告致シマス、明治四十三年度歲入歳出總豫算追加第四號ニ付キマシテハ、全部何等ノ異議ナク可決致シマス、ソレカラ明治四十三年度各特別會計歳入歳出豫算追加第四號、此案ニ付キマシテハ他ノ部分ニ於テハ何等ノ異議モナク可決致シマス、朝鮮總督府ノ歳出臨時部第五款水道買収費二百九十二萬六千七百九十二圓ト云フコトニ付キマシテハ、段々分科會ニ於テ調査ヲ致シマシタ結果、相當ナルモノ見テ可決致シマス、是ハ京城ニ於ケル水道ガ是マデ外國人ノ所有デアリマシタガ、公益上其他ノ關係ニ於テ是ハ政府ノ所有ニ致スガ適當デアルト云フ考ヲ以テ、總督府ニ於テ濫澤榮一其他二名ノ手ヲ經テ外國人ヨリ買収致シタデアリマス、其費用ガ二百九十二萬幾ラト相成ルデアリマスガ、是ガ二月三十一日ヲ以テ計算ヲ打切ツテ、其金ヲ交付スルト云フコトニナッテ居リマスカラ、買収シタコロノ金額ニ對シテ多少ノ利息其他ヲモ總テ含蓄致シテ居ルデアリマス、尤モ此濫澤榮一其他二名ノ手ヲ經マシタケレドモ、其間ニ何等ノ報酬等ヲ與ヘタルノテハナシト云フコトデアリマス、而シテ將來ニ於キマシテハ日本人ノ京城ニ在留スル者ノ増加ニ考ヘ、其幾部分カ水道ヲ使用スルモノト致シマシテモ、收支ハ償フデアラウト云フ計算デアリマス、是ハ相當ナルモノトシテ可決致シマシタガ、サリナガラ此ノ如キコトハ殆ド議會ノ協賛ヲ豫期シテ、一面ニ於テハ議會ヲシテ必ズ協賛ヲセシメザルヲ得ヌヤウナ境遇ニ於テ、此約束致シタト云フコトハ甚ダ穩當デナイ、故ニ此事ハ適當トシテ可決スルケレドモ、將來ニ於テ此ノ如キ手續ニ出デナイヤウニ注意アリタイト云フ警告ノ下ニ之ヲ可決致シタ次第デアリマス、其他ノ部分ニ付キマシテハ何等ノ異議モナク、皆原案ノ通り可決致シマス(拍手起ル)

○菅原傳君 別ニ御異議モナケレバ委員長ノ報告通り決定セラレシコトヲ望ミマス

(「贊成々々」ト呼フ者アリ)

○議長(長谷場純孝君) 別ニ御異議ハナシト認メマスカラ、第四號、明治四十三年度歲入歳出總豫算追加、特第四號、明治四十三年度各特別會計歳入歳出豫算追加、此二案共ニ豫算委員長ノ報告通り可決致シマス——日程第十六乃至二十七ハ同一委員ニ付託セラレ、且朝鮮ニ關スル事後承諾案及之ニ關聯セル議案ナルニ依リ、便宜上一括シテ議題トナシ、其大體ニ付テ討論ヲナシ、採決ハ之ヲ各別ニナシタイト思ヒマス、御異議ハアリマセヌカ

(「異議ナシ異議ナシ」ト呼フ者アリ)

○議長(長谷場純孝君) 御異議ガナケレバ其通りニ致シマス、特別委員長伊藤大八君即チ第十六ヨリ第二十七マデ、明治四十三年度勅令第三百二十六號ノ承諾ヲ求ムル件、明治四十三年度勅令第三百二十七號承諾ヲ求ムル件、明治四十三年度勅令第三百二十八號承諾ヲ求ムル件、明治四十三年度勅令第三百二十九號承諾ヲ求ムル件、明治四十三年度勅令第三百三十號承諾ヲ求ムル件、明治四十三年度勅令第三百三十一號承諾ヲ求ムル件、明治四十三年度勅令第三百三十二號承諾ヲ求ムル件、明治四十三年度勅令第三百三十三號承諾ヲ求ムル件、明治四十三年度勅令第三百三十四號承諾ヲ求ムル件、明治四十三年度勅令第三百三十五號承諾ヲ求ムル件、明治四十三年度勅令第三百三十六號承諾ヲ求ムル件、明治四十三年度勅令第三百三十七號承諾ヲ求ムル件、明治四十三年度勅令第三百三十八號承諾ヲ求ムル件、明治四十三年度勅令第三百三十九號承諾ヲ求ムル件、朝鮮ニ施行スヘキ法令ニ關スル法律案、即チ之ヲ一括シテ議題トナシ、特別委員長ヨリ報告ガアリマス

第十六 明治四十三年度勅令第三百二十六號(承諾ヲ求ムル件) (委員長報告)

第十七 明治四十三年度勅令第三百二十七號(承諾ヲ求ムル件) (委員長報告)

第十八 明治四十三年度勅令第三百二十八號(承諾ヲ求ムル件) (委員長報告)

第十九 明治四十三年度勅令第三百二十九號(承諾ヲ求ムル件) (委員長報告)

第二十 明治四十三年度勅令第三百三十號(承諾ヲ求ムル件) (委員長報告)

第二十一 明治四十三年度勅令第三百三十一號(承諾ヲ求ムル件) (委員長報告)

第二十二 明治四十三年勅令第三百三十三號 (委員長報告)

第二十三 明治四十三年勅令第三百三十六號 (委員長報告)

第二十四 明治四十三年勅令第三百三十七號 (委員長報告)

第二十五 明治四十三年勅令第三百三十八號 (委員長報告)

第二十六 明治四十三年勅令第四百六號 (委員長報告)

第二十七 朝鮮ニ施行スベキ法令ニ關スル法律案(花井卓藏君提出)

(伊藤大八君登壇)

○議長(長谷場純孝君) 尤モ此場合ニ御注意ノ御報告ヲシテ置クコトガアリマス、日

程第二十七、朝鮮ニ施行スベキ法令ニ關スル法律案、花井卓藏君提出、是ハ今日ノ

日程ニハマテ政府案ガ後ニアリ、政府ノ同意ヲ求メナケレバナラヌコトゴザイマス、豫

テ政府ノ同意ヲ求メマシタコト、政府モ同意致シマシタカラ、茲ニ揭ゲテアリマス

○伊藤大八君 諸君、委員會ノ經過結果ヲ御報告致シマス、委員會ニ於キマシテハ

總理大臣其他政府委員等ノ出席ヲ求メマシテ、數回質問應答ヲ重ネマス、就中勅令

第三百二十四號ノ如キハ大ニ問題トナリマシテゴザイマス、併ナガラ此案ニ付キマシテハ

未ダ委員會ノ決定ヲ以テ諸君ニ御報告致シマス、運ビニ參ジテ居リマセヌ、其他御依

託ニナリマシタコトノ十二案ヲ讀ミテ致シマシタ付キマシテ此段御報告ニ及ビマス、便

宜ノメニ委員會ニ於キマシテハ憲法第七十條ニ關シマス、併ナガラ此案即チ三案ガコ

ザイマス、此三案ヲ一括シテ議題ニ致シマシタコト、委員會ニ於キマシテハ三案トモ何

等ノ反對演說モゴザイマセズシテ、朝鮮ノ併合ニ際シテ緊急ノ處置ヲ執ラレタノハ相當

ノコトアル、故ニ緊急已ムヲ得ザルモノトシテ承認ヲ與ヘルコトニ是ハ致シマシテゴザイ

マス、其次ニハ憲法第八條ニ關スル勅令アリマス、是ハ七案デゴザイマス、此七案ト

ト此案ヲ修正致シタイト云フ動議ガ出マシテ、委員會ハ其趣旨ヲ認メマシテ可決致シ

マシタ、サリナガラ花井君ノ提出ヲ致サレタルコトノ其法律案ノ理由ノ中第二項デゴザ

イマス、其三項ニ議會假ニ緊急勅令ニ對シ事後承諾ヲ與フルモノトスル勅令ハ法律

ニアラサルヲ以テ如何ナル方法ニ依ルモ之ヲ修正シ若クハ改廢スルコトヲ得ス「斯様ニ書

イテゴザイマスガ、之ハ斯様ナ理由デハナイ、即チ法律ヲ以テ勅令ハ改廢自由ナリト云フ

ノ委員會デハ見解ヲ以テマシテ、此理由ハ否認致シテ居リマス、其緊急勅令ヲ法律ヲ

以チマシテ改廢致シタリト云フ例ハ二三アリマスガ、ソレ等ノコトハ委員會ノ速記ニ精シ

ク載テ居リマス、此處デ私ガ蛇足ヲ添ヘルノ要ハ認メマセヌカラ、之ハ省キマス、何

ウナ譯テ、委員會デハ十二案ヲ慎重ニ審議致シマシテ可決致シマシテゴザイマス、何

分此ノ如キ重大ナル案ニハ冷靜ニ慎重ニ御討議アデ御贊成アラントラ偏ニ希望シマス

○議長(長谷場純孝君) 此場合高柳君カラ先決問題ガ出テ居リマス、御諮リヲ

致シマス

○高柳覺太郎君 先決問題ノ前ニ委員長ニチヨット質問シタイコトガアル、委員會ニ

於テ三百二十四號ヲ特ニ後回シニシテ、他ノ議案ハ今日此日程ニ上ルニ拘ラズ、三百

二十四號ヲ今日ノ日程ニ上スマデノ順序ニナラナカッタ順序ヲ委員長ヨリ深ク御報告ア

ランコトヲ希望致シマス

○伊藤大八君 三百二十四號ハ委員會デハ問題ニナリマセナゲ、マダソレハ後ニ慎

重ニ審議シ、諸君ニ御報告致シマス機ガアルト考ヘマシタ故ニ、其事ノ理由ハ御答ノ必

要ハナイト考ヘマス

○高柳覺太郎君 ソレハ宜シウゴザイマス——私ハ此際先決動議ヲ提出致シマス、ソ

レハ唯今日程ニ上ッテ居リマス提案ノ中第二十七朝鮮ニ施行スベキ法令ニ關スル法

(二二)

律案、所謂花井案アリマス、此案ノ討議ヲ延期スルト云フ動議ヲ提出致シマス、ソ

レハ……

(「登壇々々」ト呼フ者アリ)

(高柳覺太郎君登壇)

○高柳覺太郎君 至ッテ理義明白デアリマス、餘リ諄々シクハ申シマセヌガ、一應

其延期ノ理由ヲ辯明シテ置カウト思ヒマス、其延期シマス譯ハ此同ク委員會ニ付託

セラレタルコトノ勅令ノ三百二十四號ノ本會議ニ上リマス、此議事ヲ延期スルノ趣

意デアリマス、何故ナラバ申スマデモナク此花井君ノ提出シタルコトノ法律案ハ緊急

勅令三百二十四號ニ代ルベキコトノ法律案デアリマス、提出者若クハ此案ヲ直ニ議

決セントスルトコトノ諸君ハ緊急勅令ヲ第一ニ承諾ヲ與ヘザルノ趣意ヲ以テ、今日直ニ

議決スルデアリマセウ、併ナガラソレハ豫斷デアリマス、緊急勅令ハ政府ガ既ニ議會開カ

ル、ヤ間モナク本會ニ提出シテ其承諾ヲ求メテ居ルトコトノ重大ナル案デアリマス、殊ニ

委員會ニ於キマシテモ深ク研究調査ヲ遂ゲラレタルコトノ問題デアリマス、故ニ此

勅令ヲ承諾スルヤ否ヤト云フコトハ最モ唯今委員長ノ報告シタ通り慎重ニ慎重ヲ重ネ

ベキコトノ重大問題デアリマス、而モ今日此花井案ヲ議決セントスルトコトノ諸君ノ

胸中ニハ無論此勅令ニ對スルトコトノ斷案ハ胸中ニ存在シテ居ルトアルト思フデス、

併ナガラ何ヲ苦シテカ此事後承諾案ヲ後ニシテ先以テ此法律案ヲ議スルヤト云フコト

ハ、私ハ本末輕重ヲ顛倒スルモノデアルト、斯様ニ深ク思フデアリマス

官報號外 明治四十四年三月八日 衆議院議事速記第十九號 明治四十二年勅令第三百二十一號(承諾ヲ求ムル件)外十一件 二六五

○議長(長谷場純孝君) 高柳君御注意シマスガ、日程ノ第十六ヨリ二十七マデヲ一括シテ議題ニ供シタイト云フコトハ先刻御諮ラシテ、議場ノ多數ガ容レテ居ル、ツレテ其時アナタノ其御發議ガナケレバナラヌ場合デアッタウト本職ハ思ヒマス、併シ委員長ノ報告ニ對シテツレヲ又發見サレテ此案ダケヲ延バスト云フ趣意ナラバ、ツレデ宜シ

○高柳覺太郎君 宜シ

○議長(長谷場純孝君) ツレナラ……

○高柳覺太郎君 其本末輕重ヲ轉倒スルタメニ若シ假ニ例ヲ設ケテシマスレバ、私ハ奇態ナル結果ヲ來ス場合ガアリヘセカト思フ、衆議院ハ茲ニ多數ヲ以テ彼ノ事後承諸案ヲ承諾ヲ與ヘザル豫斷ヲ以テ此法律案ヲ可決スルト假定シマシタコトガ、此法律案ガ貴族院ニ回タ場合ニ於テ、ドウデアリマセウ、貴族院ハ此場合ニ於テヤハリ衆議院ト同ク此勅令案ハ承諾ヲ與フベカラズト云フ豫斷ガアルナラバ、成程此法律案ガ通過スルデアリマセウ、併ナガラツレハ同ク豫斷デアリマス、若シ其豫斷ガ相矛盾衝突スル場合ニ於キマシテハ、此法律案ガ一案ヲ通過シマシテ、折角成立タウトストコロノ法律案モ遂ニ其豫斷ノ相違カラシテ意外ノ結果ヲ來ス譯デアル、折角法律トシテ成立サスベキトコロノ希望モ意外ノ結果ヲ來スコトニナルデアリマス、ツレ故ニ私ハ豫斷ヲセズシテ先以テ此緊急勅令ヲ議シテ、緊急勅令直ニ承諾ヲ與フベケンハ與ヘ、與フベカラズト決スルナラバ速ニ首ヲ斬ツテ然ル後ニ大ニ議スルモノハ議シテ宜カラウト思ヒマス、先以テ緊急勅令ノ三百二十四號ノ本讀ニ掛ルマデハ此花井案ノ議事ハ暫ク延期スルノ動議ヲ提出致シマス

(贊成)「下呼フ者アリ拍手起ル」

○議長(長谷場純孝君) 採決致シマス、日程第十六ヨリ二十七マデハ一括シテ議題ニ供シ、委員長ノ報告ガアリマシタコトガ、今高柳君カラ日程ノ第二十七ダケハ延期シタイト云フ先決問題ガゴザイマシタカラ採決致シマス、高柳君ノ動議ニ贊成ノ諸君ハ起立

起立者 少數

○議長(長谷場純孝君) 少數、消滅——政府及委員長ニ對シテ質疑ノ通告ガアリマス、神藤才一君

(神藤才一君登壇)

○神藤才一君 諸君、本員ハ當問題ノ議題ニ上ツテ居リマスルトコロニ直接ノ關係アルトコロノ事件、言換ヘレバ是ヨリ先ニテ極メナケレバナラヌト云フトコロノコトヲ總理大臣ニ質問スルデアリマス、併シ其理由ヲ簡單ニ私ハ述ベマスルガ、議論ニ涉ルト議長ヨリ御差止メニナルカモ知レマセヌガ、我輩ノ思フニハ理由ヲ述ベンケレバナラヌモノデカラ極メ簡單ニ述ベマスル、隨テ又本員ハカラツテ下手ノコトデ馬車馬的ノコトデ、御承知ノ通り演説ヤラ何ヤラ分ラヌカ知レマセヌケレドモ、併ナガラ演説デハナイ神藤ノ言葉ト思召シテ十五分間御清聴ヲ願ヒマス(笑聲起ル)段々ニ至ル程此問題ニ近寄ルトコロノ直接ノ關係ヲ引出シマスカラ、最初ハ餘談ノ横道ニ入ルト云フ御叱リモアルカモ知レマセヌガ、ドウカ十五分間——大末ニ至ツテ最モ直接ノ關係スルトコロノ論議ヲ述ベマスル故ニ、ドウカ暫クノトコロ御清聴ヲ願ヒマス(拍手笑聲起ル)我輩ガ此壇ニ登ル

以上ハ滿洲ノ戰爭ニムレ果デタコトノ軍人ノヤリ損ヒト思召シテ宜シ、餘談ハサテ措イテ(笑聲起ル)我帝國ガ併合シタル朝鮮ガデス、其併合以前即チ我帝國ノ保護ノ下ニ在リシ時代ト立ニ其併合後ニ於ケル朝鮮ノ國境ガ其鄰接國トニ關係アルトコロノ國境其モノデアリマス、之ヲ即チ總理大臣ニ問ヒ、次ニ勅令ニ關スルトコロノ御説明ヲ願フコトデアリマス、先ヅ是カラシテ簡單ニ述ベマス、凡ソ國家ガ外交上最モ急セニスベカラザルモノハ諸君ノ御承知ノ通り、其國ノ國境其モノデアアル、故ニ一國ガ新ニ新版圖ヲ發見スルカ、或ハ他國ヲ統一スルカ、或ハ之ヲ併合スルトキニ於テハ、先ヅ第一著ニ其新版圖ノ國境ヲ明瞭ニ劃一スルデアアル(ヒヤノ)「ト呼フ者アリ」、之ハ丁度諸君ノ御承知ノ通り、個人間ニ於ケル土地ノ賣買及其受授ニ先ヅテ其境界ヲ明瞭ニ致シ、後日相互間ニ於テ爭論ヲ惹起サザルガタメノ手段ト同一デアアル、而シテ此國境ナルモノハ諸君ノ御承知ノ通り、天然ノ國境アリ、人造ノ國境或ハ精神的國境等アリテ、之ヲ規定スルガ即チ國際公法上ノ原則デアアル、然ルニ若シ一國ガ此新版圖ヲ獲得スルニ當リテ、此最モ大切ナル國境ヲ忽セニスルニ於テハ其鄰接國トニ間ニ葛藤ヲ惹起シ、事甚シキニ至リマシテハ、此葛藤ヨリ事ヲ干戈ニ訴ヘ、或ハ訴ヘントシタル事實ハ歐米各國ハ勿論國ノ東西ノ間ハズ往々アッタコトデアアル、其實例ヲ舉ゲマスレバ諸君ノ御承知ノ通り、千八百二十六年佛蘭西ト「ハーデン」トノ國境大問題、千八百六十八年ハ彼ノ「サンステフエノ」ノ條約、千八百七十八年ニ伯林條約、或ハ諸君ノ御承知ノ通り、索漏西ト和蘭兩國間ニ於ケル國境ニ發見シタル鑛山大鑛脈ノ如キハ最モ然ルトコロデアアル、其他ノ實例ハ枚舉スルニ遑アラザル程デアリマスガ、是等ノコトハ大抵皆列國會議或ハ國際裁判ノ御世話ヲ蒙ツタデアアル、諸君現ニ露清兩國間ニ於テ西藏方面ノ國境ノ紛議ハドウデアリマセウ、殊ニ英清兩國間ニ於ケル國境ノ紛議ハ益々風雲ヲ急ゲテ居ルデハナイカ、現ニ此兩國ノ軍隊ガ日々ニ軍隊ヲ其國境ニ進メツ、アルト聞クノダ、況ヤ總理大臣ガ先日御述ベニテリマシタコトコロノ東洋ノ平和ヲ保障ンガタメノ朝鮮併合ニ於テハ、最モ是ガ鄰接國タル諸國即チ露清兩國ニ對シテ國境ヲ明瞭ニ致シ置クコト即チ是ガ東洋平和ノ骨髓デアアル、ドウデゴザイマセウ(笑聲起ル)況ヤ稀有ノ外交ヲ翻弄スル露清兩國ニ對シテハ尙更ノコトデアアル、諸君滿洲港ノ咽喉タル「ポセツ」大砲臺ノ鄰地鹿島ノ地ハドウデス、國境明カナラザルガ故ニ、韓國ハ露國ニ之ヲ橫奪セラレシニアラズヤ、第二十四回ノ帝國議會ニ於テ本員ガ時ノ政府ニ質問シタル彼ノ問島ノ問題ハドウデス

○議長(長谷場純孝君) 神藤君

○神藤才一君 ハイ

○議長(長谷場純孝君) 此十二案ノ中ニハ國境ノ問題ハ加ッテ居ラヌヤデアリマスカラ、是ニ國境ヲ御加ヘニナルコトハ差支アリマスマイケレドモ、直接ニ關係アルコト、云フコトヲ先刻議長ガ宣言シテ置キマシタカラ、何等ノ言葉ヲ用井ルニ拘ラズ、今ノ御言葉ハ議院法第四十八條ニ依ッテ質問スベキモノト思ヒマス、直接當該問題ニ付テ御質問ガアレバ格別

○神藤才一君 ハイ、即チ是等ノ問題カラ勅令事後承諾モ產出スコトニナル、即チ彼ノ問島ノ問題ハドウデセウ、即チ九州四國ヲ併合シタルヨリモ廣大且肥饒ニシテ我帝國ノタメニハ軍事外交及經濟ノ此三見地ヨリシテモ實ニ一大切要ナル問島ハ徹頭

徹尾韓國ノ領土ニアラズアル、是レ當時議會ニ於テ本員ガ詳シク述ベ置キタルヲ以テ當時ノ議員諸君ハ既ニ能ク御承知ノコトナルナランガ、此間島ガ韓國ノ領土デアリシコトハ清國ガ韓國ノ微弱ニ乘ジ横領ニ横領ヲ極メ、遂ニ清國自身ハ清韓兩國ノ境界線即チ白頭山頂所謂分水嶺ニ康熙五十一年五月一日定界碑ヲ建テ、是ヨリ人造的ヲ以テ嘔呀、布爾哈圖河ニ延長シタル國境ヲ作り、又明治三十五年韓國駐節公使ノ露國公使「ウエバー」氏ハ時ノ韓國外相李道宰ト露韓兩國協治爲政ヲ此間島ニ設ケタルデアアル、且自治團體ヲ作り、若シ第三位ノ國ニシテ此間島ニ干渉センカ、露國ハ獨リ責任ヲ以テ是ニ當ルベシト殆ド保護的協約ヲ爲シテ間島ハ韓國ノ領土デアアルコトヲ確證シタルデアアル、此ノ如ク實地ト外交トノ實證アルニモ拘ラズ保護國タル我が帝國ハ被保護國タル韓國ヲシテ此廣大ナル間島ノ領土權ヲ清國ニ讓與セシムルニ至ラシメタルデアアル、是レ所謂屈讓的外交カハ知ラザレドモ、免モ角モ第二十四議會ニ於テ竹越三又先生ガ御祭音樂的外交トノ稱賛的ノ外交ニ囁ミ立テラレテ、他ニ一物ノ交換モナク御目出度相濟シタルデアアル、是レ畢竟國境定マラザルガ故ニ事爰ニ至ツタルデアアルガ、固ヨリ國境ノ不定ハ其國外交家ノ手腕ニ依ツテ其領土ノ伸縮ヲ起生スルハ勿論デアアル、是レ非凡ナル外交家ノ最モ得意トスルコトデアアルガ、我國外交家ノ手腕トシテハ如何ナモノデアアラウカ、是レ大ナル疑問デアアル、聞ク當議會ニ於ケル或ル政府委員ハ朝鮮ノ國境ハ其併合後今日ニ於ケルモ尙錯雜不定デアアルトコトヲ申サレタル云フコトデアリマス、宜ウゴザンスカ——宜イカ、間島讓與以來白頭山以北ニ於ケル露清兩國ニ對スル朝鮮ノ國境ハ如何又白頭山以南新義州ニ至ルマデノ清國ニ對スル朝鮮國境ハドウデアアル、豆滿鴨綠ノ兩江並ニ長白山ハ東洋屈指ノ大森林デアアル國境定マラザルガ故ニ滿韓兩國民ハ入亂レテ之ヲ濫伐シツ、アルデハナイカ、殊ニ楚山ヨリ新義州殊ニ昌城邊マデノ鴨綠江中ニハ大島嶼ノ諸所ニ散點シテ之ニ大章ノ繁茂シアアルヲ以テ、此兩岸ノ滿韓兩國民ハ此章ヲ獲收センガタメニ毎年大爭鬭ヲ惹起シテ居ル、是レ諸君モ御承知ノ通り滿韓兩國民ノ家屋ニハ最モ此章ヲ必要缺クベカラザルモノデアアル、故ニ大島嶼ニ繁茂スル章ハ彼等兩國民ノタメニハ一大切要ナル財産デアアル

○議長(長谷場純孝君) 神藤君ニ御注意致シマス、唯今議題トナツテ居ルノハ主ニ朝鮮ノ財政ニ關スル案デアリマス、議院規則ニモ質疑ハ當該案ニ對シテ直接ノ疑ヲ質スノデアリマスカラ、御承知デモゴザイマセウケレドモ、今ノ御演說ハ當該案ト少シ隔ツテ居ルヤウニ議長ハ認メマスカラ暫ク發言ハ許シマシタケレドモ是ニ遠キコトナレバイケマセヌ

○神藤才一君 ソレカラ段々入ッテ行ク——繁茂スル章ハ彼等兩國民ノ爲ニハ一大切要ナル財産デアアル、是レ彼等が毎年大爭鬭ヲシテモ之ヲ獲收セントスルニ外ナラザルモノデアアル、又清韓兩國ノ官憲モ相互ニ其國境ノ不定ナルニ乘ジテ、是レ自國ノ領土ナリトシテ之ヲ爭フノハ已ムベカラザルモノデアアル、苟モ一國ノ體面殊ニ大陸ニ立脚ノ地ヲ得テ、世界第一等國ニ昇進シタル我日本帝國ノ體面ヲ以テ外ト外交ニ當ランニハ、國境ハ最モ忽セニスベカラザル一大問題デアアル、況ヤ國ト國トノ併合シタル今日、況ヤ總理大臣ガ先日御述ベニナリマシタ東洋平和ノ名ノ下ニ於ケル日韓兩國ノ併合シタル今日ニ於テハ最モ然ルトコロデアアルト本員ハ確信スルデアアル、殊ニ彼間島讓與ノ如キ卑屈

的外交ノ轍ヲ再ビ履マザランガタメニ此大陸國境即チ露清兩國ニ對スル朝鮮國境ニ付テ總理大臣ニ御說明ヲ求ムルデアアルガ、是ガ即チ今日勅令ナリ法律ナリ經濟ナリ皆是等ノコトヲ產出スノデアアル、畢竟國境ガ定マラナイカラ何事モ出來ヌ、二十四議會ニ於テ懇々述ベテ置イタ通り、間島ハ九州四國ヨリモ大キナ地ヲ横領セラレタモノデアアル、殊更ニ東洋ノ平和ヲ保ツト云フ名ノ下ニ朝鮮併合ノ實ハ何レノ點ニアルカ、即チ露清英清ノ國境問題——國境ヲ定メズシテ其國ハ何ヲスル、ウレデ以テ不明不法不當ナル問題ヲ事後承諾トスルハ如何ナモノデアアルカ、段々言ッテ居ルト妨ゲニナルニ依ッテ、是ハ述ベマセヌガ如何デアリマセウ、總理大臣閣下或ハ總督閣下ヨリ詳シク御說明アラントヲ望ミマス

(內閣總理大臣侯爵桂太郎君登壇)

○內閣總理大臣(侯爵桂太郎君) 唯今御質問ニナリマシタ境界ノコトニ付一言申述ベテ置キマス、質問者ノ言ハレマスニハ境界ハ不定デアアルト言ハレマスガ、境界ハ定ツテ居ルト云フコトヲ御答辯致シテ置キマス

○法學博士花井卓藏君 議長

○議長(長谷場純孝君) 花井君ハ先刻カラ發言ヲ求メラレマシタガ、何デスカ

○法學博士花井卓藏君 本員ハ衆議院規則第十條ノ第二項ノ規定ニ依リマシテ發言者トシテ發言ニ對スル趣旨ヲ辯明ヲ爲サンガタメニ再ビ演說ヲ致シタイデアリマス

○議長(長谷場純孝君) ソレハ提出者トシテ御辯明ニナルノハ宜シウゴザイマスガ、モウ少シ質問モアルヤウデアリマスカラ、ウレノ終ツテ討議ニ入ッタクニ二十七ノ日程ノ御辯明デアラウト思ヒマスカラ……

○法學博士花井卓藏君 ドチラデモ宜シウゴザイマス

○議長(長谷場純孝君) 其場合ニ御演說ニナル方ガ宜カラウト思ヒマス

○日向輝武君 私ハ此際朝鮮統治ノ根本策ニ付テ政府ニ質問ヲ致シタイト思ヒマスガ、宜シウゴザイマスガ

(「登壇々々」贊成々々「ト呼フ者アリ」)

○議長(長谷場純孝君) 此日程ニ直接ノ關係ガアルノデアリマスガ

○日向輝武君 大ナル關係ヲ持ツテ居リマス

○議長(長谷場純孝君) 根本策ト朝鮮ノ合併ニ關スルト云フコト、ハ直接ノ關係ハナイヤウニ思ヒマスガ……

○日向輝武君 朝鮮ノ合併ナドハ過去ノ事實デ問ハナイ

○議長(長谷場純孝君) 此日程ニ直接ノ關係ガアルナラバ、發言ヲ許シマス

(「登壇々々」ト呼フ者アリ)

○議長(長谷場純孝君) 日程ノ十六カラ二十七マデニナツテ居リマスカラ、御注意ヲ致シテ置キマス

○日向輝武君 承知致シマシタ——簡單ニ要領ダケヲ述ベマシテ、桂侯ノ說明ヲ求メタイト思ヒマス、桂侯ハ第二十六議會ニ於キマシテ斯ウ云フコトヲ明言セラレタノデア

ル、帝國政府ハ韓國トノ現在關係ヲ變更スルノ意思ヲ有セズ、二十六議會ガ終リヲ告

ゲヤシタノハ昨年ノ二月末アリマシテ、韓國ガ我國ニ合併セラレマシタノハ同ノ其年ノ八月アリマス、韓國トノ現在關係ヲ變更スル意思ヲ有セズト明言セラレタ其舌根未ダ乾カザルニ、韓國ハ帝國ノ領土トナッタノアル、桂侯ハエライ政治家アリマス、併ナガラ時ニハ嘘ヲ言フエライ政治家アル(「ヒヤ」)ト呼フ者アリ)私が問ハントスル條項ハ、此朝鮮ノ併合ナルモノハ財政上我國ニ累ヲ及ボスコトハ極メテ大ナリト信ズル、今後其經費ハ益々膨脹シ、是ガメニ生ズル國民ノ負擔ハ益々増加シテ行クト云フコトハ明カアル、何故ニ桂侯ハ其實ヲ明ササニ語ラテ、事ヲ國民ト共ニ圖ラナイノアルカ(拍手起ル)第二ハ既ニ本會ヲ通過致シマシタ朝鮮事業公債案ナルモノハ是ハ形ヲ變ヘルトコロノ陸軍擴張費アラテ、其實ハ朝鮮ヲ武裝スル費用アル、何故ニ桂侯ハ其事實ヲ事細カニ語ラテ言葉ヲ飾ラズ事實ヲ明ササニ語ラテ、國民ト共ニ朝鮮ノ經營ニ盡サレナイノアルカ、第三ハ帝國ガ大陸ニ足ヲ踏ミ——一度足ヲ踏シテテアッテ、此大陸政策ナルモノハ主トシテ海軍ヲ以テシ、帝國ノ海軍ガ澎湖島以東ノ支那海、黃海及日本海ノ海上ニ於テ優勢ナル制海權ヲ維持シタナラバ、朝鮮及滿洲ニ於ケル我大陸政策ハ遂行セラル、ノアル、然ルニ桂侯ガ陸軍ヲ中心トシテ居ルトコロノ軍國主義ヲ取ッテ、サウシテ朝鮮經營ノ著手ニ當ラレタノハ大ナル誤リデアラウト信ズルノアル、桂侯ハ須ク是ニ對シテ其誤ラザル所以ヲ辯明セラレタノアリマス……

○議長(長谷場純孝君) 御注意シマス

○日向輝武君 直グ止メマス

○議長(長谷場純孝君) 直接ノ關係ガナケレハ發言ヲ中止シマス

(「ヤルベシヤルベシ」ト呼フ者アリ)

○日向輝武君 私ハ大ナル關係ガアルト信ジマス——第四ハ寺内子爵ハ——寺内子爵ハ朝鮮總督アル、同時ニ又國務大臣アリマス、身常ニ 陛下ニ咫尺シ 陛下ノ御側ニアッテ、サウシテ閣臣連帶ノ補弼ノ大任ヲ全ウスルコトハ朝鮮ニ居ッテドウシテ出來マセウカ、朝鮮ノ總テニ關スル法律モ此朝鮮總督ガ一方ニ國務大臣ヲ兼テ居ッテ陛下ヲ輔弼スルトコロノ大任ガドウシテ果セルノアルカ、又根本ノ重大ナル問題ヲ桂侯ハ何故ニ放任シテ顧ミナイノアルカ、或ハ朝鮮ニ居ッテモ陸軍省ノ事務ヲ指揮スルニ差支ナイト云フコトヲ答ヘラレカモ知レマセウカ、ソレハ一省ノ行政長官トシテノ其所管スル事務ハ差支ナイカモ知レナイ、併ナガラ國務大臣タルコロノ大任ハ又別問題デアリマス、或ハ 陛下ノ大命ナリト云フコトヲ以テ御答ヘニナルカモ知レマセウカ、併ナガラ陛下ノ大命ナリト云フコトハ議會ニ對スル答辯トハナラナイノアル、此四點ヲ尙敷衍シテ詳細ニ其質問ノ趣意ヲ述ベタイノデアリマスガ、ソレハ總テ略シテ唯此要點ヲ述ベテ桂侯ノ詳細ナル御辯明ヲ希望致シマス(拍手起ル)

○議長(長谷場純孝君) 桂内閣總理大臣

(内閣總理大臣侯爵桂太郎君登壇)

○内閣總理大臣(侯爵桂太郎君) 唯今質問者ノ御質問ニナリマシタ其第一點ニ於テ本官何時ノ場合ニ此ノ如キコトヲ申シタカ、一向記憶ニナイノデアリマス、本官ノ信ズルトコロデハ斯様ナコトヲ何レノ場合ニ言ウタカ、決シテ公會ニ於テ言フコトハナイト信ジマス、其他ノコトハ質問者ノ御意見アル、又之ニ御答辯スルノ限リデナイト考ヘマス

(「速記録ニアッタラドウシマス」ト呼フ者アリ)

○村松恆一郎君 直接關係ノアル質問ヲ致シタイ

○議長(長谷場純孝君) 村松君

(「登壇」ト呼フ者アリ)

(村松恆一郎君登壇)

○村松恆一郎君 本員ハ極メテ簡單ニ質問ヲ致スノデアリマス、ソレハ朝鮮總督府ノ豫算ニ關スルコトデアリマスガ、昨年來朝鮮總督府ニ於キマシテハ總督府ニ反對シツ、アルト認メラレテ居ルトコロノ朝鮮ニ於ケル各種ノ新聞雜誌ヲ盛ニ買潰シヤラシテ居ル、之ハ事實デアリマス、今現ニ交渉中ノモノモ確アルト私ハ信ズルノデアリマスガ、此ノ如キ費用ハ如何ナル財源ニ依リ、如何ナル費用カラ支出セラレルノデアリマスガ、是ダケヲ御尋致シマス(拍手起ル)

○議長(長谷場純孝君) 是ヨリ討論ニ移リマス

(「答辯ナカラザレバ國民ノ疑惑ヲ奈何セン」答辯シ能ハザル理由ヲ示スベシ)ト呼フ者アリ)

○議長(長谷場純孝君) 答辯ハアリマセウカヲ討論ニ移リマス、大石正己君

(大石正己君登壇)

○大石正己君 私ハ政府ノ求メラレテ居ル事後承諾案ニハ一切反對ヲ致シマス、又此場合議題トナッテ居ル朝鮮ノ將來ノ統治策、即チ法律ヲ以テ總督ニ多大ノ權能ヲ與ヘルト云フ案ニモ反對ヲ致スノデアリマス 第一此承諾案——事後承諾ヲ求ムルト云フコトツレ自身ガ大分近來ハ事柄ノ輕イヤウニ之ヲ看做スト云フ風ニ流レテ居ルト云フコトハ、甚ダ此議會ノ權能上ヨリ私ハ嘆息ヲ致シテ居ル、或ハ事後承諾案ノ如キハ承諾ヲセナクテモ其效力ノ上ニハ敢テ關係ハ無イ坏ト云フヤウナ風ニナッテ居ルガ、私ノ見ルトコロデハ此事後承諾案ニシテ若シ承諾ヲ得ナイト云フ場合ニハ當然此内閣ノ不信任アル(「ヒヤ」)ト呼フ者アリ)其意味ヲ以テ事後承諾ヲ求メ、又議會モ其意味ニ於テ事後承諾ヲ與ヘルト云フヤウニ鄭重ニ致スベキコトデアルト思フ、ソコデ今日ノ委員長ノ報告ニ依リマスルト云フト、緊急已ムベカラザルコトヲ認メテ委員會ハ承諾ヲ與ヘラレタト云フコトアル、此緊急已ムベカラザルコトヲ事後承諾ヲ與ヘタト云フトニ付テハ私ハ大ニ見込マシテ居ルガ、第一此事後承諾ヲ求ムルニ當ッテ政府ノ答辯ト云フモノハ如何ナル答辯ヲセラレテ居ルカト云フコトヲ見ルト、承諾ヲ求ムベキ理由ガ具ッテ居ナイ、又承諾ヲ與ヘタ方ノ委員會ニ於テハ如何ナル事實ヲ指シテ緊急已ムベカラザルコトデアルト云フノアルカ、私ハ甚ダ疑フノデアル、何トナレバ總理大臣ノ委員會ニ於ケル説明ヲ見ルト云フトニツテアル、一ツハ至急——最モ至急ニ最モ急速ヲ要スル場合デアッテ議會ニ諮ル餘地ガ無カッタト云フコトデアル、是ハ時ノ問題ニナル、モウ一ツハ總理大臣ノ辯明ニ依ルト云フト、不測ノ變災ガ起ル虞ガアッタカラシテ、議會ニ諮ルコトガ出來ナカッタ、若シ議會ニ諮ラナラバ此不測ノ變災ガ起ッテ遂ニ合併ノ計畫ヲ誤ルノデアル、此二ツニ外ナラズ、所デ最モ至急ニ最モ急速ニシテ議會ニ諮ルノ餘地ガナカッタト云フコトハ、是ハ更ニ受取レナイ、何トナレバ此朝鮮併合ノコトタルヤ凡ツ一年程モ前カラハ廟議ニ於テ決定シテ、サウシテ其準備ニ掛ッテ居ルノデアル、時ノ問題ニ於テハ最早餘地

ハナイ、何ト言フシテモ容スベキ餘地ハナイ、不測ノ變災ガ起ルト云フコトニ付テ總理大臣ハ如何ニ辯ゼラレテ居ルカト云フ、内外ノ情勢ニ於テ之ヲ議會ニ諮ルヤウナ時間ヲ潰シヨクナラハ不測ノ變災ガ起ル虞ガアツタ、斯ウ云フ、ソコ委員ノ人ノ質問ニ其不測ノ變災ト云フモノハ如何ナルモノヲ指シテ言フノアルカト云フコトヲ推サレテ見ルト云フ、今度ハ曰ク、其不測ノ變災ハ言ハウモ言ヘナイ、當局者ノ位地ニ立ッテ御考ヲ下サレト、斯ウ言フテ居ル、即チ此不測ノ變災ト云フモノハ事實ニ於テ決シテ存在シテ居ナカッタノアル、若シ之ガ存在シテ居タナラハ、不測ノ變災ノ實物ヲ押ヘテ此處ニ御辯明ニナル譯、不測ノ變災ト云フコトハ事實ニ於テハナカッタガ、當局者ガ朦朧トシテ唯當局者自身ノ所謂妄想デアッタニ相違ナイ、私ハ此處ニ其緊急已ムベカラサルコト及不測ノ變災ガ起ルト云フコトニ付テ、之ヲ解剖シテ見タナラハ、ドウ云フモノニナルカト云フコトヲ一言辯シタイノアル、朝鮮併合ノ際ニ當テ政府ガ帝國議會ニ當然諮ルベキモノヲ專斷スルト云フコトニ於テハ、確實ナル茲ニ理由ガナケレバナラヌ、其確實ナル理由トハ何デアルカ、第一ニハ若シ議會ニ諮リシナラハ國防上危險ノアル場合ト云フノガ一ツデアル、國防上危險ガアル、斯ウ云フノガ一ツノ理由ニナル、然ルニ此朝鮮併合ノ際ニ於テ國防上危險ナリト云フ何ノ真ガアツタノアル、外國ガ兵力ヲ以テ之ニ干涉スルカ、若クハ外交上ニ於テ帝國ニ壓迫ヲ加ヘルト云フ國ガアツタナラハ、國防上危險ノアル場合ト云フコトガ言ヘル、左様ナ場合ハ一切成立ッテ居ラヌノアル、モウ一ツハ被合併國即チ朝鮮、朝鮮内部ニ於テ内亂若クハ變動ノ起ル虞ガアルト云フ場合ハ確ニ是ハ理由ニナル、朝鮮併合ノ際ニ左様ナ狀態ガ成立ッテ居タカドウデアル、朝鮮ノ當時ノ形勢ト云フモノハ既ニ彼ノ兵力ヲ奪ヒ、警察權ヲ日本ノ手ニ收メ、司法ノ權ヲ取り、外交、内政、財政ノ權ト云フモノヲ舉ゲテ日本帝國ノ手中ニ收メテ居タ場合デアル、(拍手スル者アリ)殊ニ其併合前ニ當テ朝鮮ノ軍隊ト云フモノハ總テ解散シテ居ル、此場合ニ於テ或ハ朝鮮官吏ノ以外ニ於テ、國民ノ政治的團體ナルモノガアツテ、若シ是ガ反對ヲスルト云フコトガアツテモ、ソレハ多少ノ言前ニナルノアルガ、併シ朝鮮ノ當時ノ情勢ト云フモノハ即チ一進會其他朝鮮ニ於ケル政治的團體ト看做サレトコロノモノハ皆日本ニ併合ヲ望ムトコロノ請願ヲ出シテ運動シテ居ル、此朝鮮ニ於テ内亂若クハ變動ヲ起ス憂ガアツタト云フコトハ、ドウ見テ當局者ハ想像ヲサレタノアル、又此場合併合スルトコロノ即チ母國タル日本帝國内部ニ於テ何カ併合ニ反對スル大運動ヲ起ス虞ガアツタカト云フニ決シテナイノアル、當局者ガ緩慢ニシテ朝鮮併合ノ遲緩ナルコトヲ罵ルト云フ有様デアツテ、一人モ朝鮮併合ニ反對スル運動ヲ起スト云フ虞ハ決シテナカッタノアル、然ラバ即チ内外ニ於ケル情勢ハ如何ト云ヘバ不測ノ變災ガ起ルト云フ憂ハ毫モナイ、モウ一ツハ何デアル、政治上經濟上ニ於テ若シ議會ニ諮リツ、アツタナラハ、重大ナル損害ヲ受ケルト云フ場合若クハ諸ラズシテヤレバ大ナル利益ヲ收メルト云フ場合デアアル、決シテ左様ナ政治上經濟上ニ於テ議會ニ若シ諮ラナラハ、是ダケノ損害ヲ受ケルト云フ事實ハ毫モ成立ッテ居ラナカッタノアル、而モ斯様ニ一々分析シテ申上ゲナクテモ朝鮮ト日本帝國ノ勢力ノ權衡上カラ考ヘテ見テモ分リ切ツタ話デアル、日本帝國ハ百万ノ強兵ヲ提ゲテ居ル、五十万噸ノ艦隊ヲ浮ベテ居ル、朝鮮國ニ於テ此際寸鐵ヲ帶セテ居ラヌ、此大勢力ヲ以テ此貧弱ナル朝鮮ニ臨ンデ何ノ不測ノ變災ガ起ル虞ガアルト云フノアル(ヒヤ／＼ト呼フ者アリ)若シ尙此ノ如キ内外ノ形勢ニナッテ居ルノニ不測ノ變災ガ起ルコトヲ恐ル、ト云フナラハ、全ク事實ニハナイガ、唯幽靈ヲ夢ミルガ如クニ當局者ノ妄想ヲ恐レタト云フダケノ話デアツテ、事實恐ルベキモノハ存在シテ居ラヌ(拍手スル者アリ)此ノ如キ場合ニ於テ尙朝鮮ヲ併合スル上ニ於テ其不測ノ變災ノタメニ日本帝國ノ計畫ヲ誤ラナドト云フコトヲ恐ル、ナラハ、是ハ世界無類ノ臆病人デアル(拍手スル者アリ)ソレデモ吾々ハ當時現内閣ガ朝鮮併合ニ際シテ財政上及其他政治上ノ處置ヲ取ル上ニ於テ當然帝國議會ニ協賛ヲ求メテ悠々トシテ之ヲ斷シテ差支ナイモノト看做ス、唯妄想ニ依ッテ何モ内外ノ情勢ニ於テ此計畫ヲ誤ラシメルダケノ事實ガ存在シテ居ラヌモノヲ、或ハ不測ノ變災ガ起ランコトヲ恐レタト云ヒ、緊急已ムベカラズト云フ、其緊急已ム可ラザル事實ト不測ノ變災ト云フモノ、正體ヲ茲ニ示サズシテ、唯言葉ノ上ニ於テイロ／＼ト其緊急已ムベカラズト云フコトヲ主張サレ、又當局者ガ自ら辯解ノ出來ヌコトニ至ルト、委員ノ諸君ニ向ッテ、當局者ノ位地ニ立ッテ御考慮ヲ下サレタナラハ御分リニナラウナド、云フニ至ッテハ、全ク此事後承諾ヲ求ムル理由ノ存在シテ居ラヌモノト看做ス(拍手起ル)議會モ亦此重大ナル事件ニ對シテ事後承諾ヲ與ヘルト云フニハ與ヘルダケノ理由ト其名義ガ成立タナケレバナラヌガ、吾々ハ其名義其理由ヲ見出スコトガ出來ナイ、是ハ當局者ノ承諾ヲ求ムルニ對シテ吾々ハ不承諾ヲ與ヘルト云フ主ナル理由デアル、而シテ一轉シテ朝鮮ノ將來ニ對シテ之ヲ如何ナル方法デ統治スルカト云フノ案ガ、即チ花井君ノ提出サレテ居ルトコロノ法律ニ依ッテ議會ノ權能ヲ殺イデ總督ニ專制ノ權ヲ與ヘルト云フ案デアル、是ハ又吾々ハ甚ダ贊成スルコトニ躊躇スル所以デアル、何トナレバ吾々ハ勅令ガ宜イ、或ハ法律ヲ極メルガ宜イト云フ區域ニ入ッテ爭フコトハ一向必要ガナイ、勅令ヨリハ法律ヲ極メタ方ガマシデアルトカ、或ハ勅令デヤツタ方ガ宜イトカ云フコトハ、是ハ既ニ此議會ノ權能ヲ割イデ、總督ニ大權ヲ與ヘルト云フコトガ極メ後ノコトデアル、吾々ハ朝鮮ヲ統治スル上ニ於テ、決シテ變則的ノ方法ヲ以テ治メル必要ガナイト見テ居ル、無論風俗人情ガ異ナル故ニ、法律規則モ異ナラナケレバナラヌト云フコトハアル、ソレ故ニヤハリ此議會ノ監督ノ下ニ法律ヲ制シテ、而シテ之ヲ實行サセルコトヲ總督ニヤラシメ宜シ、今日ノ場合日本程朝鮮ノ事情ニ明ルイ人民ハナイ、朝鮮ヲ併合致シタト云フコトハ近日ノコトデアル、ケレドモ朝鮮ヲ我帝國ノ恰モ府縣ノ如ク、郡村ノ如ク、朝鮮ノ政治ヲ執ツテ來タト云フモノハ即チ日本人デアル、或ハ彼ノ國ニ顧問トナッテ彼ノ政治ヲ指導シ、若クハ彼ト委任ノ條約ヲ結ンデ我ニ朝鮮ノ政權ヲ委託セシメ、若クハ朝鮮ノ役人ト日本人ガ自ラナッテ朝鮮ノ政治ヲ執ツテ來テ居ル、朝鮮ノ人情風俗ニ明ルイコトハ新屬地ヲ扱フ上ニ於テ日本人程明ルイ國民ハナイ、殊ニ朝鮮ト日本ノ地理上ノ關係カラ申シテモ敢テ九州、北海道ト異ナルモノデハナイ、海ノ便アリ、陸ノ便アリ、何モ特別ナル總督ノ權力ヲ附與シテ置カケレバナラヌト云フ必要ガ第一ナイ、此憲法ノ制定セラレテ居ル處ニ所謂正則的ノ政治ヲ朝鮮ニ施シテ、決シテ差支ナイ、事實上ニ於テ決シテ差支ナイ、殊ニ二年議會ハ開ケル、尙已ム得ズンバ臨時議會モ開ク、其議會ニ以テ朝鮮ノ法律規則ヲ前以テ知レテ居ルコトハ協賛ヲ經テ置ク、又或ハ出來事ガアレバ重大ナル出來事ハ無論内地ニ於テモ事後承諾ヲ得ヤルノアル、然ラザルモノハ順ヤト其次ノ議會ニ提出シテ、法律ヲ極メレバ宜シ、事實上ニ

ルト云フノアル(ヒヤ／＼ト呼フ者アリ)若シ尙此ノ如キ内外ノ形勢ニナッテ居ルノニ不測ノ變災ガ起ルコトヲ恐ル、ト云フナラハ、全ク事實ニハナイガ、唯幽靈ヲ夢ミルガ如クニ當局者ノ妄想ヲ恐レタト云フダケノ話デアツテ、事實恐ルベキモノハ存在シテ居ラヌ(拍手スル者アリ)此ノ如キ場合ニ於テ尙朝鮮ヲ併合スル上ニ於テ其不測ノ變災ノタメニ日本帝國ノ計畫ヲ誤ラナドト云フコトヲ恐ル、ナラハ、是ハ世界無類ノ臆病人デアル(拍手スル者アリ)ソレデモ吾々ハ當時現内閣ガ朝鮮併合ニ際シテ財政上及其他政治上ノ處置ヲ取ル上ニ於テ當然帝國議會ニ協賛ヲ求メテ悠々トシテ之ヲ斷シテ差支ナイモノト看做ス、唯妄想ニ依ッテ何モ内外ノ情勢ニ於テ此計畫ヲ誤ラシメルダケノ事實ガ存在シテ居ラヌモノヲ、或ハ不測ノ變災ガ起ランコトヲ恐レタト云ヒ、緊急已ムベカラズト云フ、其緊急已ム可ラザル事實ト不測ノ變災ト云フモノ、正體ヲ茲ニ示サズシテ、唯言葉ノ上ニ於テイロ／＼ト其緊急已ムベカラズト云フコトヲ主張サレ、又當局者ガ自ら辯解ノ出來ヌコトニ至ルト、委員ノ諸君ニ向ッテ、當局者ノ位地ニ立ッテ御考慮ヲ下サレタナラハ御分リニナラウナド、云フニ至ッテハ、全ク此事後承諾ヲ求ムル理由ノ存在シテ居ラヌモノト看做ス(拍手起ル)議會モ亦此重大ナル事件ニ對シテ事後承諾ヲ與ヘルト云フニハ與ヘルダケノ理由ト其名義ガ成立タナケレバナラヌガ、吾々ハ其名義其理由ヲ見出スコトガ出來ナイ、是ハ當局者ノ承諾ヲ求ムルニ對シテ吾々ハ不承諾ヲ與ヘルト云フ主ナル理由デアル、而シテ一轉シテ朝鮮ノ將來ニ對シテ之ヲ如何ナル方法デ統治スルカト云フノ案ガ、即チ花井君ノ提出サレテ居ルトコロノ法律ニ依ッテ議會ノ權能ヲ殺イデ總督ニ專制ノ權ヲ與ヘルト云フ案デアル、是ハ又吾々ハ甚ダ贊成スルコトニ躊躇スル所以デアル、何トナレバ吾々ハ勅令ガ宜イ、或ハ法律ヲ極メルガ宜イト云フ區域ニ入ッテ爭フコトハ一向必要ガナイ、勅令ヨリハ法律ヲ極メタ方ガマシデアルトカ、或ハ勅令デヤツタ方ガ宜イトカ云フコトハ、是ハ既ニ此議會ノ權能ヲ割イデ、總督ニ大權ヲ與ヘルト云フコトガ極メ後ノコトデアル、吾々ハ朝鮮ヲ統治スル上ニ於テ、決シテ變則的ノ方法ヲ以テ治メル必要ガナイト見テ居ル、無論風俗人情ガ異ナル故ニ、法律規則モ異ナラナケレバナラヌト云フコトハアル、ソレ故ニヤハリ此議會ノ監督ノ下ニ法律ヲ制シテ、而シテ之ヲ實行サセルコトヲ總督ニヤラシメ宜シ、今日ノ場合日本程朝鮮ノ事情ニ明ルイ人民ハナイ、朝鮮ヲ併合致シタト云フコトハ近日ノコトデアル、ケレドモ朝鮮ヲ我帝國ノ恰モ府縣ノ如ク、郡村ノ如ク、朝鮮ノ政治ヲ執ツテ來タト云フモノハ即チ日本人デアル、或ハ彼ノ國ニ顧問トナッテ彼ノ政治ヲ指導シ、若クハ彼ト委任ノ條約ヲ結ンデ我ニ朝鮮ノ政權ヲ委託セシメ、若クハ朝鮮ノ役人ト日本人ガ自ラナッテ朝鮮ノ政治ヲ執ツテ來テ居ル、朝鮮ノ人情風俗ニ明ルイコトハ新屬地ヲ扱フ上ニ於テ日本人程明ルイ國民ハナイ、殊ニ朝鮮ト日本ノ地理上ノ關係カラ申シテモ敢テ九州、北海道ト異ナルモノデハナイ、海ノ便アリ、陸ノ便アリ、何モ特別ナル總督ノ權力ヲ附與シテ置カケレバナラヌト云フ必要ガ第一ナイ、此憲法ノ制定セラレテ居ル處ニ所謂正則的ノ政治ヲ朝鮮ニ施シテ、決シテ差支ナイ、事實上ニ於テ決シテ差支ナイ、殊ニ二年議會ハ開ケル、尙已ム得ズンバ臨時議會モ開ク、其議會ニ以テ朝鮮ノ法律規則ヲ前以テ知レテ居ルコトハ協賛ヲ經テ置ク、又或ハ出來事ガアレバ重大ナル出來事ハ無論内地ニ於テモ事後承諾ヲ得ヤルノアル、然ラザルモノハ順ヤト其次ノ議會ニ提出シテ、法律ヲ極メレバ宜シ、事實上ニ

於テ特殊ノ權力ヲ——議會ノ權力ヲ殺イテ總督ニ與ヘテ置クト云フ前以テ左様ナコト
ヲスル必要ハ決シテ存シテ居ラス、是ハ變則政治ヲ爲サウト云フコトニ對シテノ所謂吾々
ハ正則的ノ統治法ニ依ッテ朝鮮ヲ治メテ行カウト云フコト、而シテ總督ニ若モ議會ノ權
能ヲ割イテ之ヲ與ヘテ置クト云フコトカラ起ル弊害ノ方カラ觀タトキニハ、益々吾々ハ此
法律ニ依ラウトモ、勅令ヲ以テシヤウトモ、總督ニ著大ナル權力ヲ附與シテ置クト云フコ
トハ頗ル不賛成デアアル、是ハ數箇月ノ經驗デアリマスケレドモ、朝鮮合併以來總督府
ニ於テ朝鮮ニ對スル法律規則其他政略上ノ處置ヲ見マスルト云フト、吾々ハ甚ダ寒心
セザルヲ得ヌコトガアル、抑々朝鮮ヲ統治シテ行クトコロノ大方針ト云フモノハ、朝鮮ノ產
業ヲ發達セシムルト云フコトガ主眼ニナルノデス、又日韓ノ彼我ノ同化ヲ速ニ圖ルト云フ
コトハ是ハ主眼ニナラニヤナラス、此大方針ト云フモノハ如何ナル人ガ如何ナル手段ニ
依ッテ朝鮮ヲ統治シテモ、此二ツヲ出デヌコトハ是ハ明カナコトデアアル、然ルニ此朝鮮ノ
生産の發達ヲ圖リ、若クハ彼我ノ同化ヲ速ニシテ、日本帝國ノ國防上、經濟上ノ基
礎ヲ鞏固ニスルト云フ目的ヲ達スルト云フコトハ、即チ是ハ朝鮮人デハ出來ヌデアアル、
日本人ノ力ニ俟テ、日本人ノ資力ニ俟ツト云フコトハ無論ノコトデアアル、無論日本人ノ
多ク朝鮮ニ移住スル、日本人ノ資本ガ朝鮮ニ注入セラル、ト云フコトヲ圖ルコトハ
最モ急務中ノ急務デアアル、然ルニ此朝鮮總督ノ政略ノ方針ナルモノハ如何ナル點ニ向
イテ居ル、何ト辯解ヲ致シタトコロガ、ドウ云フコトヲ以テ之ヲ辯護シテ見タトコロガ、大
體ニ於テ朝鮮總督府ノ今日マデヤシテ來タトコロノ所謂警察ノ即決例或ハ會社令其他
此新聞言論人民ノ自由權利——思想ノ自由ニ對スル束縛的、壓制的ノ手段ヲ執ラ
レタト云フコトハ、是ハ爭フベカラザルコトデアアル、事實ハ澤山アリマス、一々事實ヲ舉ゲ
ヤウト云フナラバ日モ亦足ラス、吾々ハ唯此綱領ヲ舉ゲテ此三箇條十分デアアル、餘リ
内密ニ入ッテ之ヲ許キハシナイ、此ノ如キコトヲ朝鮮ヲ治メルト云フコトガ果シテ朝鮮
ニ向ッテ産業ヲ發達ラ獎勵シ、彼我ノ同化ヲ速ニスルト云フ方ノ途ニ是ガ行クノデアアル
カ、將タ其反對ニ行クノデアアルカト云フコトハ、誰ガ見テモ明カナコトデアアル、既ニ此總督
府ニナッテ以來ノ日本人並ニ朝鮮人ノ批評ハ姑ク措イテ、外交團——領事或ハ宣教師
師其他朝鮮ニ出入スルトコロノ外國人ノ批評ト云フモノハ又聽クニ價スル、是等ガ此
總督政治ト云フモノヲ見テ何ト云フテ居ル、全ク此日本ノ朝鮮統治策ト云フモノハ軍
政デアアル、民政ヲ假裝スル軍政デアルト云フコトハ、殆ド是ハ通語ニナッテ居ル、凡ソ此
殖民地ノ發達ヲ圖リ、此ノ如キ未開國ヲシテ速ニ我國ニ同化セシムル、或ハ彼ノ産業
其他ノ發展ヲ圖ルト云フニハ、餘程此政治向キニ於テ種種々様々ノ人間ガ多ク移住シ
テ、多ク資本ヲ下シテ種々ナ企業ヲサスルト云フ方ニ之ヲ誘導スルヨリ外ニナイ、此軍
政的ノ束縛壓制的ノ方法ニ依ッテ何レモ朝鮮ニ住フコトハ精神上ニモ不愉快ヲ感ズル、
事業上ニモ干渉ヲ受ケル、斯ウ云フ處ガ決シテ榮エタト云フ例ハナイ、既ニ總督モ過日
來實業家ヲ集メテ朝鮮ノ産業の發達ヲ圖ルニハ實業家ノ力ヲ俟タナケレバナラヌナド、
云フ隨分御世辭ヲ振撒イテ居ルヤウデアアル、ケレドモ此朝鮮ノ生産の發達ヲ圖ルト云フ
コト、未墾地ヲ開墾スル、或ハ鑛山、山林ノ開發ヲヤル、詰リ此朝鮮ト云フモノガ商工
業ノ盛ナ國デアナイ以上ト云フモノハ、農事の事業ヲ獎勵發達セシムルト云フヨリ外
ニナイ、然ルニ此農事の鑛山或ハ山林、或ハ漁場等ニ對スル總督ノ手心地ハドウデア

ルカ、之ニ行ッテ事業ヲ企テルモノハ數千萬人アルデアアル、種々ナ政府ニ向ッテハ請願ヲ
シ、種々ナ特許ヲ得テ業ヲ營マントスルトコロノモノハ總督府ニモ其願書ノ多キ卓上山ヲ
成スト云フコトデアアル、一向是等ノモノニ對スル裁決ヲ與ヘヌト云フコトモ輿論デアアル、此
結果ト云フモノハドウ云フ方面ニ向ッテ進ミ居ルカト云フト、即チ或ハ民業ヲ干渉シ、成ル
タケ民業ヲ抑ヘテ、此官營ト云フコトヲ企テルト云フ是ハ措置デハナイカ、若シ然ラズト云
ハバツレハ然ラズト云フテモ宜カラウガ、併ナガラ今ノ方針ト云フモノハ詰リ官營ニ傾ク方
ノ方針ニナッテ居ル、民業ハ何處マデモ干渉スル、何處マデモ或ハ資力ノ乏シク、或ハ
總督府デ如何ハシイト見ルヤウナ人間ハ追々退去條例モ制定セラレルト云フ話デアアルガ、
段々嚴シクナッテ來ルデアラウ、サウ云フコトヲシテ此新殖民地、新領土ノ發展ヲ計ルト
云フコトハ到底是ハ望ミ得ラヌコト、是等ノ事實ニ考ヘテモ總督府ニ無限ノ權力ヲ與
ヘ、法律ヲ制定スル權力ヲ與ヘ、又政治的總督府ノ手心地ニ依ッテ事業ノ許否ヲ決ス
ル、總督府ノ憎惡ニ依ッテ即チ人ヲ韓國カラ退ケル、斯ウ云フコトニナレバ此日韓合邦
ノ結果ト云フモノハ詰リ日本帝國ノ財政ヲ枯渴シ、日本帝國ノ國防の基礎ヲ薄弱ナ
ラシムルト云フ結果ニ陥ルデアアル、吾々ハ左ナキニ必要ノナイノニ議會ガ自ラ其權能
ヲ殺イテ、總督ニ與ヘル、又憲法上ノ意味ニ於テモ甚ダ疑シイトコロマデ之ヲ侵シテ、尙
種々ナ工風ヲシテ法律ヲ立テ勅令ヲ拵ヘルト云フヤウナ行掛リニ之ヲ進メルト云フコト
ハ、元々不同意デアアル、況ヤ現總督府ノ筆法政策ト云フモノ、傾キハドチカラカ之ヲ批
評致シテモ決シテ將來朝鮮ヲ産業的ニ發達セシムル所以ニアラズ、又一面新聞、出版、
集會ノ自由ヲ禁マテヤルト云フコトハ詰リ教育上ニモ干渉ヲ恣ニシテ、朝鮮ニ於ケル人
智ノ發達ヲ妨ゲルト云フコトハ疑モナイコトデアアル、此ノ如キ壓制、專制ヲ行フト云フ人
ノタメニ折角合邦ヲシタトコロノ朝鮮ト云フモノヲ犧牲ニ供スルコトハ、我輩敢テ取ラス
(拍手起ル)或ハ進ンデ憲法論、法律論ニ入レバ多々反對ノ點ガアリマスケレドモ、吾々
ハ政略上ヨリ、朝鮮統治ノ大方針上ヨリ此ノ如キ、總督府ニ無限ノ大權ヲ附與シテ
朝鮮ヲ統治セシムルト云フコトハ大反對デアリマス(拍手起ル)

○議長(長谷場純孝君) 柴四朗君

(柴四朗君登壇)

○柴四朗君 諸君、嘗テ韓國ニ公使トシテ手腕ヲ揮ハレ、今ハ外交通ヲ以テ名高イ
大石君ノ後ヲ受ケマシテ、此演壇ニ登リマシタノハ私ノ光榮トスルトコロゴザイマス、而
シテ諸君ニ本問題ニ移ル前ニ願ッテ置キマスノハ、私ハ性來演說ト云フコトハ好マイモ
ノデアリマシテ、此演壇ニ登ラヌコトモ既ニ數年デゴザイマスガ、今日己マ得ズシテ此演
壇ニ立チマシタニ依リマシテ、或ハ辯ガ冗長ニ流レルカモ知リマセヌガ、諸君ニ於テ暫時
雅量ヲ以テ御清聽アラントラ希望スルノデゴザイマス、私ハ委員長ノ報告ニ全部賛成
ヲ表スルモノデゴザイマス、而シテ大石君ニハ反對デゴザイマスガ、第一ニ大石君ノ述ベラ
レタコトニ付テハ私モ略々賛成デアリマス、ソレハ大石君ハ此ノ如キ重大ナル問題ハ輕々ニ
論ズベキモノデハナクシテ、是ハ重大ナル信任問題デアルト云フコトヲ述ベラレマシタガ、私
モ此韓國併合ノタメニ起ルトコロノ此事後承諾ト云フノハ最モ重大ナル案件デアリマシ
テ、是ヲ議會デ否決シマシタナラ無論政府ノ信任問題デアルト解スルノデアリマス、併ナ
ガラ是ガ政府不信任デアルカ、信任デアルカハ僅ニ數日ノ間ニ決スルトデアラウト思ヒ

マス、是ハ事實ニ徴シテ、後トテ諸君ノ見ラレシコトヲ希望スルノデアリマス、而シテ大石君ハ之ニ承諾ヲ與ヘラレナシト云フコトニ付テ縷々御述ベニナリマスガ、其大案件ハ此ノ如キハ承諾ヲ與フル必要ノナシト云フコトヲ申サレタノデアリマスガ、抑、此朝鮮併合ニ就キマシテハ憲法第十三條ノ大權ニ依リマシテ條約ヲ締結サレ、而シテ御裁可ニナリマスヤ否、其瞬間ニ法律ヲ要スルノデアリマスカラ、是ニ於テ法律ニ代ルベキ勅令ガ發布サレマシト同時ニ又財政ノ處分ヲ爲サナケレバナラヌデアリマスカラシテ、財政處分ヲ政府ハ緊急ニ依テ取ツテデアリマス、而シテ之ヲ憲法ニ依テ議會ニ提出サレタノデアリマスカラシテ、此事ニ付テハ何等政府ノ責任ヲ問フベキ議論ガナシト信スルノデアリマス(ノウノト呼フ者アリ)又大石君ハ此財政ノ處分ヲ爲スニ當テ急ヲ要スルニアラズ、議會ヲ開イテ其協賛ヲ經テ、而シテ後ニ決スベキモノデアルト云フコトヲ申サレマシタガ、此ノ恩賜金或ハ免租ノコト、其他ノコトハ議會ヲ開キマシテ是ノ協賛ヲ得ルタメニ此コトニ付テ或ハ朝鮮ノ貴族ヲ如何ニスル、或ハ免租ヲ如何ニ取ツカト云フコトヲ論ジマシテ、而シテ後ニ恩賜金等ヲ下サイマシタナラバ朝鮮人ノ如キ事大主義ニ感化サレタモノハ如何ニ考ヘルデアリマス、其聖恩ノ效能ト云フモノハ非常ニ薄イト云フコトヲ私ハ斷言スルニ憚ラナイデアリマス(ノウノト呼フ者アリ)加之大石君ハ不測ノ災害ト云フコトハ認メナイ、朝鮮ハ平穩デアルト云フコトヲ申サレマシタケレドモ、僅ニ一年前ニ於テハ日本カラ討伐隊ヲ送ラレマシテ既ニ三十二年カラ三十二年ニ掛ケマシテ議會ニ此項提出ニナリマシタ通り、三百六十萬圓ノ討伐費ガ要ラレタゴザイマセヌカ、ソレガ此朝鮮併合ヲ去ルコトマデ一年經タヌノデアリマス、此ノ如キ事實ヲ抹殺シ去ルト云フコトハ大石君ハ此項禪門ニ歸依サレテ屢、無我ノ境ニ遊シテ居ラレト云フコトデアリマスカラ、或ハ其コトカラシテ御忘レニナツタカモ知レマセヌカ、私ノ如キ凡俗ハ事實ヲ事實トシテ陳述スルヨリ外ナイノデアリマス、私ガ之ヲ精細ニ論ジマスレバ少シク過去ノ事實ニ遡リタイト思フデアリマス、抑、朝鮮ハ日本建國以來幾多ノ聖主、賢相、名將、志士ガ心血ヲ注ギ、熱血ヲ灑イテ、而シテ尙打ツテ一丸トスルコトガ出來ズシテ、ソレガタメニハ近クハ大久保、西郷或ハ伊藤諸公ノ非命ニ斃レマシタノモ、皆是ハ朝鮮問題ノ禍源カラ起ツタコト、思ヒマス、然ルニ今日允文武允天皇ノ御世ニ於テ、而シテ今日ノ併合ヲ得マシタノハ本眞等ハ實ニ欣喜措クトコロヲ知ラズシテ、此併合ノ日ヲ以テ祝日トマデモ致シタイト考ヘル位デアアルデアリマス、然ルニ(ツンナコトハ關係ガナシト呼フ者アリ)マア默ッテ御聽キナサイ、而シテ私ガ經歷カラシテ此御話ヲ致シタイ考デアリマス、私ガ朝鮮ノコトニ關係ヲ致シマシタノハ犬養君ノ紹介ニ依リマシテ始メテ彼ノ亡命客金玉均、朴泳孝諸氏ト交際ヲ致シマシテ、彼ノ亡命客ガ日本ノ聲援ヲ當テニシテ事ヲ舉ゲマシタコトガ、事破レテ日本ニ亡命致シマシテ、而シテ日本政府ハ列國ヲ憚ツテ殆ド拾テ、路傍ノ人ノ如ク、又有志家モ尙之ヲ助ケナシト云フコトデアリマシタガ、犬養君ハ之ニ同情ヲ表シマシテ大ニ朝鮮ニ向テ事ヲ爲サントセラレマシタコトカラシテ、吾々ガ之ニ關係ヲシテ始メタノデアリマス、而シテ吾々ハ彼等ヲ助ケ、而シテ遂ニ刺客ヲ送ラレマシテ遂ニ二十七年ノ變亂ガ起ツタノデアリマス、此二十七年ノ變亂ガ起リマシタトキニ當ツテ、此間カラシテ朝鮮總督ノ權限、或ハ其他ニ向テ烈シキ議論ヲ爲サレタコトノ鈴木力君ノ如キハ如何デアリマス、當時少壯ニシテ一劍ヲ携ヘ、爆裂彈ヲ強奪シテ、彼ノ禍中ニ投ジテ朝

鮮ヲ助ケンセラレタル一人デゴザイマス(佳人之奇遇ヲ去ルコト遠シト呼フ者アリ)鈴木君カラ此ノ如キ議論ヲ聽クト云フコトハ實ニ今昔ノ感ニ堪ヘヌデアリマス、而シテ朝鮮ニ於テ果シテ不測ノ災厄ガ潛シテ居ルヤ否ヤト云フコトハ一昨年ノ暮私ガ同志ヨリ朝鮮並ニ滿洲露國ノ視察ヲ託セラレマシテ而シテ滿洲ニ參リマシテ、而シテ哈爾濱ニ往キマシタトキニ當ツテ彼ノ朝鮮人ガ哈爾濱或ハ浦鹽斯德等ニ於テ非常ニ危險ナ分子ノアルト云フコトヲ發見シタノデアリマス、私ガ哈爾濱ヲ去リマシタノハ伊藤公ノ遭難ノ二日前デアッタノデアリマス、(ツンナコトハ問題外デアリマス)ト呼フ者アリ問題外デアリマセヌ、是カラ事實ヲ證明スルノデアリマス、外交ヲ論ズルニハ大石君ヨリ當テ外交ヲ論ズルニハ事實ト歴史ヲ以テ判斷スルヨリ外ニナシト云フコトヲ大石君カラ聽イタコトガデアリマスカラ、此事ヲ以テ是カラ論ジヤウト思フデアリマス、而シテ私ガ滿洲カラ朝鮮ニ入リマシテ、非常ニ驚キマシタノハ朝鮮ガ數年前ヨリモ著シク變化シタコトデアル、ソレハ宣教師ノ勢力ガ非常ニ發達致シマシテ、ソレガタメニ學校ト云フモノモ澤山ニ起リマシタ、而シテ彼等ハ常ニ朝鮮獨立ノ歌ヲ歌ヒ或ハ危險ノ書籍ヲ頒布致シマシテ、是ガタメニ朝鮮人ハ非常ニ日本ニ反抗ノ氣勢ヲ高メタノデアリマス、是等ノ事實ヲ私ガ見マシタカラシテ急イデ日本ニ歸リマシテ、朝鮮ハ彼ノ通りニシテ置カレト云フコトハ實ニ危險デアリマスカラ、早ク處置スルコトヲ當局者ニ忠言ヲ致シタコトモゴザイマス、而シテ此事ヲ忠告シテモ具體的ニアラザレバ甚ダ要ヲ得ナイト思ヒマシタカラシテ、其處ニ居ラレトコロノ大竹君或ハ小川平吉君其他ト屢、集會ヲ致シマシテ朝鮮ニ關スル問題ヲ具體的ニ調査シテ之ヲ當局者ニ提言シタコトモゴザイマス、而シテ今日併合ノ結果ヲ見マスト、吾々ノ提案ハ多クハ採用サレタモノト考ヘテ居ルデアリマス(報告終リト呼フ者アリ)而シテ大石君ハ日本ノ外交ハ朝鮮ニ對シテハ失敗デアルト云フ御議論デアリマスガ、私ガ一昨日哈爾濱カラ受ケタコロノ哈爾濱ノ新聞ニアルコトヲ諸君ニ御參考ニ供シテ置キタイト思フデアリマス、是ハ露國ノ半官報「ノイオウレミヤ」ノ數日ニ互ツタ社說中日本ガ韓國ヲ合併致シマシテカラ種々ノ活動ヲ初メル中ニ其中ノ最も主ナルモノハ鐵道ノ普及デアル、其鐵道ハ京元鐵道ヨリシテ會寧ニ到リ、會寧ニ到レバ既ニ浦鹽斯德、二百二十哩ニシテ達スル、是ヨリ吉林ニ到リ、而シテ長春ニ達スルデアル、然ルニ今日ハ日露兩國ニ於テ協定ヲ重ネテ居ルカラ危險ノ虞ハナシト雖モ、國力競争ハ力ニアル故ニ、他日國交斷絶ト云フ不幸ニ遭遇シテ、干才相見ルニ至ツタトキニハ、露國ハ六年前ニ嘗メシヨリモ尙辛イ經驗ヲ嘗メナラヌデアル、然ルニ露國ノ鐵道政策ハ依然トシテ進歩シナイデアルト云フコトヲ論ジ、是ヨリシテ朝鮮内地ノコトヲ論ジマシテ、終リニ外交ニ付テ斯ク論ジテアルデアリマス、日本外交ノ成功ハ日韓合併ニ於テ最も顯著ナルモノデアリマス、昨年八月日本ハ極メテ簡單ニ韓國ヲ合併シテ韓帝ヲ廢セリ、而モ各國揃ツテ之ヲ默認シ一國トシテ之ニ何等ノ故障ヲ申出ツル者ナカリシ、若シ韓半島以外ノ地ニ於テ此ノ如キコトアリタルトセバ幾許ノ抗議紛出シ、幾種ノ虛鳴物議ヲ惹起シタルヤ知ルベキノミ、曾テ露國ガ朝鮮ニ於テ優先權ヲ得ントシタルトキ全世界ハ舉ツテ反對セリ而モ吾人ハ當時朝鮮ヲ以テ萬國ニ對シ萬國ノ貿易ニ對シテ其市場ヲ開クベキヲ宣言シ置キタリ然ルニ日本ハ朝鮮ヲ閉鎖シタリ朝鮮ニ於ケル歐米人ハ治外法權ヲ失ヒ日本ノ行政日本ノ裁判權ニ服スルコトナレリ、曩ニ哈爾濱ニ於テ自國ノ領事以外

如何ナル官憲ヲ承認スルヲ欲セザリシ獨逸人或ハ英國人ノ如キモ今日京城ニ於テ温順ニ日本ノ裁判ニ從ヒ共刑罰ニ服シ居ルナリ而モ一言抗議ノ聲アリシヲ聞カサルナリ是レ日本外交ノ巧妙ナリ結果ニ外ナラス之ハ寧ろ外國ノ新聞ニ於テモ尙此讀辭ヲ呈シテ居ルデアリマス(ツレガ何ノ關係ガアリマス)ト呼フ者アリ、笑聲起ル此ノ如クニシテ私ハ此統監政治ニ付テハ今度ノ合邦ニ付テ最モ巧妙ナル外交ニ依テ施行サレト云フコトヲ信ズルモデアリマス(ノウク)ト呼フ者アリ、今マデ伊藤公ノ如キ大政治家ガ朝鮮ヲ指導シテ居ルニ對シマシテモ展々暴徒ガ蜂起シマシテ、而シテ或ハ鐘路ニ大集會ヲ催シ、負商標商標生ガ四方ヨリ集マリテ妨害ヲシタト云フコトハ極ク近年ノ事實デゴザイマス、然ルニ此度ノ併合ノ最モ靜平ニ行ハレマシタノハ、此間總督ノ演說ニアリマスル通り、朝鮮ノ皇帝ヨリシテ統治權ヲ日本皇帝陛下ニ讓與サレ、而シテ其詔勅ハ日本皇帝陛下ノ詔勅ト立ニ統監ノ諭告ト云フモノガ、今マデハ韓國ノ内地マデニ行渡リマスニハ、二月或ハ三月掛テ居リマスノハ、今度ハ僅ニ二三日前チ置郵シテ命ヲ傳フルヨリ速ナリト云フ勢デ、悉ク僻遠ノ地ニマデ行渡リテ居ルデアリマス、故ニ今日マデ朝鮮人即チ兩班ノ人ガ浮説流言ヲ事トシ、常ニ禍亂ヲ起スト云フコトモ此詔勅ニ對シテ此機會ガナカッタデアリマス、是等ハ最モ巧妙ニ行ハレタル概例デアル、故ニ此間ノ統監ノ演說ニハ如何ナルコトヲ以テ施政ノ方針ニスルコト云フコトヲ答ニハ、第一ニ朝鮮人ニハ激變ヲ與ヘズシテ安心セシメ、生命ノ安固、財産ノ安固、營業ノ自由ト云フモノヲ根本ニスルト、斯ウ云フコトデ、吾々ハ無論承諾ヲ與ヘルコトニ躊躇シナイデアリマス(ツレハ贊成スル理由トハナラス)ト呼フモノアリ、而シテ大石君ガ先程人權問題其他ニ付テ縷々御議論デゴザイマシタガ、或ハ日本ノ人ニ付テハ多少ノ束縛ト云フコトガアツタカモ知レマセヌ、併ナガラ之ハ吾々ガ深ク考慮ヲ費サシタヌモノハ、日本ノ彼地ニ居留シテ居ルトコロノ十五六万人ヲ元ニスルカ、千三百萬ノ將來吾々兄弟ニ成行クベキ者ヲ同化シ、之ガ人望ヲ收メルメニ法律規則ヲ作ルモノデアルカ、即チ十六萬ノ者ヲ元ニスルカ、千三百萬ノモノヲ元ニスルカト云フコトハ、吾々ガ慎重ノ考慮ヲ費サナケレハナラス問題デアルト考ヘルデアリ、之ニ加フルニ日本裁判官ガ嚴肅ニ裁判シ、立ニ收稅吏ガ今日マデ朝鮮人ガ賄賂ヲ以テ裁判ヲ左右シ、收稅吏ト云フモノモ半バハ其私囊ヲ肥スト云フコトガアツタノヲ、之ヲ日本ノ役人直ニ裁判ト云フモノハ公平デアル、稅ト云フモノヲ納メル者ハ必ズ吾々ノ安寧幸福ノメニ納メルモノデアルト云フコトハ彼等ガ理解レマシタナラ、朝鮮人ヲ同化スルコトハ敢テ難キコトデアリマス、而シテ今日朝鮮總督ノ施政ヲ責メルニ種々ノ非難モアルデアリマスガ、總督ノ此間議會ニ述ベラレタコトヲ以テ見マスルト、官制ヲ發布シテ、而シテ役人ガ其赴任地ニ往ツタノハ十二月マデ、アル、ツレカラ僅ニ三箇月ニシテ施政ノ要點ヲ舉ゲルト云フコトハ、頗ル無理ナル注文デアルト私ハ考ヘルデアリマス、之ハ總督ヲ信任シテ、假スニ時日ヲ以テスルコトハ至當ト思フデアリマス、現ニ英吉利ノ「クローマー」卿ガ埃及ニ臨シテ施政ヲ舉ゲマシテ、非常ナ名譽ヲ博サレタノハ、何年掛リマシタカト云フト、十數年ノ歲月ヲ費シタデアリマス、然ルニモ拘ラズ昨年米國前大統領「ルーズヴェルト」ガ彼地ニ遊シテ、尙之ヲ以テ餘リニ悠長デアアル、何故ニ英人ハ尙一步進シテ埃及ヲ治メナカッタカト云フコトヲ述ベ、英國人ハ驚イタルデアリマス、此ノ如クデアリマスカラシテ臺灣ノ例ニ見マシテモ、臺灣デモ初メハ種々ノ

非難ガゴザイマシタガ、幸ニ兒玉總督立ニ今日ノ遞信大臣後藤男ノ手腕ニ依ツテ其非難モ消ヘテ、立派ナ國ニナリマシタ、故ニ朝鮮ニ於テモ吾々ハ此事後承諾ハ無論與ヘ、法律委任ノ權ヲ與ヘ、假スニ時日ヲ以テシテ、大ニ事蹟ノ舉ランコトヲ希望スルデアリマス、尙憲法問題、法律問題ハアリマスガ、大石君ハ大體ヲ論ツテ、之ヲ拔キニサレマシタカラ、私ハ之ハ拔キニシテ、アトハ鵜澤、花井博士其他ノ諸君ノ御討論ニ委シマシテ、私ハ諸君ノ清聽ノ榮ヲ謝シマシテ、壇ヲ降リマス(拍手起ル)

○議長(長谷川純孝君) 花井卓藏君——花井君ハ即チ日程ノ第十六、第十七、第十八、第二十一ハ反對ノ意見ヲ述ベ、而シテ次ノ日程ノ二十七、自ラ提出サレタ法律案ノ説明ノ補足ヲ爲スト云フコトデアリマス

(法學博士花井卓藏君登壇)

(拍手起ル)

○法學博士花井卓藏君 諸君、本員ハ明治四十二年勅令第三百二十六號、第三百二十七號、第三百二十八號、第四百六號ニ承諾ヲ與フルヲ非トスル者デアリマス、之ヲ以テ憲法ノ條規ヲ悖ルモノナリト斷定致ストコロノ者デゴザイマス、憲法ハ議會ニ授クルニ財政協贊ノ權ヲ絕對ニ以テシ、政府ノ獨斷專決ヲ許スコトヲ認メテ居ラヌデアリマス、財政ハ國家ノ歲入歲出ヲ整理スル所以ノ要道デゴザイマシテ、臣民ノ負擔ト離ルベカラザル最モ密接ノ關係ヲ保ツトコロノモノデゴザイマス、ツレ故ニ憲法ハ特ニ之ヲ慎重ニ取扱フベキコトヲ要求致シテ居リマシテ、必ズ議會ノ協贊ヲ經ベキモノナリト規定ヲ致シテ居ルデアリマス、誠ニ財政協贊ノ權利ハ立法協贊ノ權利ト共ニ憲法上議會ノ有スル重大ナル權利デアリマス、立法協贊ノ權利ハ立法協贊ノ權利ハ議會ノ生命デアリマス、此權利ヲ侵蝕致スト云フコトハ議會ノ生命ヲ傷ツクルモノデアリマス、憲法ノ議會ニ授ケタル權利ヲ全ク蹂躪スルモノデアリマス、憲法ハ毎年一次ノ通常議會ヲ要求致シテ居リマス、緊急必要ノ場合ニ於キマシテハ臨時議會ヲ召集ヲ要求致シテ居リマス、通常議會ニ於テ臨時議會ニ於テ必ズ立法協贊ノ權利ハ行フベキモノデアアル、財政協贊ノ權利ハ行フベキモノデアルト規定ヲ致シテ居ルデアリマス、明治四十二年八月二十九日及同年九月二十九日ニ公布セラレタルコロノ問題ニ懸テ居リマス緊要勅令、此勅令ハ通常議會開會中ニ發セラレタルモノナレハ臨時議會ヲ召集セラレテ之ニ依ツテ以テ帝國議會ノ表決ニ俟ツベキ性質ノモノデゴザイマス、然ルニ政府ハ此重大ナル問題ニ關シテ曾テ議會ヲ召集ヲ爲サナカッタデアリマス、議會召集ノ奏請ヲ致サナカッタデアリマス、而シテ擅ニ憲法第七十條ニ基キマシテ、緊急勅令ニ依リマシテ、財政上ノ處分ヲ致シタデアリマス、本員ハ此行動ヲ以テ憲法上許スベカラザル行爲ナリト認ムモノデアリマス、獨リ本員ノ違憲處分ナリト斷定ヲ致スノミナラズ、本議會開會ノ第一日ニ於テ尊敬スベキ政友會ノ幹事松田君ハ此壇ニ立ッテ朝鮮施政ノ方針ヲ質スベク專ラ此問題ニ集中セラレタデアアル、政友會ノ諸君ハ拍手喝采シテ其意見ヲ迎ヘラレタデアリマス而シテ、本員ノ語ルトコロ、松田君ノ語ルトコロト異ラズ、憲法ノ語ルトコロ亦然リト致シマシタナラハ政友會諸君モ本員ノ說ニ御贊成ニナツタ然ルベキモノナリト信ツテ居ルデアアル(拍手起ル)憲法第七十條ニハ如何ナル規定ガアリマスカ「公共ノ安全ヲ保持スル爲緊急ノ需用アル場合ニ於テ内外ノ情形ニ因リ政府ハ帝國議會ヲ召集スルコト能ハサル

トキハ勅令ニ依リ財政上必要ノ處分ヲナスコトヲ得」ト斯様ニ規定セラレテアルノデアリ
マス、理窟ハ多ク申上ケマセヌガ、憲法第八條「掲ゲラレテアル文字ト七十條ニ掲ゲラレテ
アル文字トハ大ニ異リタル意味ノ含マレテ居ルモノデアルト云フコトハ豫メ諒セラレコ
トヲ望ム」云々トアリマス、抑、法文ニ所謂内外ノ情形ニ因リ議會ヲ召集スルコト能ハ
ザルトキト云ヘル文字ハ如何ニ解釋スルノガ相當デアリマセウカ、文字ハ文字ノ如クニ讀
マナケレバナラナイデアリマス、内外ノ情形上議會ヲ召集不能ナリト云フ場合ハ、例ヘバ
國家ニ兵亂ガゴザイマシテ議會ヲ召集スルコト能ハザリシ場合ノ如キ、若クハ議會解散
セラレテ召集スベキ議員ナキ場合ノ如キ是デゴザイマス、是以外ニ召集不能ト云フモノハ
憲法ハ毫モ想像ヲ致シテ居ナイノデアリマス、明治四十二年八月及九月ノ間ニ於テ
果シテ此ノ如キ情形ノ中ニ我日本帝國ハ居ッタデゴザイマセウカ、如何ナル兵亂ガアツタ
ノデゴザイマセウカ、大石君ノ演說ニ所謂不測ノ變災ハ或ハ兵亂ノ意味ナランモ知ルベ
カラズト雖モ、不測ノ變災ノアリシヤナカリシヤ具眼者ハ之ヲ知ル、此ノ如キ言辭ノ下ニ
内外ノ情形ヲ解スルコトハ許シマセヌ、抑、財政上ノ緊急處分ハ最モ重大ナルモノデゴザ
イマシテ、殊ニ嚴重ナル要件ヲ憲法ハ要求シテ居ルノデアリマス、唯夫レ内外ノ情
形議會ヲ召集スルコト能ハザル場合ニ於テノミ、之ヲ認メテ居ルノデアリマス、此ノ如キ
場合ハ所謂非常ノ場合デアリマス、内外ノ情形非常ナル場合ニ於テノミ第七十條ヲ
以テ財政上ノ緊急處分ヲ許スノデアリマス、通常ノ場合ニ於テハ決シテ緊急處分ヲ許サ
ザル法ノ精神ハ明友上ノ一點ヲ疑ハナイノデアリマス、兵亂ナキナリ解散ナキナリ議會ハ
何レトキニ於テモ容易ニ召集シ得ラレタノデアリマス、諸君、朝鮮ノ併合ハ國論ヲ認メ
テ居ルトコロデゴザイマシテ、日清日露兩戰役ノ處分ノ延長タルニ外ナラヌデアリマス、
兩戰ニ與リタルコロノ國民ハ首ヲ翹ゲ足ヲ企テ、喜ンデ此最終ノ處分ヲ聽カンコトヲ
欲シテ居ルノデアリマス、内外ノ情形ハ臨時議會ヲ召集ヲ迎ヘテ居タノデアアル、召集ス
ルコト能ハザルニアラズシテ、召集ヲ希望シテ止マナカッタ當時ノ狀態デアリマス、國民ハ
議會ヲ召集ヲ欲シ、政府ハ議會ヲ召集ヲ遮リタリト云フノガ當時ノ情形ヲ寫シタルモ
ノト本員ハ信シテ居ル、(拍手起ル)政府ハ委員會ニ於テ種々ナル辯明ヲセラレタルノデ
ゴザイマスガ、或ハ政治上ノ意味ニ於テ、或ハ外交上ノ意味ニ於テ、殆ド取ルニ足ラザル
トコロノ辯解デアツテ、之ニ對スル駁撃ハ大石君ノ議論ニ於テ盡サレテ居リマスカラ、繰返
スコトハ致シマセヌ、諸君、國論ノ一致セル問題ニ向ッテ國民ニ對シテ之ヲ秘密ニスベキ謂
レハ萬々ナイノデアアル、召集シ得ベキ議會アリ、而シテ之ヲ召集セズ、秘密ニスベカラザル問
題ニシテ而シテ之ヲ秘密ニナシ、急速逼迫ノ事情アルニアラズシテ言フ急速逼迫ノ事情ニ
藉リ、此ノ如クニシテ國民ノ全體ニ於テ勝利ヲ博シタル日露日清戰役ノ最後ノ處分ヲ
國民ヲ除外シテ政府一人ノ功ニ歸セント欲スルガ如キハ、斷シテ許スベカラザル行為デアルト
信ズルノデアリマス(拍手起ル)之ヲ要スルニ問題ト相成ッテ居リマスカラ、財政處分
ニ關スル緊急勅令ノ總テハ憲法第七十條ノ法規ニ戻ルコト論ヲ蹊タヌト信ジマス、本員
ハ此ノ如キ理由ノ下ニ斷シテ承諾ヲ與フベカラザルモノト確信致シマス、承諾ヲ與ヘズト
雖モ財政處分ハ既往ニ溯ッテ其處分ノ效力ハ保チ得ラル、ノデゴザイマス、即チ之ガタメ
ニ事前ノ效力ハ失ハナイノデアリマス、權利義務ニハ何等ノ關係ガナイノデアリマス、故ニ
實質ニ於キマシテハ政府臺モ痛痒ヲ感ズルトコロハゴザイマセヌ、政府痛痒ヲ感ズト雖

モ、吾々ハ憲法ノ條規ニ照シ、統治機關ノ違憲行為ヲ責ムルガタメニ、之ニ承諾ヲ與フ
ルヲ以テ最モ非ナリトスルモノデアリマス、財政協贊ノ權利ヲ尊重スル趣旨ニ於テ、政府
當局ノ責任ヲ糾スル所以ノ道ニ於テ、憲法並ニ議會ニ生命精神アラシムル所以ノ理義
ノ下ニ於テ、本員ハ此數個ノ勅令ニハ承諾ヲ與フベカラザルモノト論定スルコトヲ以テ憲
法ノ法意ニ適ヒタルモノナリト信ズル、次第デアリマス、事後承諾ニ關スル憲法上ノ意義
ハ大石君ノ論ゼラル、トコロノ如ク、柴君ノ論ゼラル、トコロノ如ク、大臣問責ノ精神タ
ルコト論ヲ俟タヌト信ジテ居ル、本員ハ政治上ノ意味ニ於テ然リト信ジテ居ル、法律上ノ
意味ニ於テ然リト信ジテ居ル、伊藤公ノ憲法義解ノ説明スルところニ據リマシテモ然リト
信ジテ居ルノデアリマス、故ニ問題ノ內容事項ニ關シテハ權利義務ノ關係トシテ、政府
何ノ痛痒ヲ感ズベズト雖モ、此財政協贊ナル重大ナル權利ヲ侵蝕シテ憲法ノ條項ヲ守ラ
ザリシ點ニ於テハ其責任ハ斷シテ解除スベカラザルモノデアアル、法理的ノ見地ヨリ許スベ
カラザルモノデアアル、政治上ノ見地ヨリ許スベカラザルモノデアアルト云フコトヲ以テ本論ヲ結
ビタイト存ジマス(拍手起ル)——本員ハ是ヨリ本員提出ノ法案ニ關シマシテ衆議院規
則第一百十條第二項ニ依リマシテ趣意ノ辯明ヲ再ビ致スコトヲ許サレシコトヲ望ミマス、
本員ノ本案ヲ提出致シタル理由ハ其理由書ニ盡サレテ居ルノデアアル、而シテ理由書
ノ第一第二ニ於テ諸君ト見解ヲ同ウスルニ拘ラズ、第三ニ於テ第三ノ前段ニ於テ幾部
ノ諸君ト見解ヲ異ニスルコト云フコトハ本員ノ甚ダ遺憾トスルコロデゴザイマス、論據ハ人
各、見ル所ヲ異ニスルノデアリマスガ、本員ハ幾部ノ諸君ノ見ラル、トコロヲ以テ却テ法ノ
精神ニ副ハザルモノト論定スルノデアリマス、反對說ハ憲法第八條ニ基ケル勅令ノ內
容事項ハ常ニ立法事項デアアル、ソレ故ニ法律ヲ以テ之ヲ修正改廢スルハ自由ナリト云フ
ノデアリマス、是ハ松田君ニ依ッテ稱ヘラレ、委員會ニ於テ多數諸君ノ贊成セラレシコロ
デゴザイマシテ、委員長ハ特ニ其趣意ヲ此壇上ニ言明セラレタノデアリマス、去ル四日
本員不在ニシテ缺席ノ儘裁判ヲ受ケテ居ルノデゴザイマスカラシテ、職責上再ビ立ッテ辯
明ヲスベキ責任ガアラウト存ズルノデアリマス、本員思フニ若シ此說ノ如クンバ直ニ勅令
ニ向ッテ修正改廢ヲナシ得ベシトスルニアラザレバ實カザル理窟ニナリハシナイカト考ヘル
ノデアリマス、第八條ニ掲ゲマシタル內容事項ハ立法事項デアアル、法律事項デアアル、ソレ
故ニ法律ヲ以テ修正改廢スルハ自由自在ナリト云フ論ヲ以テ眞ナリトセバ承諾ノ有無
拘ハラズ法律ヲ以テ直ニ勅令ニ向ッテ修正ヲ加ヘ若クハ之ヲ改廢スルコトヲ得ベシトノ
論、實クニアラズンバ反對論者ノ說ハ實カヌモノト考ヘルノデアアル、憲法ハ第八條ニ
ニ於テ其立法事項タルノ故ヲ以テ論者ノ論ヲ助クベキ何等ノ規定ヲ致シテ居ラヌノデ
ゴザイマス、却テ第八條第二項ニ於テ此勅令ハ次ノ會期ニ於テ帝國議會ニ提出ス
ベシ若シ議會ニ於テ承諾セザルトキハ政府ハ將來ニ向ッテ其效力ヲ失フコトヲ公布
スベシト云フ責任ヲ課シテ居ルノデアアル、内容ガ立法事項ナレバ法律ヲ以テ勅令ト
雖モ自由自在ニ修正改廢ガ出來ルト云フノデアッタナラバ、八條二項ノ規定ヲ以テ
此變例立法ヲナシタルモノニ向ッテ責任ヲ課スベキ憲法ノ意義ガ分ラナクナルノデアリマ
ス、是故ニ論理一貫セザル誤解ナリト私ハ論定ヲ致スノデアリマス、委員會杯ニ於キマ
シテハ本員ノ論ヲ以テ憲法上ノ論據ヲ誤ッテ居ルト云フ甚シキ攻撃ヲ向ケラレタヤウデゴ
ザイマスガ、本員ノ論ハソレ程弱イ論デハゴザイマセヌ、尤モ留守デゴザイマシタカラシテ

御批評ハ御隨意デ宜シウゴザイマスケレドモ、論者ノ申サル、如ク脆弱ナル論デハナイト云フコトダケハ諸君ノ諒トセラレシコトヲ望ムノデアアル、若シ對席ノ場合ノ議論デゴザイマシタナラバ、本員ノ議論ハ迎ヘラレタモノデアアルト云フコトヲ認メラレシコトヲ望ムノデアアル、是ダケノコトヲ辯明致シマシテ、尙此論據ヲ強ウスルタメニ本院ノ先例ヲ引用致シテ置キタイト思フ、衆議院先例彙纂九十二頁ニ依レバ緊急勅令ハ修正スルコトヲ得ストアル事後承諾ヲ求ムル議案ハ一箇條ニテモ承諾ナラバ全部承諾トナルトアル、又伊藤公ノ憲法義解ニモ議會ハ勅令ヲ修正シテ之ヲ承諾スルコトヲ許サズトアル、此ノ如ク三理論モ實例モ定マテ居ル、又法律ヲ以テ勅令ヲ廢止シタル實例ト云フモノハゴザイマセヌ、此ノ如ク私ガ議論ヲ致シマスルトキハ似寄リタルモノガ澤山アルト、斯ウ來ルノデアアル、本員劈頭ニ辯明致シテ置キマシタル通り、論者ノ説ノ如クハ承諾ノ有無ニ拘ラズ云々ト云フコトヲ申シタコトニ御注意ヲ願ハシケレバナラヌ、承諾以前ニ於テモ承諾以後ニ於テモ立法事項ナレバ修正改廢自在ナリト云フ論ナリト致シマシタナラバ——後ニ修正改廢ガ出來ルノデアタナラバ、前ニモ修正改廢ガ出來ナケレバナラナイ、後ニ向テノ例ハ幾ラカアリマスガ、論ヲ強ウスル所以ニ於テ大切ナル前ノ方ニ付テノ例ト云モノハ全クナイ、ト云フコトヲ申スノデアリマス、此點ニ關シテハ尙大ニ論究スベキ點モゴザイマスケレドモ、要スルニ本案提出ノ理由ハ政友會諸君ノ大多數ノ御贊成ニナリマシタ通り、第一第二ハ主タル理由デゴザイマシテ、第二ノ如キハ附從ノ理由デアッテ、唯學說上ノ爭ヲナスニ外ナラヌデアリマスカラシテ、私ハ是以上申上ケルコトハ致シマセヌ、他日緩ク論議ヲ致スベキ機會ガアルデアラウト思ヒマス、此問題ニ付テ、此法案ニ付テ、大石君ハ委任立法タル本案ニ反對セラレテ、法律デモ勅令デモ問フコトコトナク、議會ノ權能ヲ割イテ朝鮮總督ニ與フルコトハ政治上ノ理由ニ於テ斷シテ不可ナリト云フ、御演說ノ下ニ本員ノ案ニモ一撃ヲ加ヘラレタデアリマスガ、凡ソ立憲法治ノ國ニ於テ、法律ニモ據ラズ、勅令ニモ據ラズ、而シテ一國ヲ治ムル途ト云フモノハ何所ニアルカト云フコトニ向テ本員ハ甚ダ感フノデアアル、勅令モ要セズ、法律モ要セズ、議會ノ權能ヲ割イテ朝鮮總督ニ授クルコトハ危險デアアル、其レ故ニ本案ニ反對デアアル、ト云ハル、モノトセバ、然ラバ何ニ依ッテ朝鮮ヲ治メルノデアアルカト云フ點ニ於テ私ハ甚ダ感フノデアリマス、委任立法ノ當否ハ憲法ノ問題トシテハ疑義ナリトハ本員ノ年來主張スルコトデアアル、疑義ナリト雖モ今日ノ議會ハ明治二十三年以來之ヲ認メテ、幾千幾百ノ實例ヲ存シテ居ルノデアリヌカラシテ、實際問題トシテ委任立法ノ憲法上ノ當否ヲ爭フコトハ政治上ニ於テハ全ク用ヲナサヌ、學理上ニ於テハ多少價ガゴザイマスガ、政治上ニ於テハ用ヲナサヌ、ナサヌガ故ニ本員ハ誠ニ惜キ問題デゴザイマスケレドモ、二年前ヨリ違憲論ヨリ疑義論ニ移リ、今日ニ於テハ違憲ニモアラズ、疑義ニモアラズト云フ論定ヲ保ッテ居ルノデアアル、而シテ此法案ヲ授クルヲ以テ危險ナリトセラル、ハ、朝鮮總督ヲ信ゼラレザルガタメノミニ原因スルコトデアラウト思フ、人宜シキヲ得ザルガ故ニ、一國ヲ治ムル法律マデモ併セテ葬ラントセラ、ガ如キハ、本末輕重ヲ知ラザル甚シキモノト謂ハザルヲ得ヌデアリマス、以上ノ理由ニ據リマシテ問題ニテ居リマストコロノ財政處分ニ關スル緊急勅令ハ全體反對シ、本員提出ノ法令案ニ關シテハ滿場一致ヲ以テ御贊成アラント希望致シマス

○議長(長谷場純孝君) 鵜澤總明君

(法學博士鵜澤總明君登壇)

○法學博士鵜澤總明君 諸君、本員ハ此議題ニ對シマシテ政略上ノ意見ヲ述ベルダケノ力ノナイコトヲ甚ダ遺憾ト致スノデアリマス、併ナガラ此政略上ノ問題ニ付キマシテハ既ニ大石君、柴君カラシテ十分ニ御議論ガアッタコト、考ヘテ居リマスガ、本員ハ本體ニ於テ帝國議會ニ附議セラレテ居ルコトノ緊急勅令、是ハ果シテ承諾ヲ憲法ニ據ッテ與フベキモノナルヤ否ヤト云フ點ニ付キマシテ、審議ヲ致シマシタ結果ノ意見ヲ申述ベタイト思フノデアリマス、イロ／＼此帝國議會ヲ開カザルコトニ付テノ非難ガアリマシタガ、若シ條約前ニ於テデス、條約前ニ於テ何故ニ帝國議會ヲ開カザリシヤト云フ議論デアリマシタナラバ、此議論ハ緊急勅令ト相對シテ頗ル理由ノアルコトニ思フノデアリマス、併ナガラ此朝鮮ノ併合ノ場合ニ於キマシテハ條約ノ批准ハ八月二十二日デアアル、而シテ之ヲ公布セラレタノハ八月二十九日デアリマス、八月二十九日ニ於テ天皇ノ大權ノ作用ニ依ッテ條約ガ締結セラレタル、條約ガ締結サレテ、今迄保護國ノ一部ガ日本ノ領土トナリマシタ以上ハ、之ニ依ッテ財政ノ處分ハ權利上ノ種々ノ關係ト云フモノガ當然生ジテ來ルト云フコトハ疑ナク、而シテ此事柄ハ條約ノ即日カラ生ジテ來ナケレバナラヌコトデアラウト思フノデアリマス、從ッテ此緊急勅令ニ付テ承諾ヲ與フベキモノデ有ルヤ無イヤト云フ問題議會ヲ開クコトノ暇アリシヤ否ヤト云フコトニ付キマシテハ、幾ド議論スル餘地ガナイト考ヘテ居ルノデアリマス、併ナガラ國家ノ併合ト云フコトハ將來屢々起ルベキ問題デアアル、而シテ將來ニ於テ併合スル場合ニ於テハ尙單純ナル條約ニ依ラズシテ國民ニ十分諮ツタナラバドウデアアルト、斯ウ云フヤウナ議論ナラ 格別デアリマスケレドモ、然ラザル以上ハ此勅令ノ内容ヲ一々吾々ガ調ベテ見マシテ、何故ニ議會ヲ開カザリシヤト云フ質問ニ對シテハドウモ議論ガ弱イヤウニ考ヘテ居ルノデアリマス、先ヅ此議題ニナッテ居リマス勅令ノ數ガ十一件アルノデアリマスガ、併ナガラ少シク之ニ付キマシテ内容ヲ御覽ヲ願ヒマス、三百二十六號、ソレカラ三百二十七號、ソレカラ三百二十八號、是ハ孰レモ條約ノ其日ニ發布サレテ居ルトコロノ緊急勅令デアリマス、多大ナルコロノ人口ヲ持ッテ居リ而シテ長イトコロノ歴史ヲ持ッテ居ル、ソレカラシテ從來ノ國際關係モアルシ、內國ノ種々ノ法律上ノ關係モアルノデアリマスカラ、何等カノ緊急ノ處分ヲ採ラヌト云フコトニナリマス、折角併合シタル朝鮮ノ國民ヲシテ全ク路頭ニ迷ハシムルト云フ結果ヲ生ズルノデアアル、ソコデ勅令第三百二十六號ハドウ云フモノデアアルカト申シマス、舊韓國政府ニ屬スル歲入歲出豫算ハ當分ノ內從前ノ儘之ヲ襲用ス、其日ノコトデアリマスガ誰ガヤツモ是以上ノコトハ餘程困難デアラウト思フノデアアル、ソレカラ勅令第三百二十七號ハドウ云フコトニナッテ居ルカト云フト、所謂臨時恩賜金デアリマシテ、此場合ニ於キマシテモヤハリ直ニ之ヲ發布スルコトガ必要デアツタ事情ガアルト私ハ考ヘルノデアリマス、ソレカラ勅令第三百二十八號ハドウ云フコトニナッテ居ルカト云フト、從來保護國ノ關係ト致シマシテ、大藏省ノ預金部ハ韓國政府ノ負擔ニ屬スル債權債務ノ關係ガアルノデアリマス、即チ保護ノ結果ト致シマシテ所謂債權債務ノ混同ガ起リマスカラ、此場合ニ於テ一般會計ノ負擔ニ屬セシムルト云フ規定ハヤハリ條約ノ結果當然必要デアラウト思フノデアリマス、ソレカラモウ一ツノ財政處分四百十八號デアリマスガ、此四百十八號ト云フモノハ成程チヨット見マスルト一箇月ヲ經テカラ出テ居ルヤウニ思ハレル、併ナガラ此

四百六號ノ内容ヲ御覽ヲ願ヒマスルト、其勅令ノ出シ方ニ於キマシテハ或ハ誤解デアッタカモ知ラヌノデアリマスケレドモ、又後トカラ承諾ヲ與フルヤ否ヤト云フコトニ付テハ、ドウモ仕方ナク關係ニ出來テ居ルノデアリマス(ソレハ前カラ分テ居ル)ト呼フ者アリ)勅令第四百六號ト云フモノハ先ヅ本則ガ三箇條デアリマス、其三箇條ニハ特別會計ヲスル必要ガ生ジタト云フコトニナッテ居ル、ソレデ此本則ノ三箇條ニ付テハ何ニ依ッテ居ルカト申シマスルト、憲法第八條ニ依リマシテ先ヅ此法律ニ代ルダケノ命令ヲ出シテ居ル、此場合ニ併合後一箇月經テカラ何故ニ特別會計ニスル必要ガ起ッタカト云フコトニ付テハ、是ハ政略上ノ議論ト致シマシテハ、ヤハリ議論ガアルカモ知リマセヌガ、政略上ノ議論ト致シマシテハ、ヤハリ反對ノ議論モ出來ルノデアル、ソコデ法律ノ上カラ見ルト先ヅ緊急勅令ニ依ッテ一ノ法文ガ出來テ居ル、ソコデ此特別會計ヲ立ツルト云フコトニナルト、直ニ從來ノ關係ヲ變ジマシテ、ヤハリ財政上ノ或ル處分ヲ執ラナケレバナラヌト云フトコロカラシテ、直ニ九月二十九日ニ此緊急勅令ノ出ルト共ニ十月一日カラ其令ヲ施行スルコトニナッテ居ル、十月一日カラ之ヲ施行スルコトニナルト、前ノ財政處分ト後ノ財政處分トノ間ニ於キマシテ互ニ經過ノ規定ヲ設ケナケレバナラヌノデアリマスカラシテ、其經過處分ガ所謂附則ニ依ッテ四條カラ十一條マデ非常ナ附則ノ長イ規定デアリマスケレドモ、是ガ出テ居ルノデアリマス、斯ウ云フヤウナコトニナッテ居リマシテ、之ニ對シマシテモ同ク憲法ノ上カラ甚ダ不當デアル、斯ウ云フヤウナ議論ヲ容ル、餘地ガナク考ヘテ居ルノデアリマス、ソコデ此憲法七十條ノ解釋ト云フモノニ付キマシテハ、ヤハリ公共ノ安全ノタメト云フコトガ目的デアルガ、此ノ如キ條約ヲ結ンデ直ニ財政上ノ處分ヲ執ル事柄ガ、ヤハリ公共ノ安全ノタメニ甚ダ必要デアル、其安全ノタメニ必要ナ處置ヲ執ッタモノデアル、斯ウ認ムルコトニ付テ差支ガナク思フノデアリマスガ、併ナガラ朝鮮ノヤウナ國ヲ併合スル際ニ於テ、其條約前ニ當ッテ何故ニ議會ヲ開イテ之ヲ諮ラザリシヤト云フ政略上ノ議論デアレバ、ソレハ別論デアリマス、併ナガラ其點ハ此緊急勅令ノ承諾ニ大シタ關係ノナイ問題ト思ヒマス、ソコデ財政上ノ處分ニ對シマシテ吾々ガ審査スルトコロノ結果ニ依リマス、成程多少ノ不穩當ノ點ガアツカ知リマセスケレドモ、之ニ向ッテ承諾ヲ與ヘル外他ニ致方ガナク思フノデアリマス、ソレカラ其他ニ付キマシテハ勅令第三百二十九號ハ是ハ此朝鮮ニ於ケル臨時恩賜ニ關スル件ノ規定デアリマシテ、是モ亦仕方ガナイ、ソレカラ勅令第三百三十號ハヤハリ會計ノ經理舊韓國政府ニ屬スル、財産ノ管理デアリマスカラシテ、是ハ前ノ勅令第三百二十六號ト相對シテ必要ナルトコロノ場合デアアラウト思フノデアリマス、ソレカラ勅令第三百三十一號ニナルト、朝鮮カラ移入スル貨物ノ移入稅等ニ關スル件デアリマスカラシテ、是モ國ハ一刻モ休ムコトハ出來ナイノデアリマスカラシテ、當時此ノ如キ場合ノ規定ガ要ルト思ヒマス、勅令第三百三十三號ハ内地、臺灣及樺太ト朝鮮トノ間ニ出入スル船舶及物件ノ検査及取締ニ關スル件デアリマスカラ、是モヤハリ必要デアラウト思フノデアリマス、ソレカラ勅令第三百三十六號ハ緊急勅令デアナイ、普通ノ勅令ノ二百三十五號ト致シマシテ特許法ト意匠法、實用新案法、商標法著作權法等ヲ朝鮮ニ施行シテ居ル譯デアリマスカラ、斯ウ云フ場合ニ於キマシテハ朝鮮ニ行レテ居ルトコロノ從來ノ法律ト新ニ施行スル法律トノ經過ノ規定ガナケレバナラヌノデアリマスカラ、ソコデ其經過ノ規定ガ勅令第三百三十六號デアリマス、

ソレカラ勅令第三百三十七號ハ商標法ヲ朝鮮ニ施行スルコトニ關スル件デアリマシテ、是モ經過ノ規定デアリマス、勅令第三百三十八號ハ是ハ著作權法ヲ朝鮮ニ施行スルコトニ關スル件デアリマスカラシテ、是モ亦必要ナル法令デアル、斯ウ見テ差支ガナクアラウト思フノデアリマス、サウ云フヤウナ次第デアリマスト是等ノ大體ノ勅令ニ付キマシテハ今日ドウモ承諾ヲ與ヘナイト云フトコロノ理由ヲ發見スルニ私ハ甚ダ苦ムト思フノデアリマシテ、其點ニ付キマシテハ全部私ハ委員長ノ報告通り贊成致シタイト思フノデアリマス、次ニ殘ッテ居リマスノハ花井案ヲ朝鮮ニ施行スベキ法令ニ關スル件デアリマスガ、是ハ既ニ花井君カラシテ十分ニ説明ガアリマシタカラシテ重ネテ餘計ナコトヲ申ス必要ハナイト思ヒマスケレドモ、尙一應何故ニ此法律案ガ必要デアルカト云フコトヲ述ベテ見タイト思フノデアリマス、先ヅ勅令第三百二十四號ニ依ッテ如何ナル制令ガ朝鮮ニ與ヘラレテ居ルカト云フト少シク見マスルト、此ノ如キ場合ハドウシテモ法律ニ讓ラナケレバナラヌト云フ理由ハ自ラ明白ニナルト思フノデアリマス、制令ハ朝鮮ニ先ヅ十三件程布カレテ居ルノデアリマス、其中テ就中重要ナルモノハ制令第一號ノ帝國法令ト韓國法令ノ關係ノ規定ヲ示シタモノデアリマス、ソレト制令第五號ノ舊韓國法令トソレカラ朝鮮財政ト云フモノヲ示シタリマス、ソレカラ制令第六號ニ依リマシテ裁判所構成法施行ノ件、ソレカラ制令第十號ニ依ッテ犯罪即決例、制令第十一號ニ依リマシテ民事訴訟規定ニ關スル件、制令第十二號ニ依リマシテ辯護士規則、制令第十三號ニ於テヤカマシイトコロノ會社令ト云フモノガ布カレテ居ル、是等ガ總テドウ云フ順序ニ於テ布カレテ居ルカト申シマス、何レモ重要ナル立法ノ事項デアルニ拘ラズ之ヲ緊急勅令ニ依リマシテ議會ト云フモノヲ全ク無視シテ、議會以外ニ此勅令ニ依ッテ此ノ如キ制令ヲ朝鮮ニ布カシメル、斯ウ云フヤウナ狀況ニテテ居ルノデアリマスカラ、斯様な必要ナルトコロノ法律上ノ規定ニ關スル部分ハ之ヲ以テ先ヅ法律案ニ議ッテ、而シテ此議會ト協同シテ十分商議シタ上ニ出スコトノ方ガ將來ハ必要デアルマイカ、斯ウ云フヤウニ考ヘテ居ルノデアリマス、既ニ勅令ガ從來出テ居ッテ今日ニ至ルマデハ先ヅ效力ヲ持ッテ居ルノデアリマスカラ、今日マデノ苦情ヲ言ッタコロデ仕方ガナイ、併ナガラ將來ヤハリ此議會ノ權能ヲ、ソツチ除ケニシテシマツテ、サウシテ單純ナル緊急勅令ノ效果トシテ濫リニ法律ヲ出スコトハ餘程考ヘナケレバナラヌコト、思ヒマス、諸君ノ御承知ノ通りニ憲法ノ多クハ三權分立論ノ主義ニ出來テ居ルノデアリマス、併ナガラ其後新シイトコロノ領土ノ加ハルコト、或ハ他ノ領土ヲ合併スル、此場合ニ於キマシテ三權分立ノ主義ヲ嚴正ニ適用スルコトノ出來ナクナッタメニ、種々ナル解釋ヲ取ッテ調和ノコトヲ講ジテ居ルノデアリマス、獨リ新領土ノミナラズ國內ニ於キマシテモ一々其立法府ガ僅ニ三箇月或ハ二箇月ノ期間ニ於テ、國內ニ行ハルベキ總テノ法律關係ヲ規定スルコトハ甚ダ困難デアリマスカラ、先ヅ立法府ト行政府トノ協同ニ依リマシテ、之ニ處スルコトコロノ相當ノ處置ヲ執ルト云フコトニナッタノデアリマシテ、三權分立ノ主義ヲ害セザル範圍ニ於キマシテ互ニ相牽制スルノデナクシテ、互ニ相助合フト云フトコロノ精神カラ一種ノ委任命令ノ如キモノガ出來テ來テ居ル、日本ニ於キマシテモ明治二十三年以來出來テ居ル、斯ウ云フヤウナ譯デアリマスガ、サウ云フヤウナ事柄ガ段々新領土ノタメニ益、利用サレルト云フ傾向ヲ生ジテ居ルノデアリマス、サウ云フヤウナ場合デアリマスナラバドウ云フトコロカラ見マシテモ、先ヅ此勅令ト云フモノダケデアッテ、

議會ニ諮ラズシテ仕事スルヨリモ、議會ノ立法權ノ範圍内ニ於テ行政權ト協同ノ仕事スルコトガ甚ダ憲法ノ精神ニモ適ヒ、又議會ノ協贊權ヲ重シムルコトノ所以デアラウト思フデアリマス、而シテ此法律案ニ於キマシテハ提出ノ理由ニ付テハ花井君が先程論セラレタ通り緊急勅令ト雖モ法律ヲ以テ廢止スルコトガ出來ナイト云フ議論ヲ以テ花井君ハ本案ヲ提出サレタ、ソレカラシテ松田君ヨリ之ニ反對ガアリマシテ、緊急勅令ト云フモノハ法律ヲ以テ改廢スルコトハ自由デアアル、緊急勅令ニ關スル條件付ノ承諾、或ハ承諾スル前ニ之ヲ變更スルコト云フヤウナコトハ出來ヌケレドモ、之ヲ改廢スルコトガ出來ルモノデアアル、斯ウ云フヤウナ議論ノ一ツガアツテ、此議論ハ學者ノ間ニモイロ／＼アルコトデアラウト考ヘテ居ルデアリマスガ、吾ハ所謂緊急勅令對シマシテハ法律ト全ク獨立シマシテ法律ニ依テ廢止スルコトノ出來ナイ勅令、ソレカラ緊急勅令ノ如キハ效力ノナイ法律ト同一デアアルカラシテ法律ニ依テ改廢スルコトノ出來ルモノデアアル、斯ウ云フヤウナ見解ヲ取ツテ勅令ハヤハリ法律ニ依テ改廢スルコトノ出來ルモノデアアル、斯ウ云フ趣旨ニ於テハ花井案ニ贊成シタヤウナ次第デアリマスガ、先ア何レノ方面カラ見マシテモ此法案ハ甚ダ必要デアツテ、而シテ緊急勅令ニ於ケルガ如クニ其第一條ニ於キマシテ無限ニ此立法ノ權ヲ直ニ此議會ニ何等諮ルコトナクシテ他ニ與ヘルト云フヤウナコトニ見ルヨリハ法律案ヲ以テ之ヲ出シテ吾ハ立法權ト行政權ト此共同ノ勅令明白ニスル方が甚ダ穩當デアラウト斯様ニ信スルデアリマス、右ノヤウナ次第デアリマスカラシテ、總テ委員長ノ報告通り御贊成ヲ願ヒタイノデアリマス(拍手起ル)

(討論終結)ト呼フ者アリ

○議長(長谷場純孝君) ト部喜太郎君

○清水市太郎君 議長、唯今ノ御演說ニ對シテ御尋ラシタイコトガアリマス

○議長(長谷場純孝君) ト部喜太郎君ニ發言ヲ許シマシタ

(「ヤルベシヤルベシ」ト呼フ者アリ)

(ト部喜太郎君登壇)

(拍手起ル)

○ト部喜太郎君 諸君、唯今議事ニ上ツテ居リマスル合計十一ニ互リマスルコトノ事後承諾案ハ何レモ憲法上重大ナル問題デアリマシテ、若シ此緊急勅令ノ中ノ唯一ツナリトモ議會滿場ノ容ル、トコロトナラズシテ議會ガ之ニ承諾ヲ與ヘナイト云フヤウナモノガ一ツアリマシテモ、無論政府ノ責任ヲ負フベキ問題デアラウト思フデアリマス、今マデモイロ／＼議論ノアリマシタ如ク、事後承諾案ハ分ケテ一種トスルデアリマス、其第一ハ憲法ノ第八條ニ據リマスルコトノ法律ニ代ルベキ緊急勅令デアアル、第二ハ憲法ノ第七十條ニ據ルコトノ財政上ノ緊急處分デアリマス、而シテ此多クノ緊急勅令中デ最モ議論ノ種トナツテ居リマスルノハ勅令ノ第三百二十四號デアリマスルケレドモ、此三百二十四號ハ今日ノ議事日程ニ上ツテ居ラヌデアリマスルカラシテ、イザレ他日此本會議ノ上ニ於テ大ニ議論ヲ闡ハスベキ問題デアアルデアリマス、勅令ノ第三百二十四號ヲ除キマスルコト云フト、勅令ノ第三百二十七號ノ財政上ノ緊急處分ガ是モ必要ナル問題デアリマスルガ、此問題ニ付キマシテモ 既ニ花井君大石君等ヨリ十分ニ説明ガアツタ點デゴザイマスルカラシテ、私ハ時間ヲ節約シ且成ルベク簡明ニ自己ノ意見ヲ述べルト云

フ便宜ノタメニ細カイ議論ハ避ケルデアリマス、大體ニ於テ此承諾ヲ與フベシト云フ議論ノ諸君ノ說ヲ伺ヒマスルコト云フト、何か此朝鮮合併ト云フコトハ豫期モセズ、偶然ニ起ツタ事柄デアツテ、狼狽シテ此始末ヲ著ケナケレバナラヌト云フ問題ノヤウニ思ハレルノハ、之ハ甚ダ此韓國合併ノ由來ト云フモノヲ忘レタコトノ議論デアラウト思フデアリマス(拍手起ル)韓國合併ト云フ事柄ハ一年十二ノ間ニ突然ト起ツタ問題デハナイデアリマス、古イ歴史上ノコトハ暫ク措キマシテ現ニ統監府ヨリ公ニサレマシタコトノ韓國合併願末書ト稱スルコトノ此書物ヲ一讀ナサレタナラバ、此韓國合併ト云フ問題ハ「ボーツマス」ノ條約、日英同盟約款ニ既ニ其原因ヲナシテ居ルデアリマス、ソレニ續キテ明治三十八年十一月十七日ノ日韓新協約ト云フモノガアリマスガ、此日韓新協約ニ據テ初メテ統監府ヲ置イテ、韓國ノ外交權ト云フモノヲ我ニ收メタデアリマス、ソレニ續キテ裁判、警察等一切ノ韓國ノ内政ト云フモノハ悉ク統監ノ手ニ歸シタデアリマス、爾來既ニ四年有餘ノ歲月ヲ經過シマシテ韓國ノ政治上ノ實權ト云フモノハ悉ク我國ノ手ニ歸シテ居ルト云フ事柄ハ之ハ事實デアリマス、ソレ故ニ韓國合併ノ條約ト云フモノハ唯一ノ形式ニ止ツテ、其實ハ既ニ疾ク韓國ト云フモノハ我國ニ合併サレタルコトノ實ヲ持ツテ居タモノデアアルト云フコトヲ申シテモ決シテ過言デハナイデアリマス、然ラバ政府ハ既ニ統監府ヲ置イテ四年以上モ經過シテ居ルデアリマスカラ、著々其準備ト云フモノヲ致シマシテ、萬違算ナキ筈デアアルニモ拘ラズ、韓國合併ニ對シテハ非常ニ狼狽ヲシテ何事モ議會ニ諮ラズ、法律モ財產上ノ處分モ總テ議會ニ諮ラズシテ之ヲ獨斷ニ擅行スルコト云フヤウナコト、云フモノハ、實ニ韓國合併ノ由來ト云フモノヲ全ク忘却シタモノト言ツテモ差支ナイノデゴザイマス(拍手起ル)多クノ緊急勅令ノ内容ニ付テ今算ヘ舉ゲテ一々申ス必要ハアリマセウガ、私ハ勅令ノ第三百二十六號ト、勅令ノ第三百二十號ト、勅令ノ第三百四號ト云フモノニ付テ其内容ト云フモノガ、果シテ憲法ノ規定ニ基クコトノ法律ニ代ルベキ緊急勅令タル價ヲ持ツテ居ルモノデアラウカ、憲法第七十條ノ財政上ノ緊急處分ト云フモノニ該當スルモノデアラウカト云フ點ニ止メテ、少クモ此三ツノ勅令ト云フモノハ憲法違反デアアルト云フコトヲ私ハ斷言シテ憚ラナイデアリマス、今マデノ反對ノ論者ハ帝國議會ヲ開クコトノ出來ナイ狀況デバナカッタデアアル、憲法第八條ノ處分ト云フモノヲ爲スベキ場合デハナイト云フコトニ付テカヲ籠メラレタデアリマスガ、假ニ政府ノ見ルガ如ク内外ノ情形ニ依テ帝國議會ヲ開クコトノ出來ナイ事情ノアツタモノデアアル、憲法第八條ニ據テ法律ニ代ルベキコトノ緊急勅令ヲ發スベキ必要ノアツタモノデアアルト假定致シマシテモ、勅令ノ第三百二十六號勅令ノ第三百三十號並ニ勅令ノ第三百四十號ト云フモノハ確ニ憲法違反デアアルト云フコトヲ斷言シテ、是ヨリ其理由ヲ述べントスルデアリマス(「謹聽ヤ々」ト呼フ者アリ)勅令ノ第三百二十六號ハ帝國憲法第七十條ニ據リ財產上ノ必要ノ處分デアアルト云フノデアリマス、然レニ其内容ヲ見マスルコト云フト「舊韓國政府ニ屬スル歲入歳出ノ豫算ハ當分ノ中從前ノ儘之ヲ襲用ス」トアルデアリマス、韓國ノ合併ト共ニ朝鮮總督府ト云フモノガ新ニ設ケラレマシテ、其政治ニ關スル幾多ノ經費ヲ要スルコト云フコトハ申スマデモナイコトデアリマス、其經費ヲ要スル點ニ付テモ相當ノ財政ノ計畫ト云フモノガナケレバナラヌデアリマス、然レニ勅令ノ第三百二十六號ハ舊韓國政府ニ屬スル歲入歳出ノ豫

算ハ當分ノ中從前ノマ、之ヲ襲用ストノミ示シテアッテ其財産ノ緊急處分トシテノ内容ト云フモノハ少シモ示シテナイノデアリマス、諸君ガ之ヲ財政上緊急處分ナリトシテ是ニ協賛ヲ與ヘ、是ニ承諾ヲ與ヘラレントスルノデアリマス、舊韓國政府ニ屬スルコロノ歳入歳出ノ豫算ノ内容ト云フモノハ、ドウ云フモノデアリマス、何千何百万圓ノ金ガドウ云フ豫算ノ款項ニ編輯セラレテ、ドウ云フ使途ニナッテ居ルト云フ事柄ハ、此勅令ヲ自體ニ於テハ少シモ見ルコトガ出來ナイノデアリマス、苟モ帝國議會ノ協賛ヲ經ベキ豫算ニ關シテ憲法ノ條規ニ則ツテ緊急ノ處分ヲスルト云フナラバ勅令ヲ自體ニ於テ其緊急ノ財産處分ノ内容ト云フモノヲ示シテ置カケレバ何ノコトデアルカ分ラヌデアリマセヌカ、勅令第三百二十四號ニ付テハ吾々ニ向ツテ白紙ノ委任狀ヲ出セト云フコトヲ追ツテ居リマスガ第三百二十六號ニ於テハ何モ其豫算ノ内容ヲ示シテナイ之ニ承諾ヲ與ヘヨト云フモノ之ヲ可ナリトシ、之ヲ不可ナリトスルニハ、何ニ依ツテ決定スルコトガ出來ルノデアリマセウカ、鵜澤君ガ先刻各勅令ニ對シテ甚ダ輕妙ニ恰モ何等ノ問題モ伏在シテ居ラヌカノ如ク言ハレ、輕々ニ看過セラレテ居ルノデアリマス、歳入歳出ノ豫算ハ當分ノ中從前ノマ、襲用スト云フノミデアリマス、一向分ラヌデアリマセウカ、之ヲ讀シテ諸君ガ成程舊韓國政府ニ屬スル豫算ト云フモノハ斯ウ云フモノデアルト云フコトガ御分リナル諸君ガ一人デモアッタラ私ハ御目ニ懸リタイノデアリマス、斯様ナモノガ憲法第七十條ニ依ルトコロノ財産上ノ緊急處分ツレ自身デアナルナド、云フコトハ何カラ申スノデアリマセウカ、ドウゾ十分ニ御研究ヲ願ヒタイノデアリマス、ソレカラ勅令第三百二十六號ニ準聯致シテ、ヤハリ三百二十號デアリマス、此三百二十號ハ韓國ノ歳入歳出ニ關スル會計法ヲ定メタモノデアリマス、然ルニ其勅令ヲ見マスルト明治四十二年勅令第三百二十六號ニ依リ豫算ニ關スル會計ノ經理及舊韓國政府ニ屬シタル財産ノ管理ニ關シテハ當分ノ中從前ノ例ニ依ル、是ガ憲法第八條ニ依リ法律ニ代ルベキ緊急勅令デアルト云フコトデアリマス、苟モ憲法第八條ニ依リ緊急勅令デアルト云フナラバ、其緊急勅令自體ニ於テ法律ノ内容ヲ備ヘテ居ナケレバナラヌデアリマス、即チ法律ニ代ルベキ勅令ナケレバナラヌデアリマス、當分ノ中從前ノ例ニ依ルト云フコトノミデア、此中ニ何ノ會計法ガ書イテアルノデアリマス、國民ハ法律ニ代ルベキ勅令第三百二十號ヲ一讀シテ、是ガ朝鮮ノ歳入歳出ニ關スル會計ノ法規デアルト申シマシテモ、其法規ノ内容ト云フモノガ此勅令ノ中ニ書イテナイノデアリマス、當分ノ中從前ノ例ニ依ルト云フノミデア、即チ勅令ノ體ヲ成シテ居ラヌデアリマス、此點ニ關シテ委員會ニ於キマレテ政府委員ニ説明ヲ求メタノデアリマス、當分ノ中從前ノ例ニ依ルトカ、或ハ外國ノ例ニ依ルト云フ事柄ハ往々法律上ニアルコトデアルカラ差支ナイノデアル、斯ウ云フ答辯デアッテデアリマセウケレドモ、此從前ノ例ニ依ルト云フコトハ舊韓國ノ會計法ニ依ルト云フコトデアリマセウケレドモ、舊韓國ハ明治四十三年ノ八月二十九日日本國ニ合併セラレテ朝鮮ト云フ名前ノ行政區劃ニ變テタノデアリマス、其故ニ舊韓國ノ會計法ナド、云フモノハ今日ハ天下ニ存在シテ居ラナイモノデア、世ノ中ニ存在シテ居ラナイトコロノ舊韓國ノ歳入歳出ト云フモノハ當分ノ中其豫算ヲ從前ノ通りニ之ヲ襲用スル——世ノ中ニナイトコロノ韓國ノ會計法ト云フモノヲ當分ノ中從前ノ例ニ依ルト云フヤウナ事柄ヲ勅令ニ書イテアッテモ、何ノ效モナイノデアリマス、即チ勅令ノ第三百二十六號ト第

三百二十號ト云フモノハ法律ニ代ルベキ緊急命令ニアラズ、憲法第七十條ノ財政上ノ緊急處分デアリノデア、讀シテ何ノコトヤ意味ノ分ラヌ勅令デアルト申シテモ一向差支ナイノデアリマス、而シテ此二ツノ勅令ト云フモノハ其自體ト云フモノガ甚ダ大切ナルモノデアリマス、韓國ガ日本國ニ合併セラレタ以上ト云フモノハ舊韓國ノ歳入歳出ニ關スルコロノ總テノ財産上ノ事柄ト云フモノヲ日本政府ニ引繼ガナケレバナラヌデアリマス、又舊韓國ニ屬スル總テノ財産ノ經理ノ方法ト云フモノモ無論日本國ニ於テ立テナケレバナラヌデアリマス、然ルニ單ニ勅令ヲ自體ニ當分ノ中從前ノ例ニ依ルトカ、或ハ又從前ノマ、之ヲ襲用スト云フダケデア何デ此勅令ト云フモノヲ實地ニ適用スルコトガ出來ルデアリマセウカ、此勅令ニ依ツテ財政上ノ處分ヲシテ往カケレバナラヌ、此勅令ノ規定ニ依ツテ此會計ノ經理ヲシテ往カケレバナラヌト云フノデアリマセウケレドモ、勅令ノ上ニハ少シモ其内容ヲ示シテ居ラヌデアリマス、何ニ依ツテ此總テノ活動ト云フモノヲヤツテ行クコトガ出來ルノデアリマセウカ、是ハ實ニ容易ナラヌ問題デアルト私ハ思フノデアリマス、更ニ勅令第四百六號ニ至リマシテハ更ニ驚クベキモノガアルノデアリマス、豫メ反對論ノアルベキコトヲ考ヘラレテ鵜澤君ヨリ聊辯明ニナツタ點モアリマス、勅令ノ第四百六號ト云フモノハ明治四十二年九月二十九日ニ發布セラレタトコロノ緊急勅令デアリマス、サウシテ此緊急勅令ハ何ニ依ツテ發セラレタノデアルカト申シマス、憲法第八條並ニ第七十條ニ依ルトコロノ處分デアリマス、然ルニ憲法第七十條ニ依リマス、前ニモ議論ノアッタ通りニ内外ノ情形ニ因リ政府ハ帝國議會ヲ召集スルコト能ハサルトキハ勅令ニ依リ財政上必要ノ處分ヲ爲スコトヲ得」デアリマス、朝鮮既ニ我國ニ合併セラレ、而シテ凡テ緊急ノ事項ト云フモノガ處理セラレタル曉ニ於テ四十二年九月二十九日ニ至リテ、尙議會ヲ開クコトガ出來ナイ狀況ガ存シテ居タノデアリマセウカ、韓國併合ニ關スルトコロノ必要ノ處分ヲ爲シマスル際際ニ當リテハ、或ハイロ／＼ノ事情ノ下ニ事ヲ急速ニ決行シナケレバナラヌ場合モアッタデアリマセウケレドモ、既ニ平穩無事ニ併合ヲ終シテ一月ヲ經過シタトコロノ九月二十九日ニ至ツテモ、尙議會ヲ開クコトガ出來ナカッタノデアラウカ、而シテ此緊急勅令ト云フモノハ何時カラ實行サレルト申シマスレバ、四十二年ノ十月一日ヨリ實行サレルトデア、四十二年ノ十二月ニナリマシタナラバ立派ニ議會ヲ開ケルノデアリマス、僅ニ其間一二箇月ヲ待ツコトガ出來ナイデ、而モ議會ヲ開クコトノ出來ナイ狀況ナキニモ拘ラズ、此ノ如キ緊急勅令ト云フモノヲ濫發シタ責任ト云フモノハ到底私ハ政府ハ免カレルト出來ナイ點デアラウト思フノデアリマス、(拍手起ル)多クノ緊急勅令ノ中テ重要ナルモノニ付テ既ニ議論ガアッタノデアリマス、唯今私ガ數ヘ上ゲマシタトコロノ勅令三百二十六號並ニ三百三十號並ニ四百六號ノ緊急勅令ト云フモノハ確ニ憲法違反ノ緊急勅令デアルト云フコトニ付テハ少シモ疑ハ括ムベキ餘地ハナイノデアリマス、餘リ緊急ノ勅令ガ濫發サレタ數ガ多イモノデアリマス、一ツ其最モ主ナルモノニ付テハ諸君ガ十分ニ御注目ニナツテ居ルノデアリマセウケレドモ、一ツ一ツ數ヘ上ゲテ其内容ヲ詮議スルト云フコトニ付テハ餘リニ諸君ガ注意ノ足ラザルコトヲ私ハ憾ムノデアリマス、(ヒヤ／＼ト呼フ者アリ)私ガ申シマス、如ク一々其内容ヲ詮議致シマスルト今申スガ如クドウシテモ憲法上如何ニシテモ承諾ヲ與ヘルコトノ出來ナイ此勅令ト云フモノガ幾ツモアルノデアリマス、斯ウ云フモノハ十分ニ區別シテ吾々

ノ職責ヲ盡ス上ニ於テ此憲法ノ規定ト云フモノヲ飽クマデ擁護スル上ニ於テ十分ニ注意ヲ私ハ拂ハナケレバナラヌ點デアラウト思フデアリマス(拍手起ル)諸君緊急勅令ハ合セテ十二「濫發セラレタノデアリマス」ガ、顧ミテ帝國憲法ノ條規ヲ一讀ヲ願ヒマシタナラハ斯様ナル重大ノ案ニ向テ輕キ承諾ヲ與ヘルコトノ出來ナイト云フ事柄ハ本員ノ口ヨリ申上ゲルヨリモ寧ロ憲法ノ明文ヲ許サズト云フコトヲ申上ゲタ方ガ最モ適當ノコトデアラウト思フデアリマス、帝國憲法ノ第五條ニハ「天皇ハ帝國議會ノ協贊ヲ以テ立法權ヲ行フ」第三十七條「凡テ法律ハ帝國議會ノ協贊ヲ經ルヲ要ス」第六十四條「國家ノ歲入歳出ハ毎年豫算ヲ以テ帝國議會ノ協贊ヲ經ヘシ」第四十三條「臨時緊急ノ必要アル場合ニ於テ常會ノ外臨時會ヲ召集スヘシ」斯様ニ明文ガアルノデアル、諸君ハ憲法モ能ク御覽ニナラナイデ此職責ヲ盡サントスルノ誤デ居ルノデアル(ノウ)「ト呼フ者アリ」唯今私が念ノタメニ列舉シタコロノ憲法ノ條規ト云フモノハ緊急勅令ヲ濫發セラレタルガタメニ悉ク無視セラレテ居ルノデアリマス(拍手起ル)而シテ帝國議會ノ存スル所以、諸君が今日此議席ニ著イテ此案ノ討論ヲセラル、ノモ亦私が唯今列舉シタコロノ憲法ノ條章ニ則テ居ノデアリマス、然ルニ政府ガ此ノ如ク多クノ緊急勅令ヲ濫發シタルガタメニ是等ノ條規ト云フモノハ悉ク無視セラレテ居ルト云フ事柄ハ言葉ヲ繰返シテ申シテ置カナケレバナラヌ點デアラウト思フデアリマス(拍手起ル)ソレ故ニ此總テノ緊急勅令ト云フモノハ憲法ノ規定ニ背イタモノデアッテ、所謂憲法第八條並ニ憲法第七十條ノ規定ニ則リタル適當ナル緊急勅令ナリシテ之ヲ認メルコトガ出來ナイノデアリマス、カラシテ、全部之ニ向ッテハ承諾ヲ與フベカラズト云フノガ、本員等ノ固ク執ッテ動カナイトコロデアッテ、又是レ憲法擁護ノ途ニ於テ最モ其當ヲ得ルトコロノモノデアルト云フコトヲ信シテ疑ハナイノデアリマス、恐クハ諸君ガマサカニ此情意投合ノ犠牲ノタメニ憲法ノ條規マデモ無視スルト云フヤウナ致方ハ致サレナイデアラウト云フコトヲ私ハ固ク信ズルガ故ニ、多キヲ言ハズ、諸君ノ良心ニ懇ヘテ公明ナル判斷ヲセラレルトコトヲ私ハ望ムノデアリマス

○清水市太郎君 議長チヨット御尋シタイ
○議長(長谷場純孝君) 質疑デスカ
○清水市太郎君 唯今二君ノ御演說ニ對シテ
○議長(長谷場純孝君) 極ク簡單ニ御述ベアランコトヲ望ミマス
○清水市太郎君 簡單デアリマス
(「登壇々々」ト呼フ者アリ)
(清水市太郎君登壇)
○清水市太郎君 本員ハ大體政府ノナサレルトコロニ對シテハ大ニ反對スルトコロガアルモノデアリマス、併ナガラ此朝鮮ノ併合ニ際シテ發セラレタル緊急勅令ノ件ニ關シテハ贊成デアル(「何ヲ言フノダ」ト呼フ者アリ)
○議長(長谷場純孝君) 質問ノ趣旨ヲ御述ベナサイ
○清水市太郎君 其譯ハ質問ノ趣旨ハ先刻來花井君ノ言ハレルトコロヲ聽キマス、憲法第八條第七十條ニ政府ハ反對シテ居ルト云フ御議論デアル、併ナガラ是ハ其憲法第七十條ハ緊急勅令ヲ發スルトコトノ出來ル場合ガ規定シテアル、其緊急勅令ヲ發スル

場合デアッタカ、ナカッタカト云フコトハ判斷ニ依ッテ決スルノデアル、而シテ朝鮮當時ノ狀態ヲ考ヘマスレバ實ニ「何ンデスツレガ質問カ」ト呼フ者アリ、憲法第七十條ノ緊急勅令ヲ發スルトコトノ出來ルト云フコトノ出來ヌト云フノハ解釋ニ依ッテ異ナル、其解釋ハ憲法第七十條ヲ花井君ハ戰爭ノ場合ト若クハ議會ガ解散シテ居ル場合ニ限ラレル……
○議長(長谷場純孝君) 清水市君ニ警告シマス
○清水市太郎君 サウ云フトキニ緊急ダト認メラレタ、併ナガラ戰爭ハ決シテ現ニ起ッテ居ル戰爭ハカリヲ言ハナイ、將ニ起ルベキ事變ヲ豫想シタトキモ亦此緊急勅令ヲ發スルコトガ出來ルノデアル、ソレデアリマス、朝鮮併合ト云フコトヲ其併合前ニ於テ中外ニ發表シタナラバ如何ナル事變ガ出來スルカモ分ラヌト云フコトヲ政府ガ豫想シテ、其豫想シタノガ適當デアッタナラバ、即チ憲法違反ニナラナイノデアル
(「誰ニ質問シテ居ルカ」ト呼フ者アリ)
○議長(長谷場純孝君) 清水市君、討論ナラ許シマセヌ、通告ガアリマス
○清水市太郎君 憲法ノ疑義ニ對シテ御尋スルノデアリマス、憲法第七十條ハ決シテ戰爭ガ現ニ起ッテ居ル場合ヲ想像シタノデアリナイト私ハ思フノデ、此點ニ對シテ大ニ疑ヲ存スルノデアル、而シテ「ロ」御話ガアリマシタガ、其起ルベキ事變ヲ豫想スレバ幾ラモアルノデ、誰モ「ボツマウス」平和條約ノトキニ伊藤公ガ毒手ニ殛レルト云フコトヲ豫想シタモノハナイ、ソレデアリマス、如何ナル事變ガ發生スルカ分ラナイ……
○議長(長谷場純孝君) 清水市君、清水市君發言ヲ中止シマス
○清水市太郎君 其事變ノ豫想シテ政府ガ適當ニ之ヲ臨機ノ處分ヲセラレタコトハ憲法違反デナイ、斯ウ云フ意味デアリマス、憲法第七十條ノ意味ハ解釋次第デス

○議長(長谷場純孝君) 清水市君發言中止ヲ命ジマス——鳩山和夫君
(法學博士鳩山和夫君登壇)
○法學博士鳩山和夫君 諸君、此比較的大キイ問題デアッテ國家ノタメニハ隨分大切ナル問題デアルニ拘ラズ、何ダカ今日ノ討論ハ物足りナイヤウナ心持ニ今マデハ拜聽致シマシタ、併ナガラ私が是カラ言ハントスルトコロモヤハリ平々凡々デアラウト思フデアリマス、何ントナレバ一體餘リ論議ヲ盡スベキ場所ガ無イノデアルデス、斯様ナ分リ切ッタ問題ニ付キマシテハサウ面白イ議論ハ出ナイ筈デス、殊ニ大石君ノ如キ雄辯家デモ雄辯ガ出ナイノデスカ、私デヤ尙駄目ダト思ヒマス、其事ガ諸君ニ分ルト餘程何カアルトコロヲ諸君ニ分ラシメタコトニナルト思フデアル、本來此朝鮮併合問題ト云フモノハト部君ノ言ハレタ通り、隨分前カラ噂ニハアル問題デアル、人ノ噂ニハアル問題デアッテ、ソレハ「ボツマウス」條約ドコロデアナイ、モット古ク日本ノ古イ歴史ニ入ッテ豐臣秀吉ナドモサウ云フコトヲ考ヘテ居タト思フノデスカ(「問題外」ト呼フ者アリ)近來ノ問題デナイカラ日本人ハ大分古ク、議會開設以前カラシテ此問題ハ考ヘテ居タ問題デ、或ハ明治二十三年ニ憲法ヲ布キ、帝國議會ヲ開イタトキニ之ヲ豫期シテ一ノ議題トシテ居タナラバ、早手回シデアッタカモ知レナイノデアル、併ナガラサウ云フコトハ出來ナイ、而シテモウ一ツ此問題ニ付テ記憶シテ置キタイコトハ、朝鮮併合問題ト云フモノハ唯今私ノ言フ通り、古ク日本人ノ頭ニアツタト同時ニ憲法制定者ノ憲法ヲ起草スルトキニ新領土ヲ日

本ニ合併スルコト云フコトガアツタカ否ト云フコトハ是ハ問題アルト思フデス、或ハ臺灣ノ合併或ハ朝鮮ノ合併ト云フコトハ憲法起草者ノ頭ニハ無カッタカトモ思フノデアアル、アツタナラハ斯ウ云フ場合ニ適應スベキ箇條ガモウ少シ上手ニ、モウ少シ器用ニ出來テ居ッダカモ知レナイト思フノデアアル、併ナガラ朝鮮合併ト云フコトハ事實トシテ此聖明ナル今上陛下ノ御世ニ行ハレルコトニナツタ、甚ダ結構ナコトデニ對シテハ上下共ニ皆喜ンデ居ルノデス、此時ニテス、憲法ノ條章ガ丁度之ニ適應スルモノガアリヤ否ヤ、此憲法ノ明文ニ反カズシテ相當ノ處分ヲナシテ行クト云フコト、是ハ政治家ノ職務デアアルノデス、此場合ニ於キマシテハ學者ハ學者トシテ大學ノ隅ニ於テナリ何レノ場所ナリニ於テ勝手ナ議論ヲスルガ宜イノデアアル、政治家ナルモノハ其學說ニ拘泥シテ大事ナ眼前ノ目的ヲ看過スルコト云フコトハ出來ナイ、極ク近イ例ヲ取レバ朝鮮合併ニ付テハ委任命令ト云フコトハ憲法ニ於テ許シテアル方ガ宜イ、憲法第五條之ヲ禁止シタルガ如クデアアル、斯ウ考ヘタナラハ合併前ニ憲法ヲ改正シタナラハ學者ハヤカマシイコトヲ言ヘナイデセウ、併ナガラ此コトヲ行フ前ニ憲法ノ改正ヲ行フコトガ到底行ヘルモノデナイ、併ナガラ今ノ憲法ハ政治家ガ讀メバデス、ヤハリ此憲法ニ依ッテ合併ニ對スル相當ノ處置ヲナス——ハ出來ルノデアアル、委任立法ハ憲法違反デアアルト學者ハ言フ併シ政治家ハ疾ニ此問題ハ極メテシマッテ居ル、臺灣ニ對シテ委任立法ヲ行フテ居ルデハナイカ、事實憲法ヲ解釋シテ居ルデス、事實グラ井確ナル解釋ハ憲法ノ上ニ下スベキコトハナイト思フ、委任立法ハ事實トシテ政治家仲間ノ間ニハ此憲法ノ下ニ行ヒ得ルト云フコトハ、モウ極メテシマッテ居ルノデアアル(「憲法蹂躪ナリ」ト呼フ者アリ)學者ハ蹂躪トカ何トカ言フデス、ソレカラ其次ニ責任立法ト云フモノハ憲法ノ條章ノ下ニ爲シ得ルト云フコトデアアルナラハ、其次ニハ緊急勅令ヲ以テ委任立法ヲ爲シ得ルカ、或ハ法律ニアラザレバ委任立法ヲ爲シ得ザルカト云フ、是亦憲法ノ條章ガ明カニ我ニ教ヘテ居ル、是ハ解釋モ何モ要ラナイ、憲法ノ第八條ハ——憲法ノ第八條ハ或場合ニ於テ法律ニ代ルベキ緊急勅令ヲ政府ガ出スコトヲ許シテアル此緊急勅令ハ即チ法律ニ代ルベキモノデ、法律ト同一ナル效力ヲ有スルノデアアルカラ、委任立法ナルモノハ勅令ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ得ベシ、又法律ヲ以テ爲スモ可ナリ、(「ノウ」ト呼フ者アリ)此コトハ我國ノ憲法ノ解釋トシテハ事實ニ於テ最早極メテシマッテ居ルノデアアルデス、私ハ先刻ノ大石君ノ委任立法ニ對スル攻擊ニ對シテハ之ヲ以テ御答トシテ宜カラウト思フ、大石君ノ議論ハ少シ花井君ニ曲解セラレタト思フデスガ、大石君ノ意思ハ公平ニ聽ケバ勅令デモ法律デモソシナコトハ論ズルトコロデハナイ、元來總督ニ斯様ナ權限ヲ與ヘルノガイイナイト云フノガ大石君ノ論據ヲシト思フ、其形ハ問ハヌト云フ御議論ノヤウニ承ツタデアアルデス、ソレデモ宜イ、私ハ總督ニ是ダケノ制限ヲ與ヘルト云フコトガ憲法上ノ解釋ナラバ、ソレカラ先ハ政略上ノ問題ニナル、而シテ政略上ノ問題ト致シマシテハ事情ノ内地ト異ナル場所ニ向ヒマシテハ内地ト異ナル政治ヲ行フノガ、適當ト思フテ居ルノデアアル、現ニ英國ノ如キハ違ッダ殖民地——事情ノ異ツタ殖民地ヲ外ニ持ッテ居ル、而シテ濠洲、加奈陀ト香港ハ又違ッダコロノ政策ヲ行フテ、違ッダ方法ニ依ッテ居ルノデアアルカラ、之ヲ内地ト同一ニ劃一ナル方法ニ依ッテ政治ヲ爲スコト云フノハ殖民政策トシテハ其當ヲ得ナイモノデアアルカラ、私ハ總督ニ一任政策ヲ執ルノガ政策トシテハ

適當デアアル、且憲法亦之ヲ許スト云フ論據ヲ執ルモノデアアルノデアアル、殊ニ大石君ノ如クニ總督ナリ其他ノ殖民地ノ役人ニ大ナル權能ヲ與フルノハ不得策デアアルト云フコトニナルト、マダ是ハ今ノコロロデハ分リマセヌケレドモ、朝鮮ハ我國ノ鄰國デアッテ歷史上、言語上、多少ハ我國ト似タコロガアル、併シ是カラ先キ日本ガドンナ領土ヲ取ルカモ分ラナイ、ソレハ大キナ聲デハ云ヘナイケレドモ、其場合ニハヤハリ私ハ大ナル權能ヲ與ヘタコロノ總督ヲ置クノガ宜イト思フノデアアル、ソレカラシテト部君ノ御論ナカク、緻密デア原案ヲ見ナイト充分ニ御答ガ出來ヌカモ知レヌガ、私ノ聽覺エタコロコハト部君ハ數歩ヲ讓ッテ、モウ議會ヲ開ク時モ無カッタ内外ノ事情開クコトヲ許サナカッタト云フコロマデ數歩ヲ讓ッテモ、尙三百二十六號外ニツバカリノ勅令ハ憲法違反デアアル、即チ内容ヲ示サレガ故ニ、憲法違反デアアルト云フヤウニ承リマシタガ、是ハ極ク造作ナク御答ガ出來ルト思フデス、内容ヲ示スノハ少シコロコデ學校ノ講義ヲシクナリマスガ列記ノ方法ト、概括ノ方法ト、他ノ文書ニ依ル方法等ガアリマスルノデ、今ノ勅令ガ内容ヲ示サナカッタノハ列記法ヲ採ラスシテ、概括的表示方法ヲ採ラスシテ、他ノ文書ニ讓ッダケノ方法ヲ採ッタデアリマスカラ、明カニ表示セラレテ居ルト考ヘマス(拍手起ル)

○菅原傳君 討論終結ノ動議ヲ提出致シマス

(「贊成々々」ノ聲起ル)

○議長(長谷場純孝君) 定規ノ贊成者アルト認メマス——桂總理大臣

(「内閣總理大臣侯爵桂太郎君登壇」)

○内閣總理大臣(侯爵桂太郎君) 先刻ヨリ議題ト相成ッテ居リマスニコロノ此數多ノ御承諾ヲ求ムル案ニ付キマシテ、反對贊成ノ御議論モアツタヤウデアリマスルガ、此點ニ付キマシテハ政府ハ已ニ此議場ノ反對贊成ノ御說ニ依ッテ明瞭ニ諸君ニ御分リナツテ居ルト信ズルデアリマス、茲ニ願クハ諸君ノ公明ナル御判斷ニ依リマシテ、政府ノ提出致シテ居リマスルニコロノ緊急勅令ヲ御承諾アラシコトヲ希望スルノデゴザイマス

○議長(長谷場純孝君) 討論終結ノ動議ニ定規ノ贊成ガアリマスカラ採決ヲ致シマス

(「異議ナシ」ト呼フ者アリ)

○議長(長谷場純孝君) 御異議アリマセヌカ——別ニ御異議ガナケレバ討論ハ終結致シマス、採決ニ付テ御諮ラ致シマス、先ヅ日程ノ第十六、第十七、第十八、此ノ三案ニ付テハ御議論モアリマスカラ、此三案ヲ一括シテ採決ヲ致シ、次ニ第十九ヨリ第二十五マデヲ一括シテ採決ヲ致シ、次ニ第二十六ヲ採決シ、次ニ御二十七ハ即チ法律案デアリマスカラ勿論別ニ採決致シマス、ソレデア御異議アリマセヌカ

(「異議ナシ」ト呼フ者アリ)

○法學博士花井卓藏君 十六、十七、十八ト二十六ヲ一緒デア宜シウゴザイマス

○議長(長谷場純孝君) 先ヅ今宣告シタ通りヤリマセウ、日程第十六、明治四十二年勅令第三百二十六號承諾ヲ求ムル件、第十七、明治四十二年勅令第三百二十七號承諾ヲ求ムル件、第十八、明治四十二年勅令第三百二十八號承諾ヲ求ムル件、

此三案ヲ一括シテ採決致シマス、本案ニ反對ノ諸君ノ起立

起立者 少數

○議長(長谷場純孝君) 少數、他ハ委員長ノ報告通り御異議ハアリマセヌカ

(「異議ナシ」ト呼フ者アリ)

○議長(長谷場純孝君) 御異議ナケレバ委員長ノ報告通り決シマス、即チ承諾ヲ求ムルコトニ決シマス、(笑聲起ル)承諾ヲ與フルコトニ決シマス、確定議致シ置キマス、日程ノ第十九、明治四十四年勅令第三百二十九號承諾ヲ求ムル件、第二十一、明治四十四年勅令第三百三十一號承諾ヲ求ムル件、第二十二、明治四十四年勅令第三百三十三號承諾ヲ求ムル件、第二十三、明治四十四年勅令第三百三十七號承諾ヲ求ムル件、第二十五、明治四十四年勅令第三百三十八號承諾ヲ求ムル件一括シテ……

○菅原傳君 唯今議長ハ日程第二十ヲ御朗讀ナイヤウデアリマスガチヨット御注意致シマス

○議長(長谷場純孝君) 日程第二十ヲ讀落シマシタナラバ日程ノ第二十八ハ明治四十四年勅令第三百二十號承諾ヲ求ムル件、此七案ヲ一括シテ議題ニ供シマス

(「異議ナシ」ト呼フ者アリ)

○議長(長谷場純孝君) 反對ノ諸君ノ起立ヲ請ヒマス

起立者 少數

○議長(長谷場純孝君) 少數、他ハ御異議アリマセヌカ

(「異議ナシ」ト呼フ者アリ)

○議長(長谷場純孝君) 御異議ナケレバ七案トモニ承諾ヲ與フルコトニ決シマス、日程第二十六、明治四十四年勅令第四百六號承諾ヲ求ムル件、本案ニ反對ノ諸君起立

起立者 少數

○議長(長谷場純孝君) 少數、他ハ御異議ハアリマセヌカ

(「異議ナシ」ト呼フ者アリ)

○議長(長谷場純孝君) 御異議ナケレバ承諾ヲ與フルコトニ決シマス

○菅原傳君 日程第二十七ノ法律案ハ直ニ二讀會ヲ開キ、三讀會ヲ省略シテ委員長報告通り決定セラレント望ミマス

○議長(長谷場純孝君) 日程ノ第二十七、朝鮮ニ施行スベキ法令ニ關スル法律案、花井卓藏君提出、第一讀會ノ續、即チ本案ハ直ニ二讀會ヲ開キ三讀會ヲ省略シテ委員長報告通り云フコトニ御異議ハアリマセヌカ

(「異議ナシ」ト呼フ者アリ)

○議長(長谷場純孝君) 御異議ナケレバ直ニ……

(「ノウ」ト開クベカラズト云フ論ガアル)ト呼フ者アリ)

○議長(長谷場純孝君) 異議ガアリマスナラバ採決致シマス、直ニ二讀會ヲ開クト云フコトニ反對ノ諸君ノ起立

起立者 少數

○議長(長谷場純孝君) 少數、直ニ二讀會ヲ開クト云フコトニ御異議ハアリマセヌカ

(「異議ナシ」ト呼フ者アリ)

○議長(長谷場純孝君) 御異議ナケレバ直ニ二讀會ヲ開キ、議案全部ヲ議題ニ供シマス

朝鮮ニ施行スヘキ法令ニ關スル法律案

(「委員長報告通り」ト呼フ者アリ)

○議長(長谷場純孝君) 委員長ノ報告ニ御異議ハアリマセヌカ

(「異議ナシ」ト呼フ者アリ)

○議長(長谷場純孝君) 御異議ナケレバ三讀會ヲ省略シ委員長ノ報告通り本案ハ是ニテ確定致シマス

(拍手起ル)

○議長(長谷場純孝君) 日程第二十八、不動產登記法中改正法律案、政府提出貴族院送附、第一讀會ノ續、委員長報告——濱名信平君

第二十八 不動產登記法中改正法律案 第一讀會ノ續(委員長報告)

(濱名信平君登壇)

○濱名信平君 此登記法中改正法律案ノ結果ヲ御報告致シマス、此法案ハ政府ノ提出ニ係リ、貴族院カラ送付ニナツテ居リマス。トコロノ法律案アリマシテ、此改正ヲ要スルコトノ理由ニ至リマシテハ此說明ニ大體見エテ居リマス。昨年十二月ノ中ニ皇室財産令ト云フモノガ御制定ノ上ニ公布ニナリマシテ、此財産令ノ發布ノ結果、此登記法中ニ改正ヲ要スルコト云フ必要ヲ生ジマシタデアリマス、而シテ改正ノ要項ニ至リマシテハ登記法中第二百二條ノ二ニ於テ登記法ノ改正スベキ要項ハ既登記ノ不動產ヲ世傳御料ニ編入シタル場合ニ於テ其登記ノ手續ヲ取扱フ場合、コレカラ登記法中ノ第二百三條ノ二ニ於キマシテ不動產ニ付キマシテ皇室ニ於カセラルトコロノ遺留財産ノ設定又ハ増加等ノ登記ヲ取扱フ手續、又第四百四十二條ノ二ニ於キマシテハ遺留財産ノ廢止ノ勅許ヲ得タル時ノ登記ノ取扱手續、此以上ノ三點ニ於キマシテ登記法中ノ改正ノ法律案ヲ出サレタデアリマス、之ニ付キマシテ委員會ハ再應審議ヲ盡シマシテ此法案ハ通過スベキモノト全會一致決ヲ致シマシテゴザイマス、殊ニ貴族院ノ方ニ於キマシテモ本案ニ付キマシテハ原案ノ通りニ通過シテ送付ニナツタコトゴザイマスカラ、滿場一致ヲ以テ此法案ハ通過ヲ希望致シマス、御報告ヲ致シマス

(「贊成々々」ト呼フ者アリ)

○菅原傳君 本案ハ直ニ二讀會ヲ開キ、三讀會ヲ省略シテ委員長報告通り決定セラレント望ミマス

○議長(長谷場純孝君) 直ニ二讀會ヲ開キ、三讀會ヲ省略シテ委員長報告通り決定シタイト云フ動議ニ御異議ハアリマセヌカ

○議長(長谷場純孝君) 御異議ナシト呼フ者アリ
○議長(長谷場純孝君) 御異議ナシト認メマスカラ直ニ二讀會ヲ開キ、議案ノ全部ヲ議題ニ供シマス

不動產登記法中改正法律案

確定議

〔異議ナシ異議ナシト呼フ者アリ〕

○議長(長谷場純孝君) 御異議ガナイト認メマスカラ三讀會ヲ省略シテ本案ハ委員長報告通りニテ確定致シマス、日程第二十九乃至第三十二ハ同一委員ニ付託シ、關聯セル議案ナルニ依リ、一括シテ議題トナスニ御異議ハアリマセヌカ

○三土忠造君 日程第二十九カラ三十二マデハ都合ニ依リ延期ヲ希望シマス

○議長(長谷場純孝君) 日程第二十九ヨリ第三十二マデハ都合ニ依リ委員長ヨリ延期シタイト云フ申出ガアリマス、御異議ハアリマセヌカ

〔異議ナシ異議ナシト呼フ者アリ〕

○議長(長谷場純孝君) 御異議ガナケレバ延期致シマス、日程第二十三、三十四モ委員長ノ都合ニ依リ延期シタイト云フコトアリマス、御異議ハアリマセヌカ

〔異議ナシ異議ナシト呼フ者アリ〕

○議長(長谷場純孝君) 御異議ガナケレバ延期致シマス、日程第三十五北海道鐵道敷設法中改正法律案ノ第一讀會ヲ開キ、議案ノ朗讀ヲ省略致シマス、提出者小橋榮太郎君

第三十五 北海道鐵道敷設法中改正法律案(小橋榮太郎君提出) 第一讀會

北海道鐵道敷設法中改正法律案
第二條第二號ノ次ニ左ノ一號ヲ加フ

一 小橋榮太郎君 極メテ簡單デゴザイマスカラ自席カラ申シマス、本案ヲ提出致シマシム要點、即チ北海道鐵道敷設法中改正ヲ加ヘタイト云フ要點ハ、鐵道敷設法ノ第二條第二號ノ次ニ「一、膽振國山越郡長萬部ヨリ輪西ニ至ル鐵道」、斯ウ云フ十九文字ヲ追加シタイト云フ案デゴザイマス、此改正案ヲ出シマシム理由ハ簡單ニ述ベタイト思イマス、本鐵道ハ北海道鐵道ノ幹線ノ聯絡統一上、又北海道東南部ノ利源開發ノ上ヨリシテ切要緊急ノ設備アルト云フコトハ、是ハ足一度北海道ニ入ッテ御方ニハ能ク御分リテラウト思ヒマス、長萬部輪西ナド、斯ウ申シマシテハ御分リニナラス人モアルカモ知レマセヌカ、要スルニ函館ト室蘭トノ聯絡線アリマス、此鐵道ノ設備ノ所謂建設ノ遲速緩急ハ直ニ北海道全道ノ拓殖ノ上ニ至大ナル關係ヲ及ボスモノト私ハ信ズルノデアリマス、因テ本案ヲ提出シテ次第デゴザイマス、願クハ諸君ノ公平ナル御判斷ノ下ニ此案ノ速ニ成立致シマスルヤウニ御賛成ヲ仰ギタイノデアリマス

○菅原傳君 本案ハ北海道拓殖經營案基礎確立ニ關スル建議案ト同シ委員ニ付託セテレントラ望ミマス

○議長(長谷場純孝君) 本案ハ北海道拓殖經營案基礎確立ノ建議案ト同一委員ニ付託スルコトニ御異議ハアリマセヌカ

〔異議ナシ異議ナシト呼フ者アリ〕

○議長(長谷場純孝君) 御異議ナケレバ其通り決シマス、日程第三十六、普通選舉ニ關スル法律案ノ第一讀會ヲ開キ、議案ノ朗讀ヲ省略致シマス、日向輝武君

第三十六 普通選舉ニ關スル法律案(日向輝武君外十一名提出) 第一讀會

普通選舉ニ關スル法律案

帝國臣民タル男子ニシテ滿二十五年以上ノ者選舉人名簿調製ノ期日前滿一年以上其ノ選舉區内ニ住所ヲ有シ仍引續キ有スルトキハ衆議院議員選舉權ヲ有ス

衆議院議員選舉法中納稅ニ關スル規定ハ之ヲ廢止ス

附則
本法ハ次ノ總選舉ヨリ之ヲ施行ス

(日向輝武君提登)

○日向輝武君 簡單ニ提出者ノ一人ト致シマシテ本案提出ノ自由ヲ陳述致シマス、此法律案ハ帝國ノ臣民滿二十五歲ニ達シタル男子ハ生理上、心理上相當ナル考慮ヲ有シテ權利義務ノ主體タル資格ヲ持テ居ルモノデアリト云フコトヲ確信シテ、是等ノモノニ參政權ヲ附與スベシト云フデアリマシテ、現行法ニ行ハレテ居リマス納稅ノ資格ハ人道ノ本義ニ背イテ居ルモノトシテ之ガ廢止ヲ要望スルモノデアリマス、而シテ本法ハ次ノ總選舉ヨリ之ヲ施行セントスルデアリマス、法文ハ極メテ簡單デアリマス、併ナガラ意義ハ明カニ之ヲ盡シテ居ルト信ジマス、之ヲ提出シタル理由ハ四ツアルノデアリマス、第一ハ普通選舉ハ帝國憲法ノ精神ヲ擴充スル結果、當然來ルベキ權利ノ要求デアリ、第二、我國現在ノ文化ノ程度ハ優ニ此制度ヲ施行スルニ足レリ、第三ハ普通選舉ノ制度ヲ施行スル結果ニ對シテ世ノ多クノ論者ノ懷ク種々ナル杞憂ハ全ク想像ニ過ギナイデアラテ、一トシテ取ルニ足ルベキモノハナイ、第四、普通選舉ノ制度ヲ施行セル結果ハ政治上ニ偉大ナル變化ヲ及ボシ、而モ現今ノ政治上ノ腐敗ノ動機ヲ撲滅シ、政界ノ空氣ヲ一新スルニ大ナル效力ガアル是此法案ヲ提出致シタル理由デアリマス、諸君、現今我國ノ政治ノ中心ハ何レニアラカト申シマスルト政權ノ中心ハ内閣ニアラス、國會ニアラスシテ、内閣及國會以外一種團體官僚ト唱フル不可思議ナル少數ノ政客ノ手ニ歸シテ居ルデアリマス、憲法上國會ハ彼等ノ連中以上ニ獨立シテ居ルデアリマス、又彼等ヨリ以上ニ重大ナル權利ヲ持テ居ル、若シ國會ガ一度正義ヲ取テ立チ、一度斷乎トシテ此政界ニ蟠リマシタルヤ如何ナル勢力ヲ持ツトコロノ團體デアリマシテモ如何ナル勳功ヲ有スル官僚デアリマシテモ亦之ヲ如何トモスベカラズト云フコトハ、理數ノ當然ナルコトデアリマシテ、又憲法ガ明カニ保障致シテ居ルトコロデアリマス、然ルニ此當然ナルベキ理數ガ當然ナル能ハズ、却テ反對ノ結果ヲ現ハシテ居ルト云フコトハ抑々如何ナル理由デアリマセヌカ、是ガ理由ノ根本ノ原因ハ今日ノ現行ノ偏狹且狹隘極マル

選舉法ニ依ルト信スルノデアル、今日ノ選舉法ニ依リマスルト國民ヲ代表スルコロノ代
議士ヲ選舉スル選舉民ノ數ハ僅ニ、百六十萬人デアリマス、此百六十萬人ハ日本ノ
各アラユル階級カラ公平ニ選シタルコロノモノデアルナクシテ、單純ニ直接國稅十圓ヲ
納ムル者ニ其資格ヲ限定シテ居ルデアリマス、其結果ト致シマシテ富豪ノ一部及地
主是ヨリ外ニ國會議員ヲ投票スルコロノ投票權ヲ持ツ者ハナイト云ウテモ宜イノデア
ル、其結果トシテ此少數ナル投票權ヲ有スルコロノ者ハ政權ヲ握ッテ居ルコロノ閣
族及官僚等ガ自由自在ニ之ヲ左右スルヤウニ出來テ居ルデアアル、即チ此少數ナル選
舉權ト云フモノハ權勢ノ下ニ羅致シ易イノデアアル、又利祿ノ下ニ誘惑シ易イノデアリマ
ス、權勢ノ下ニ羅致シ易ク、利祿ヲ以テ誘惑シ易イコロノ此少數ノ選舉民タルモノハ
常ニ此閣族ガ間接若クハ直接ニ其投票ヲ左右シテ居ルノデアアル、一縣ニ於テ知事ノ向
背ニ依ッテモ其代議士ノ數ニ多大ノ影響ヲ來スト云フコトハ吾々ガ目撃シテ居ルコロノ
アル、小ナル官吏、地方ノ一ノ長官ニ過ギナイトコロノモノヲ使喚致シマシテモ既ニ其影
響ヲ選舉場裡ニ感ズルノデアアル、今日政權ノ中心ヲ握ッテ居ルコロノ閣族ガ此不備ナ
ル選舉法ノ缺點ニ乘ジテ、神聖ナル選舉場裡ニ餘毒ヲ逞クシテ居ルコロノコトハ明カナ
ル事實デアリマス、故ニ彼等閣族ハ皆ニ政權ヲ掌握シテ居ルノミナラズ、又力能ク國會
ノ死命ヲ制シテ居ルノデアアル、憲法政治ノ下ニアリマシテ力能ク國會ノ死命ヲ制スルコロ
ノ者ハ是等ノ者ニ政權ガ歸セスシテ誰ニ政權ガ歸スルデアリマセウ、彼等ガ傲然トシテ
天下ヲ左右シテ居ルノハ實ニ此ノ如キ國會ノ死命ヲ制スル力ヲ持ッテ居ルメデアリマ
ス、元來諸君ガ日夜奔走シテ居ルノハ何ノメデアアルカト言ヘバ、憲法政治ノ本義ヲ貫
徹スルメデアラウト思フ、大臣ニナリタイメデアハナイ、憲法政治ノ本義ヲ貫徹スルメ
ニ諸君ガ御盡力ニナッテ居ルノデアラウト思フ、然ラバ憲法政治ノ本義ハ何デアアルカト言
ヘバ民意ヲ代表スル國會ノ組織ニアルト言ハナケレバナラス、民意ヲ代表スル國會ノ組
織ノ其根本ハ何デアアルカト言フナラバ、國會ヲ組織スル分子即チ議員ヲ製造スルコロ
ノ其選舉法ニアルト言ハナケレバナラス、即チ選舉法ハ憲政ノ根元デアリマス、憲政ノ根
元タル此選舉法ハ今我國ハ如何ナル狀態ニアリマスルカ、總人口五千万ヲ有スルコロ
ノ此帝國ニ於テ重大ナル參政權ヲ有シテ居ルモノハ僅々百六十萬人ニ過ギナイ、帝國
ノ男子ニシテ此提出シタル普通選舉法ヲ施行スル時ニ於テハ少クモ一千万人ノ選舉
有權者ヲ得ルデアラウト信ズルノデアアル、此一千万人ノ獨立男子ガ當然憲政治下ニ於
テ投票權ヲ有スルコロノコトハ當然ナル權利者ナルノデアアル、然ルニ現行ノ選舉法ガ
不公平ニモ一千万人ノ中僅々百六十萬人ニシカ其投票權ヲ與ヘナイノデアアル、十ノ中
一、六シカ投票權ヲ與ヘズシテ、他ノ八、四ハ悉ク政治ノ圈外ニ除却シテ居ルノデアリ
マス、十ノ中僅ニ一、六シカ代表シナイトコロノ今日ノ國會ヲ指シテ諸君ハ何レノ所ニ
民意代表ノ實ヲ求メルノデアリマス、此ノ如キ組織ニ出來タル國會ニ向ッテ完全ナル
憲法政治ヲ希望スルノハ既ニ無理ナ註文デアアル、故ニ今日ニ於テハ須ク憲政ノ根元
タル選舉權ヲ擴張シテサウシテ偏頗不法極マル所ノ此制限ヲ撤回シマシテ廣汎ナル國
民代表ノ下ニ選舉權ヲ改正スルコロノ實ニ政弊惡政ニ依ッテ起ルトコロノ淵源ニ
向ッテ大ナル斧鉞ヲ加ヘル一大妙案ナリト信ジテ居ルノデアリマス、近頃英國ニ於キマシ

テハ婦人參政權ノ運動ガ盛ンニ行ハレテ居リマシテ、英國ノ大政治家ハ既ニ之ニ贊同
ノ意ヲ明カニ表シテ居ル總理大臣「アスキス」ノ如キモ亦婦人ニ參政權ヲ與フルコトニ同
意ナリト稱シテ居ルノデアアル、私ハ極ク近キ將來ニ英國憲法史上ニ一大進化ヲ見ルデ
アラウト私ハ信ズルノデアリマス、然ルニ願ミテ我國ヲ見マスルト如何デアリマス、婦人
ハ愚カ一千万人ヲ算ヘルコロノ堂々タル有聲男子ガ悉ク政治圈外ニ放逐セラレテ全ク
國政ニ與ルコトヲ得ナイト云フ憐レナ有様デアアル、之ヲ指サシテ東洋ノ立憲國ト云フガ、
然レドモ私ハ其實ヲ見ナイノデアリマス、併ナガラ時運ハ漸々進歩シテ居ッテ大ニ吾々ノ主
張モ或ル一部ヲ動カシタルコトヲ確ニ信ズルノデアリマス、故ニ私ハ本案提出者ノ一人ト
致シマシテ諸君ガ此重大ナル法案ニ對シテ慎重ニ御審議アラントラ希望シマス
○菅原傳君 本案ハ議長指名九名ノ特別委員ニ付託セラレシコトヲ希望シマス
○議長(長谷場純孝君) 議長指名九名ノ特別委員ニ付託スルコロニ云フニ御異議アリ
マセヌカ

〔異議ナシト呼フ者アリ〕
○議長(長谷場純孝君) 御異議ナイト認メマスカラ其通り決シマス、日程第三十
七、三十八ノ兩案ハ關聯セル議案ニシテ、且提出者同一ナルニ依リ、一括シテ議題ニ
供スルコトニ御異議ハアリマセヌカ
〔異議ナシト呼フ者アリ〕

○議長(長谷場純孝君) 御異議ハナイト認メマスカラ、地租條例中改正法律案、
明治四十一年法律第三十七號中改正法律案ヲ一括シテ議題ト致シマス、提出者大
西五一郎君

第三十七 地租條例中改正法律案(大西五一郎君提
出) 第一讀會

第三十八 明治四十一年法律第三十七號中改正法律
案(大西五一郎君提出) 第一讀會

地租條例中改正法律案

地租條例中左ノ通改正ス
第一條第一項中「宅地地價百分ノ二箇半」ヲ「百分ノ二箇」ニ改ム

附則
本法ハ明治四十五年度分ヨリ之ヲ適用ス

明治四十一年法律第三十七號中改正法律案

明治四十一年法律第三十七號中左ノ通改正ス

第一條第一號及第二號ヲ左ノ如ク改ム

一 北海道、府縣(沖繩縣ヲ除ク)、沖繩縣ノ區及町村
附加稅ノミヲ課スルトキ 宅地地租百分ノ十六、二五
田畑地租百分ノ三十二

段別割ノミヲ課スルトキ 一段步ニ付 其ノ他ノ土地地租百分ノ二十七
每地目平均金四十錢

附加税及段別割ヲ併課スル場合ニ於テハ段別割ノ總額ハ其ノ地目ノ地租額ノ宅地ニ在リテハ百分ノ十六、二五、田畑地租ニ在リテハ百分ノ三十二、其ノ他ノ土地ニ在リテハ百分ノ二十七ト附加税額トノ差額ヲ超ユルコトヲ得ス

二 其ノ他ノ公共團體

附加税ノミヲ課スルトキ

宅地地租百分ノ十一、二五
田畑地租百分ノ二十一

其ノ他ノ土地地租百分ノ十八

段別割ノミヲ課スルトキ 一段歩ニ付 毎地目平均金四十錢
附加税及段別割ヲ併課スル場合ニ於テハ段別割ノ總額ハ其ノ地目ノ地租額ノ宅地ニ在リテハ百分ノ十一、二五、田畑地租ニ在リテハ百分ノ二十一、其ノ他ノ土地ニ在リテハ百分ノ十八ト附加額トノ差額ヲ超ユルコトヲ得ス

附則

本法ハ明治四十五年度分ヨリ之ヲ適用ス

(大西五一郎君登壇)

○大西五一郎君 本案提出ノ理由ヲ聊茲ニ陳述致シマス、又言ヒマスルコトハ爲政上ノ論難ヲ致スノテハゴザイマセヌカラ言ハサレバ、事數字ニ係リテ居リマスカラ實ニ無味乾燥デゴザイマス、甚ダ御迷惑デゴザイマセウガ暫時御清聴ヲ願ヒマス、地租條例中ノ改正法律案ノ要ハ即チ地租條例中ノ第一條其中ニ地租百分ノ二箇半トゴザイマスノヲ百分ノ二箇ト改正致シタイト云フノガ要義デゴザイマス、之ヲ實施スルトキハ明治四十五年度ヨリ適用ヲ致ス、全ク其趣意デゴザイマス、之ヲ數字上カラ申シテ見マス、即チ昨議會ニ於テ四十四年度ニ實施致シマスルコトニナツテ居ル宅地地價修正額ノ概算、之ニ依リテ今日數ヘテ見マスレバ、市街宅地ノ地價ガ二億八千二百四十八萬四千五百八十四圓トナツテ居リマス、サウシテ市部ニアリマスル名稱ハ郡村宅地トゴザイマスノガ二百二十一萬二千二百二十八圓、是ノ合計ガ二億八千四百六十九萬四千八百七十二圓、之ニ對シマスルコトノ即チ二箇半ノ地租ガ七百一十一萬七千三百七十圓餘ニナツテ居リマス、而シテ郡部ニ於テアリマスルコトノ郡部デゴザイマス、ケレドモ名稱ハ市街宅地ニナツテ居リマス、ソレガ三千三百四十八萬二千四百七十一圓、郡村ノ宅地地價ニ於テハ三億二千四百七十八萬九千八百八十圓、此郡部ノ地價合計三億五千八百三十七萬二千三百八十一圓、之ニ對シマスル百分ノ二箇五、是ノ地租額ガ八百九十五萬六千八百八十八圓トナツテ居リマス、此地地租額ヲ合計致シマスレバ一千六百七十四萬四千七百七十七圓トナツテ居リマス、是ガ今日即チ行ヒツ、アルトコロノ宅地地價修正法ニ依リテコトノ地價格ノ概算デゴザイマス、而シテ同修正法ノ第三條ニ依リマシテ所謂此制限ヲ置イタルトコロノ即チ超過致シテ居ルコトノ地價額市部ノコトコロデ市街宅地ガ四千六百六十八萬四千三百九圓、又市部ニゴザイマシテ名稱ノ郡村宅地ガ八十二萬二千二百四十二圓、是ノ合計ガ四千七百五十五萬五千五百五十一圓、是ガ御承知ノ如ク十八倍止メテアリマス、其以上ノ即チ地價額ニナツテ居ルノデゴザイマス、郡部ニ於テハ即チ郡部ニゴザイマスノデ、名稱ハ市街宅地ニナツテ居リマス、其地價

ガ二百五十九萬五千五百二十圓、郡村宅地地價ガ二千六百三萬九千五百四十九圓、郡部ノ方デ合計ガ二千八百六十三萬五千六百九十九圓、之ヲ總計致シマスル七千六百十四萬一千六百二十圓トナツテ居リマス、之ヲシテ制限外ニ止メナシテ又地租トシテ如何ニナルカト申シマスレバ、其數七千六百何某ニ對シテ二箇ヲ乘ケマスレバ、一百九十九萬三千五百四十圓ト云フモノハ公平ニ修正ヲ行ハナカッタメニ是ダケノ地租ガ減シテ居ルト云フ譯ニナルノデゴザイマス、之ヲシテ茲ニ二箇半トゴザイマスノヲ、二箇ト致シマスル市部ニ於テ曩キニ申シタ如ク二億八千四百六十九萬四千八百十圓、之ニ對シテ百分ノ二箇ト致シマスレバ、五百六十九萬三千八百九十六圓、郡部ニ於テ宅地地價ノ計ガ三億五千八百二十七萬二千三百八十一圓、之ヲ百分ノ二箇ト致シマスレバ、七百一十六萬五千四百四十五圓ト云フモノニナリマス、サウシテ之ヲ合セマスルト即チ一千二百八十五萬九千三百四十一圓トナル、左様致シマスレバ既ニ今日修正額ニ依リマシテ徵收ヲ致ストコロノ地租額、ソレヨリ減シマスル高ハ二百一十一萬四千八百三十六圓ヲ減ズルヤウナ計算ニナリマス、尙又是カラ以前市街ノ宅地或ハ郡村宅地ト申シマスルノモ非常特別稅ナルモノヲ入レナカッタコトノモノデアリマスガ、是等ハ申上テマセヌデモ疾ニ御諒知ノコト、思ヒマスカラ、今此處デハ申上テマセヌ、右様ノ次第デゴザイマスガ故ニ、事數字ニ互ツテ居リマス、且又二箇半トゴザイマス半ノトコロヲ取ルニ付テス様ナル金高ニ相成リマス譯合、全ク此二箇半ト申シマスルノ二箇ト致シタイトコロノ趣意ハ昨年當議會ニ於テ決定致シタイトコロノ田租、畑租ト申シマスルモノ即チ之ニ非常特別稅ナルモノヲ附加致シマス、即チ以前ハ百分ノ二箇半トゴザイマシタノヲ二ヲ加ヘテ五分五厘トナシタ、其三中カラ八厘ヲ減シテ居リマスカラ之ヲ二箇ト致シマシテ其率ヲ以テ非常特別稅ニ對シマシテ此減シマシタイトコロノ歩合ハ二分六厘ハ毛六何某ト云フ數字ニナツテ參リマス、ソレニ依リテ全ク今般此案ヲ提出致シマシタ、數字ニ於テハ聊モ違フテ居ラヌノデゴザイマス、斯様ニシテ其率ヲ合セマスルト今日二箇ト致シマシタイトコロデハ漸クニ致シテ五萬圓程シカ違ハヌ計算ニナツテ居リマス、以上ハ全ク地租條例ノ改正デゴザイマシテ、ソレニ要スルコトノ計算デゴザイマス、而シテ尙一ツノ案モ同一提出者デゴザイマスル故ニ、便宜ノ上ニ於キマシテ法律三十七號ノ改正ノ要ヲ述ベマス、是ハ全ク此大體ノ地租條例ヲ改正致シマスルニ付キマシテ、地方ニ於キマスルコトノ財源此割テ減シマスルナラバ如何デゴザイマセウカト存ジマスル、之ヲ杞憂致シマシテ今日ノ徵收シツ、ゴザイマスル所謂地租ニ於キマシテハ百分ノ十三ト云フコトヲ地方稅ノ方ノ制限ニ致シテ居リマス、之ヲ致シマシテ百分ノ十六、二五ト云フコトニ變ヘテ居リマスノデ、此高ニ依リマスレバ、今日ノ徵收シテ居ルコトノ地租ハ減シテ參リマシテモ、地方ノ財源ニ於キマシテハ聊モ變リハナイトコロノ案ニナツテ居リマスノデ、之ヲ實施致シマスルコトハ四十五年ヨリ實施ヲ致スト云フコトニ致シテ居リマス、右二案ノ如ク茲ニ提出ヲ致シマシテ其理由ハ數字上右ノ如クニ相成リマスノデゴザイマスカラ、クドク、申上ゲル必要モゴザイマスマイカラ、ドウカ十分ナル御審議ヲシテ此案ノ通過シマスルヤウニ願ヒマスル次第デゴザイマス、長ラク申述ベマシテ甚ダ恐縮デス

○菅原傳君 此二案ヲ一括シテ、議長九名ノ特別委員ニ付託セラレシコトヲ望ミマス

○議長(長谷場純孝君) 二案ヲ一括シテ、議長指名ノ特別委員九名付託ニ御異議ハアリマセヌカ

〔異議ナシ異議ナシ〕ト呼フ者アリ
○議長(長谷場純孝君) 御異議ガナケレバ其通り決シマス、日程第三十九、明治四十四年法律第三十七號中改正法律案ノ第一讀會ヲ開キ、議案ノ朗讀ハ省略致シマス、提出者熊本壽人君

第三十九 明治四十一年法律第三十七號中改正法律案 第一讀會

明治四十一年法律第三十七號中改正法律案
第一條北海道、府縣其ノ他ノ公共團體ハ左ノ制限以内ノ地租附加税又ハ段別割ヲ課スルノ外土地ニ對シテ課税スルコトヲ得ス

一 北海道、府縣(沖繩縣ヲ除ク)、沖繩縣ノ區及町村
附加税ノミヲ課スルトキ 宅地地租百分ノ十三

段別割ノミヲ課スルトキ 一段歩ニ付 每地目平均金四十錢

附加税及段別割ヲ併課スル場合ニ於テハ段別割ノ總額ハ其ノ地目ノ地租額宅地ニ在リテハ百分ノ十三、其ノ他ノ土地ニ在リテハ百分ノ三十二ト附加税額トノ差額ヲ超ユルコトヲ得ス

二 其ノ他ノ公共團體
附加税ノミヲ課スルトキ 宅地地租百分ノ九

段別割ノミヲ課スルトキ 一段歩ニ付 每地目平均金四十錢

附加税及段別割ヲ併課スル場合ニ於テハ段別割ノ總額ハ其ノ地目ノ地租額宅地ニ在リテハ百分ノ九、其ノ他ノ土地ニ在リテハ百分ノ二十一ト附加税額トノ差額ヲ超ユルコトヲ得ス

附則

本法ハ明治四十四年度分ヨリ之ヲ適用ス

(熊本壽人君登壇)

○熊本壽人君 御疲レノ際ニ甚ダ清聴ヲ煩ハシマスケレドモ、私ノ此提出致シマシタ案ハ唯今大西君ノ御出シナシタ案ト名目ハ同シテゴザイマス、ケレドモ内容ハ大變ナ違ヒテゴザイマス、簡單ニ提出致シマシタコト理由ヲ陳述致シマス、昨年田畑ニ限リマシテ地租ノ輕減ヲセラレマシタ結果、地方税町村税ノ制限率ニ二様ノ率ヲ用井ルコトニナッタコトハ諸君ノ御承知ノ通りデゴザイマス、從來ハ御承知ノ通り一率デゴザイマシテ、非常特別税ノ外ノ通常ノ地租ニ對シテ府縣稅ノ方ニハ百分ノ六十ヲ課シ、其他公共團體ノ方ニハ百分ノ四十ヲ課シテアッタデゴザイマス、簡單ナル一率ノ下ニ是ガ出來テ居ッタデゴザイマス、所ガ昨年度地租輕減ノ結果及非常特別税ト云フ名稱ヲ廢止サレマシタ結果ト致シマシテ、遂ニ其三様ノ率トナリマシテ、御承知ノ通り田地ニ對シテハ百分ノ十三、田畑ニ對シテハ百分ノ三十二、ソレカラ其他ノ土地ニ付テハ百分ノ二十八ト府縣稅ニ付テハ右三様ノ率ヲ用井テアルノデゴザイマス、其他公共團體ノ方モ三様ニナッテ居ルノデゴザイマス、ソレガタメニ市町村役場ガ之ヲ賦課徵收スル上ニ付テ

大變ナ手数料費用トヲ要シテ居ルノデゴザイマス、御承知ノ通り三様ノ内容ヲ作リマシテ、三様ノ率ヲソレノ乗ゼネバナラヌト云フコトニナリマスノデ、甚シキニ至ッテハ市町村役場ハ是ガタメニ一人ノ書記ヲ要シ、或ハ臨時雇ヲ置カナケレバ其手数料ニ困ルト云フコトニナリマシタノデ、全ク此率ガ長クナッタノト、モウ一ツハ二様ニナリマシタ三率ヲ用井ルト云フコトニナリマシタノデ、市町村役場ハ其計算ト其整理等ニ於テ大變ナ面倒ニナッテ居ルノデゴザイマス、之ヲシテ以前ノヤウニ一率ニナスコトガ出來得マシナラバ、最モ結構デゴザイマスガ、今日デハ御承知ノ通り宅地ノ如キモノハ地價修正ノ結果トシテ、或ハ又非常特別税ノ結果トシテ、大變ナ負擔ヲ増シテ居ルノデゴザイマスカラ、之ヲ一率ニスルト云フコトハ稍、ドウモ其當ラ缺キハシナイカト思フノデゴザイマス、右様ノ事情デゴザイマスカラ田地ニ對シテハ百分ノ十三、其他ノ土地ニ付テハ百分ノ三十二ト云フ此二率ニシタイト云フ考デゴザイマス、其他ノ土地ニ付テハ百分ノ三十二ト云フ此二率ニツナサウト云フ考デゴザイマス、又公共團體ノ方デモ其意味ニ於テ百分ノ九ト百分ノ二十一ト云フ此兩率ニ止メタイト云フ考デゴザイマス、斯ク致シマシタナラバ市町村役場ハ餘程其手数料省クコトガ出來ルコトグラウト私ハ信ジテ居ルノデゴザイマス、全體此制限率ノコトハ聊モ御承知ノ通り國庫ニ關係スルコトナク致シマシテ、其地方ノ財源ニ關係スルコトデゴザイマス、ケレドモ、此稅率ヲ長クシ、或ハ稅率ヲ多クシタガタメニ、殆ド全國ノ一萬幾千ノ市町村役場ニ於テハ非常ノ手数料經費トヲ拂ッテ居ル次第デゴザイマスカラ、之ヲ率ヲ少ク致シマシタナラバ、餘程此手数料省キ、費用ヲ省クコトガ出來ルト信ジテ居ルノデゴザイマス、何卒御審議ノ上ニ通過スルヤウニ御贊同アラシコトヲ切ニ希望スル次第デゴザイマス

○菅原傳君 本案ハ前條ノ委員ト同シ委員ニ付託スルコトヲ希望致シマス

○議長(長谷場純孝君) 本案ハ前日日程ノ三十七、三十八ト同一委員ニ付託スルト云フコトニ御異議ハアリマセヌカ

(〔異議ナシ異議ナシ〕ト呼フ者アリ)

○議長(長谷場純孝君) 御異議ガナケレバ其通り決シマス、日程第四十八提出者ヨリ延期ノ申出ガアリマス、許可シテ御異議ハアリマセヌカ

(〔異議ナシ異議ナシ〕ト呼フ者アリ)

○議長(長谷場純孝君) 御異議ガナケレバ延期致シマス、日程第四十一、水道條例中改正法律案ノ第一讀會ノ續ヲ開キマス、委員長粕谷義三君

第四十一 水道條例中改正法律案(粕谷義三君外二名提出)

○粕谷義三君 簡單デゴザイマスカラ當席ヨリ報告ヲ致シマス、水道條例中改正法律案ノ委員會ノ結果ヲ御報告申上ケマス、本案ノ要旨ハ既ニ過日ノ本會議ノトキニ提出者ヨリ詳細ナル御説明ガゴザイマシテ、諸君ノ御承知ノ通りデゴザイマス、大體此議案ニ付キマシテハ政府ニ於テモ其主旨ニ同意ヲ表シテ居リマス、唯此第二條ノ改正ガ餘リニ廣過ギルト云フヤウナ嫌ヒガアルト云フコトガ委員會ニ於ケルコト問題デアッタノデ、結局委員會ニ於ケルマシテハ審議討論ノ末ニ御手許ニ配付ニナッテ居リマスルヤウナ風ニ此第二條ヲ修正致シマシタデアリマス、而シテ此原案ノ全部ニ互リマシテ各條ニ

瓦ッテ修正ニナツテ居リマスガ、其修正ハ悉ク皆此第二條ノ修正ノ結果デゴザイマス、此修正ニ對シテハ政府モ全然同意ヲ表シテ居ル次第デゴザイマスカラ、何卒本會ニ於キマシテモ速ニ御決議アラシコトヲ希望致シマス

○菅原傳君 御議論ガアリマセヌケレバ二讀會ヲ開キ、三讀會ヲ省略シテ委員長報告通リ決定セラレンコトヲ望ミマス

(「異議ナシ」ト呼フ者アリ)

○議長(長谷場純孝君) 直ニ二讀會ヲ開キ、省略シテ委員長報告通リト云フコトニ御異議アリマセヌカ

(「異議ナシ」ト呼フ者アリ)

○議長(長谷場純孝君) 御異議ナケレバ直ニ二讀會ヲ開キ議案全部ヲ議題ニ供シマス

水道條例中改正法律案

確定議

(「異議ナシ」ト呼フ者アリ)

○議長(長谷場純孝君) 御異議ナイト認メマスカラ本案ハ三讀會ヲ省略シテ委員長報告通リ確定致シマス——日程第四十二、刑ノ執行猶豫ニ關スル法律案、委員長根本正君——理事古賀庸藏君

第四十二 刑ノ執行猶豫ニ關スル法律案 第一讀會ノ續(委員長)

(「理事デハナイ」ト呼フ者アリ)

○鈴木力君 此場合發言ヲ御許ヲ願ヒマス

○議長(長谷場純孝君) 議事ノ進行上ニ付テマス

○鈴木力君 固ヨリ——議事ノ進行上ト云ヒマシタラ間違フカ知レマセヌガ、速記録ノコトニ付テ申シタイ——ヤハリ議事ノ進行ニ關係シテ居ルガ如ク考ヘル

○議長(長谷場純孝君) 速記録ノコトナラ後トデ……

○鈴木力君 ヤハリ議事ノ進行上間違ッタコトヲ傳ヘラレテハ發言ノ順序ニ關係シマス——大シタコトデハゴザイマセヌ

○議長(長谷場純孝君) イヤ、速記録ニ間違ッタコトガ若シ書イテアッタシテ、ソレヲ訂正ニナルト云フガ如キコトナラ後トテ願ヒマス

○鈴木力君 自分ノコトデハアリマセヌデスガ、訂正スル意味デハナイ、ヤハリ進行ニ關係シテ居ルデス、ドウゾチヨット發言ヲ御許シニナツデハ……

○古賀庸藏君 刑ノ執行猶豫ニ關スル委員長ハ間違ッテ居リマス、古賀庸藏ガ即委員長デス

○議長(長谷場純孝君) 委員長、古賀庸藏君

○古賀庸藏君 本案ハ頗ル簡單ナ案デゴザイマスカラ、此席ヨリ委員會ノ經過及ヒ結果ヲ御報告致シマス(鈴木力君「謹聽、大ニ謹聽」ト呼フ)本案ハ既ニ提出者木村君ヨリ提出ノ際ニ詳細ニ案ノ内容ヲ述ベラレマシタカラ既ニ諸君ノ御承知デゴザイマス、然ルニ此案ハ三十八年第七十號ノ法律ニ依ッテ刑ノ執行ヲ受ケマシテ、此期間ヲ無事通過致シタ者モ尙刑餘ノ名ガ戸籍ノ上ニ存シテ居ルト云フ次第、尙現刑法ノ第二十七條ニ依ッテ言渡サレタモノハ全然刑名ガ消ヘマルスモノデ、之ト同様ニ致シタイト云フ

ノ案デゴザイマス、所ガ政府當局ニ於テハ大ニ反對ヲ唱ヘ、其反對ノ理由ハ未ダ執行中ニアル、若クハ確定セザルモノデアレバ免ニ角、既ニ確定ヲ致シテ執行ヲ終ヘタ者ニ向ッテ此ノ如キ案ヲ提出サレルノハ不同意デアル、斯ウ云フ趣意デゴザイマス、所ガ委員ハ尙之ヲ反覆審査致シマシタ結果、諸君ノ御手許ニ配付致シマシタ如ク多數——多數デハナイ、文字ニ修正ヲ加ヘテ全會一致ヲ以チマシテ院議可決致スベキモノト決定致シマシタ、左様御承知下サイ

○菅原傳君 本案ハ直ニ二讀會ヲ開キ、三讀會ヲ省略シテ委員長報告通リ決定セラレンコトヲ望ミマス

○議長(長谷場純孝君) 直ニ二讀會ヲ開キ、三讀會ヲ省略シテ委員長報告通リ御異議アリマセヌカ

(「異議ナシ」ト呼フ者アリ)

○議長(長谷場純孝君) 御異議ナイト認メマスカラ直ニ二讀會ヲ開キ、議案全部ヲ議題ニ供シマス

刑ノ執行猶豫ニ關スル法律案 確定議

(「異議ナシ」ト呼フ者アリ)

○議長(長谷場純孝君) 御異議ナイト認メマスカラ本案ハ第三讀會ヲ省略シ、委員長報告ノ通り確定致シマス、日程第四十三、第四十四ハ同一委員ニ付託セラレタル議案ナルニ依リ、併セテ委員長ヨリ報告致シマス、委員長小河源一君

第四十三 輕便鐵道法中改正法律案(吉植庄一郎君外二名提出) 第一讀會ノ續(委員長)

鐵道敷設法中改正法律案(吉田虎之助君外二名提出)

第四十四 第一讀會ノ續(委員長)

○小河源一君 此席ヨリ委員會ノ經過及結果ヲ報告致シマス、輕便鐵道法中改正法律案ハ其第五條中ニ私設鐵道ノ下ニ第九條第二項ト云フ文字ヲ加ヘルノデゴザイマス、是ハ私設鐵道法ニ依リマスレバ株券ノ十分ノ一拂込ヲ致シマスレバ市場で賣買ヲスルコトガ出來ルコトニナツテ居ル、然ルニ輕便鐵道法ニ其便法ガアリマセヌ故ニ、之ト同一ノ便法ヲ與ヘルト云フ案デアリマス、誠ニ簡單明瞭ナ案デゴザイマス、而シテ此但書ニ於キマシテハ他ノ會社ガ輕便鐵道ノ兼業ヲ致ス場合ハ之ヲ取除ケト致シテ居ルノデアアル、政府ニ於キマシテハ此案ニ全然同意ヲ致シテ居ルノデゴザイマス、ソレ故ニ委員會ニ於キマシテ全會一致ヲ以テ原案通り決議致シタ次第デゴザイマス、次ハ鐵道敷設法中改正法律案デゴザイマス、是ハ大津ヨリ敦賀ニ到ル鐵道ヲ豫定線ニ加ヘルト云フ案デゴザイマス、此案ニ付キマシテハ政府ニ於キマシテハ固ヨリ希望ノ線デアル、ソレ故若州井ノ口ニ至ルマデハ既ニ豫想線中ニモ加ヘテアルヤウナ次第デアル、併ナガラ今日ノ場合之ニ同意ヲ表スルト云フコトハ出來ナイ、ケレドモ希望ノ線デアルト云フコトニナツテ居ルノデゴザイマス、尤モ是ハ鐵道院ノ方ノ答辯デアリマス、陸軍ノ方ノ政府委員ヨリノ答辯ニ依リマスルト陸軍ノ目ヨリ見レバ頗ル必要ヲ感ズル線デアル、併ナガラ今日ノ經濟其他ノコトヲ考ヘテ、陸軍ノ側カラ他ヲ差措イテモ之ヲ速ニセネバナラヌト云フ程ノ必要ハ

アリシテ答辯ヲ致ス譯ニハ行カナイ、併ナガラ希望ノ線アルト云フ答辯アリマス、委員會ニ於キマシテモ是全會一致ヲ以テ可決致シマシタ次第デゴザイマス

○吉植庄一郎君 此場合チヨット政府委員ニ希望ヲ述ベテ置キマス、四十二ノ輕便鐵道法中改正案ニ付テハ過日委員會ニ於テモ政府ハ全然同意ノ旨ヲ言明サレマシタガ、此程衆議院ヨリ貴族院ヘ送付シタル政友——議員提出——衆議院提出ノ鐵道ニ關係スル案ハ大分否決ノ運命ヲ持テ居ルヤウデアリマス、ソレハドウモ十把一束ト、サウ云フヤウナコトノナイヤウ、政府モ賛成ノ意思ヲ能ク貴族院ニ徹底セシメテ、本案ハ確實ニ通過スルヤウ御盡力アラシコトヲ希望致シマス、之ニ對スル政府委員ノ答辯ヲ聞イテ置キタイ

（政府委員工學博士平井晴二郎君登壇）

○政府委員（工學博士平井晴二郎君） 御答致シマス、唯今吉植君カラ御尋ニナリマシタノハ日程第四十三ノ輕便鐵道法中改正法律案ニ付テノコト……

（全體「ト呼フ者アリ」）

○吉植庄一郎君 輕便鐵道改正ノコトニ付テ……

○政府委員（工學博士平井晴二郎君） 輕便鐵道法改正案ニ付キマシテハ過日委員會ニ於テ政府委員ガ御答ヲ致シマシタ如ク、政府モ此改正ヲ必要ト認メテ居ル次第デゴザイマス、故ニ貴族院ニ於キマシテモ通過スルヤウニ努メル積リデゴザイマス

○菅原傳君 日程四十三、四十四兩案トモ直ニ二讀會ヲ開キ、三讀會ヲ省略シテ委員長報告通リ決定セラレンコトヲ望ミマス

○議長（長谷場純孝君） 兩案トモ別ニ反對賛成ノ通告モアリマセヌ、因テ兩案共一括シテ議題ト致シタイト思ヒマス、御異議アリマセヌカ

（「異議ナシ」ト呼フ者アリ）

○議長（長谷場純孝君） 御異議ナケレバ即チ兩案一括シテ直ニ二讀會ヲ開キ、三讀會ヲ省略シテ委員長報告通リ御異議アリマセヌカ

輕便鐵道法中改正法律案

鐵道敷設法中改正法律案

確定議
確定議

（「異議ナシ」ト呼フ者アリ）

○議長（長谷場純孝君） 御異議ナシト認メマスカラ三讀會ヲ省略シテ兩案トモ是ニテ確定致シマス

○鈴木力君 議事進行ノ上ニ付テ一言發言ヲ御許ヲ願ヒマス（時間ガナイ）ト呼フ者アリ（時間ガナイコトヲ承知ノ上發言ヒマスカラ頗ル簡單デス

○議長（長谷場純孝君） 議事進行ノコトナレバ一言仰シヤテ、若シ議事進行ニ關係ガナケレバ、議長カラ差止メマス

○鈴木力君 ア、承知ノ上デ——答辯ヲ要求シタル議員ノ發言ニ對シテ時々間違ッタル速記録ガ出ル、ソレモ植字ノ修正デ宜シイケレドモ、今日ノ問題ハ實ニ議會對政府ノ折衝問題ノ場合ニ於テ、議長カ村松恆一郎君ノ質問ニ對シテ政府委員ガ未ダ答辯スルトモセトモ言明セザルカノ如ク吾々カラ見受ケルトキニ當テ答辯ノナイト云フ御宣告ニナッダノハ是ハ如何ナル理由デゴザイマシタラウカ、彼等ノ無能ヲ憫シテ議長之ヲ救ヒタ

ルカ、但是ハ將來ノ心得ニナルコトデゴザイマス

（「ヒヤ／＼」ト呼フ者アリ）

○議長（長谷場純孝君） 御答致シマス……

○鈴木力君 モウ一ツアリマス同ク第一ニ本年ノ議會——議會ノトキニ當テ議長ハ本員ノ質問ニ對シテ桂總理大臣等ガ無言ニシテ苦笑シタル場合ニ於テ議長ノ仰シヤッタノハ答辯ノナイノハ答辯ガ盡キタモノト思ヒマスカラ云フ御言葉アリマス、茲ニ至ッテハ取りヤウニ依リマシテハ、内閣大臣等ガ答辯ガ盡キタデアルト云フ宣告同然デアリマスカラ、質問者ハ殆ド面目ヲ施シタル都合デ、ソレマデ言ハレテ追窮スル程ノ逆意ハアリマセヌカラ、默シテ引込シタ次第デアリマス、然ルニ速記録ニハ質問ガ盡キタ思ヒマスカラ云フコトニ書イデアリマス、斯ルコトハ實ニ微妙ナルコトデアリマシテ、而シテ大ナル關係ヲ持ツノデアリマス、此等ニ付テモ前後二ツ揃ヒマシタルニ依ッテ、議長ノ今日マデノ議場ニ對スル御差配ハ感服シテ居リマスケレドモ、今日ノ村松君ノ簡單ナル質問ニ對スル答辯ハ果シテ質問ニ答辯ノナイト云フコトヲ御認メニナッダノハドウ云フ都合デゴザイマシタラウカ、是ハ全ク議事進行上ニ關係スルコトデ、議長ノ腹藏ナキ御答ヲ願ヒマス

○議長（長谷場純孝君） 御答致シマス、第一ハ御承知ノ如ク内閣員モ揃ッテ居リマス、答辯ハシナイト云フコトデアリマシタカラ、答辯ハナイト言ウタ、ソレカラ第二ノ御問ニ對シテハ此衆議院規則ノ百四十一條ニ依ッテ御申出ヲ望ミマス——既ニ今日ハ六時ニナリマシタカラ今日ハ延會致シマス——諸般ノ報告ヲ致シマス

一議員ヨリ提出セラレタル議案左ノ如シ

准三后北畠親房公墳墓修理並南朝三帝ノ宮址賀名生皇居ヲ特別保護建造物編入ニ關スル建議案

提出者 東 武君

井上傳作朗君

鐵道建設ニ關スル建議案

提出者 白石 義郎君

根本 正君

朝鮮穀物及穀粉ノ移入稅ニ關スル建議案

提出者 柏原 左源太君

朝鮮穀物及穀粉ノ移入稅ニ關スル建議案

提出者 大内 暢三君

一卜部喜太郎君ヨリ行政裁判所評定官免官ニ關スル質問主意書ヲ提出セラレタリ

一水品平右衛門君ヨリ鐵道改善ニ關スル質問主意書ヲ提出セラレタリ

○議長（長谷場純孝君） 議長ニ委託セラレタル委員ノ氏名ハ公報ヲ以テ御通知致シ、次回ノ議事日程ハ公報ヲ以テ御通知致シマス、今日ハ是デ散會

午後五時五十六分散會

衆議院議事速記第十八號正誤

頁	段	行	誤	正	誤	正
三四八	下	三一	海軍ノ權力	陸軍ノ權力	同	下
三四九	下	七	官線ノ豫定線	幹線ノ豫定線	同	下
			官線ノ豫定線	幹線ノ豫定線	同	下